

令和5・6年度 文部科学省「人権教育研究指定校事業」指定

人権教育公開研究会

研究紀要

研究主題

自分のよさを認め、
他者と協働しながら生きる「心」を育む人権教育
～児童の人権意識を高めるために～



令和6年11月29日

流山市立流山小学校

はじめに

本校は、令和4年度に創立150周年記念式典を実施し、今年度153年目を迎える歴史と伝統のある学校です。本校の教育活動は、地域の方々からの支援や地域の方々との交流によって特色あるものとなってきました。

本校は、低学年における生活科での高齢者との関わりをはじめとして、中学年から高学年の総合的な学習の時間での、国際理解教育や障害者及び高齢者福祉、ジェンダーに関わることなど、人権課題に関する学習が系統的に行われていたという素地がありました。

本校は文部科学省より令和5年度および令和6年度人権教育研究推進事業の指定を受けました。このことにより、人権教育についてさらに深く掘り下げて研究する機会を与えていただきました。

本年度は、研究主題を「自分のよさを認め、他者と協働しながら生きる「心」を育む人権教育～児童の人権意識を高めるために～」とし、これまで積み重ねてきたカリキュラムをさらに整理し、より充実した人権教育が行われるよう指導計画を見直しました。

研究を進めるにあたり、千葉県教育庁教育振興部児童生徒安全課人権教育班指導主事兼班長 井上明人 様、指導主事 石橋一展 様、東葛飾教育事務所指導室指導主事 染野洋子 様、北山佳祐 様に人権教育の概要や授業づくりのために必要なことやさらに個別の人権課題についてなど、本校の研究の方向性を定めることをご指導いただきました。また、人権教育の目標に迫るための授業はどうあるべきか継続してご指導いただきましたこと感謝申し上げます。

人権教育を充実させるためには、私達教員がまず人権意識を高めなければなりません。これまでの研究を踏まえ、今後より充実した教育活動ができるよう、さらに研究を深め、広げていきたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、このような研究の場をいただき、研究の推進に多大なるご指導ご鞭撻を賜りました流山市教育委員会教育長 吉田瑞穂 様をはじめ、流山市教育委員会指導課長 郡司美紀 様、同指導主事 鳴瀬史佳 様、溝井隆之 様、桐生貴博 様、坂本真弓 様及び関係機関の皆様に厚く御礼申し上げます。

流山市立流山小学校

校長 安藤 あゆみ

目 次

はじめに

1 研究の概要

研究主題・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
校内での取り組み・・・・・・・・・・	5
研究の経過(年間)・・・・・・・・・・	6
めざす児童像・・・・・・・・・・	7

2 研究の記録

各学年の実践記録・成果と課題（1学年～6学年・特別支援学級）	
人権アンケート結果・分析・まとめ	
人権教育年間計画	

3 学習指導案

1 学年・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1 年—1
2 学年・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2 年—1
3 学年・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3 年—1
4 学年・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4 年—1
5 学年・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5 年—1
6 学年・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6 年—1

令和5・6年度ご指導いただいた先生方 本校職員

I 研究の概要

流山の流山対馬小山流

流山の流山対馬小山流

流山の流山対馬小山流

流山の流山対馬小山流

流山の流山対馬小山流

流山の流山対馬小山流

流山の流山対馬小山流

流山の流山対馬小山流

流山の流山対馬小山流

流山の流山対馬小山流

流山の流山対馬小山流

流山の流山対馬小山流

流山の流山対馬小山流

流山の流山対馬小山流

流山の流山対馬小山流

流山の流山対馬小山流

流山の流山対馬小山流

流山の流山対馬小山流

流山の流山対馬小山流

流山の流山対馬小山流

流山の流山対馬小山流

流山の流山対馬小山流

流山の流山対馬小山流

流山の流山対馬小山流

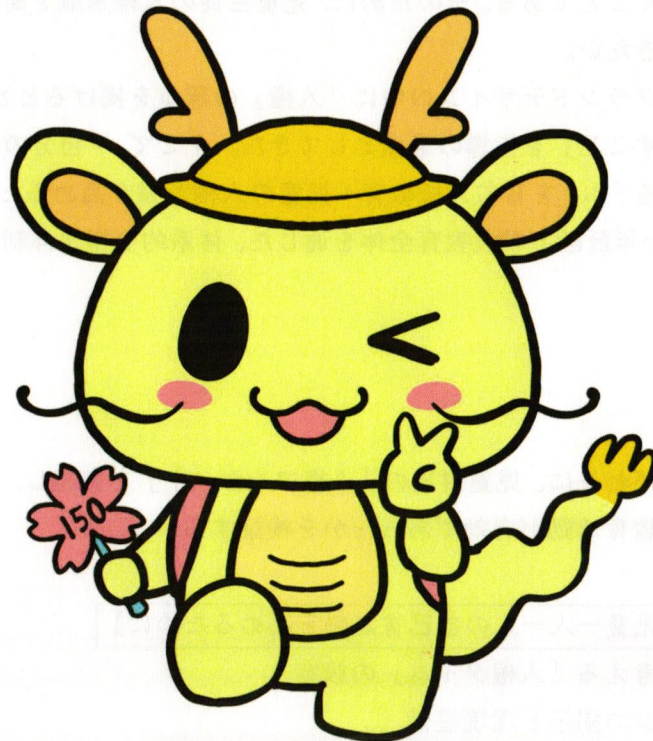
流山の流山対馬小山流

流山の流山対馬小山流

流山の流山対馬小山流

流山の流山対馬小山流

流山の流山対馬小山流



©流山市立流山小学校

令和5・6年度 流山小学校研究の概要

1. 研究主題

自分のよさを認め、他者と協働しながら生きる「心」を育む人権教育

～児童の人権意識を高めるために～

2. 研究主題設定の理由

県下小中学校及び高等学校、特別支援学校では、全体計画・年間指導計画がすべての学校で策定されており、学校における人権教育の取組について、概ね定着が図られている。

今後の課題としては、自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができるようになり、それが様々な場面等で具体的な態度や行動に現れるようにするための実行性のある計画に高めていくことである。そのために、児童生徒の人権意識を高める先進的な取組を県全体に広めていきたい。

本校では、学校グランドデザインの中に「人権」の尊重を掲げるとともに、「一人一人の特性を認め、生かすこと」を指導の重点としてきた。そこで、『自分のよさを認め、他者と協働しながら生きる「心」を育む人権教育～児童の人権意識を高めるために～』を調査研究のテーマとし、2か年計画で学校教育全体を通じた、体系的な指導体制の確立について研究していく。

3. 研究の概要

年度初めと年度終わりに、児童対象の「人権アンケート」を実施し、子どもの変容を見取ること、以下の教育活動が有効であったかを検証する。

研究の視点1 【児童一人一人の自己肯定感を高めるために】

ア 自分について考える「人権タイム」の設定

イ 人権スローガンの掲示と環境整備

研究の視点2 【多様な人々と協働する力を育むために】

ウ 6年間を見通した年間指導計画の作成

エ 地域や外部の人材を活用した体験的活動等の実施

4. 研究の内容等

(1) 研究の内容

一人一人の人権を守っていくということは、個人の持つ特性を認め合い、互いに尊重しながら生きていくことである。そして、そのような人権意識を育むために必要なことは、まず自分自身が自分の良さを認め、自己肯定感を高めることであり、多様な他者と関わり合い、交流する機会を持つことで、他者を知ることが重要であると考え、本研究では、キーワードを「自己から他者へ」とし、まず自分自身の長所に着目させ、自己肯定感を高めていくことを人権教育の土台とする。そして、「人権課題」についての学習等、多様な他者について知る機会を設け、一人一人が異なることや、異なる人間同士でよりよい社会をつくるためにどうすべきかを考えられるよう、研究を進めていく。

本研究は、【児童一人一人の自己肯定感を高めるために】と【多様な人々と協働する力を育むために】の二つの視点で実践する。

《研究の仮説》

- ①自分の良さに気づき、自分を大切にすることが育てば、自分とは異なる他者の特性も認められるようになり、人権意識の高揚につながるだろう。
- ②地域や外部の方々など、異年齢の方との交流活動や体験活動を行うことで、自分の良さに気づききっかけとなり、また他者との関わりについて考えを深めることができるだろう。
- ③各学年で焦点化した「人権課題」に取り組む「学習プログラム（年間指導計画）」を作成することで、6年間を通して段階的に視野を広げながら、人権についての学びを深めていくことができるだろう。

(2) 実施方法

研究の視点Ⅰ 【児童一人一人の自己肯定感を高めるために】

ア 自分について考える「人権タイム」の設定

- ・ 毎週金曜日の朝のモジュール（ぐんぐんタイム）の中で「人権タイム」を設定し、自分自身や他者との関わりについて振り返る時間を作る。このことで、自分自身について考え、自分の良さや強みに気付けるようにする。

イ 人権スローガンの掲示と環境整備

- ・ 1年間、全校で人権について考えるための共通スローガンを設定し、掲示物として校内に掲げる。全職員、全児童が常にこのワードを念頭に置きながら、生活していくことを目指す。
- ・ 学校内に人権コーナーを設置し、人権教育に関わる様々な資料や図書を展示する。

研究の視点 2 【多様な人々と協働する力を育むために】

ウ・エ 6 年間を見通した「学習プログラム（年間指導計画）」の作成

- ・ 発達段階やめざす児童像を踏まえながら、各学年の重点的「人権課題」を設定し、6 年間を見通した年間指導計画を作成する。各数科の教材を活用して、人権課題についての授業を行うことや、地域や外部の方々との交流を図りながら、体験的活動等を実施することで、人権課題についての理解を深めながら、多様な他者について知る機会とする。

【各学年の指導計画】

学年	めざす児童像	取り組む人権課題	体験活動
1 学年	友達と仲良くできる児童	高齢者① (教えていただく)	運動会玉入れ 児童とシニアの集い 昔あそびの会 (ふれあい体験)
2 学年	友達と助け合える児童	高齢者② (楽しんでいただく)	児童とシニアの集い (ふれあい体験)
3 学年	相手の話をよく聞き、自分の考えも伝えることができる児童	外国人	国際交流体験
4 学年	相手の立場になって考え、行動することができる児童	障害者	パラスポーツ体験 白杖体験、手話講座
5 学年	物事を正しく判断することができる児童	子ども	いじめ防止教室 認知症サポーター 養成講座
6 学年	人権尊重の立場で考え、身の周りで起こっている差別等に基づき、解決しようとする児童	性的指向、性自認 (同和問題、ハンセン病患者、北朝鮮当局による拉致問題等)	ジェンダー交流会 平和学習

(3) 検証・評価・普及

検証

児童を対象にしたアンケートを実施する。人権意識の高まりについて、年度当初と年度末で比較し、その変容を見取る。

〈アンケート項目〉

令和5年度は本校の人権教育目標を踏まえ、以下のように項目を設定した。

- 1、自分の気持ちを大切にしていますか。
- 2、自分の良いところがわかっていますか。
- 3、自分は「友達や周囲の人から大切にされている」と感じますか。
- 4、友達の気持ちを大切にしていますか。
- 5、友達や地域の人にじぶんからあいさつしていますか。
- 6、「友達や地域の人と楽しくかかわりたい」と思っていますか。
- 7、困っている人がいたとき、何かしてあげられますか。
- 8、いくつかの人権問題がどのようなものか、知っていますか。
- 9、いじめや差別を見たとき、それを止めるために行動できますか。

令和6年度は、5年度の反省を踏まえ以下のように項目を変更した。

- 7、下の中で説明できる人権問題がありますか？説明できるものを全て選びましょう。
 - ・子どもの人権（いじめ 体罰 など） ・お年寄りの人権（虐待 詐欺 など）
 - ・障がいのある人の人権（差別 利用できる施設など）
 - ・外国人に対する差別 ・病気の人への差別
 - ・性別の悩み ・住んでいる場所の差別
- 8、人がいじめをしている場面を見たとき、どのような行動をしたいと思いますか。
- 9、8のしつもんで「何もしない」を選んだ人に聞きます。どうしてそう思いますか。

評価

検証の内容により、評価を行う。

普及

令和6年度に公開授業を行い、人権についての取り組みを発信する。また、各学年で実施した学習内容とその効果については、資料としてまとめ、市内で共有していく。

5. 人権意識・自己肯定感の向上を目指した配慮、校内での取り組み

(1) 性の多様性への配慮

- ◇性の多様性に配慮し、体にかかわること以外では、職員が性別を区別することはしないよう職員で確認した。
- ◇運動会の徒競走、体育や集会時の整列は男女混合出席番号順とした。
- ◇通学時に児童が着用する安全帽の型を選択制とした。(従来は男子がキャップ型、女子はハット型と決まっていた。)

(2) 様々な多様性、児童の負担への配慮

◇体育座りの検討

座り方集会時などでは基本的には体育座りとし、状況や体調に合わせてあぐらや長座などでも良いことを児童に周知した。その場に合った座り方を自分で選択できるように指導していくことが大切であることを確認した。

- ◇教室の掲示物の位置や見出しのデザインを全学級で共通、固定化した。

(3) 主体的に学習に取り組む態度の育成、自己肯定感の向上

◇自主学習ノートコンテストの開催、作品データの共有

「流小自主学習ノートコンテスト」を開催した。(年間2回程度)

学年代表に選出された作品はPDFで児童がみられるようにTeamsで共有した。

◇主体的な家庭学習を目指して

従来は宿題を出した次の日に提出させていたが、中学年以上では児童の習い事などに配慮し、2～5日間程度の期間を設けることとした。低学年でも児童の裁量で量を調節することができるなど、個別最適化にも配慮した。週末には自主学習を設定する機会を増やし、児童が主体的に学習を進めることができるようにした。今後も、より主体的な家庭学習へと推進を図っていく。

◇書き込み式算数ワークの導入、タブレット学習ソフトの併用

従来は計算ドリルとノートで学習していたが、問題が書いてある書き込み式のワークを導入し、タブレット学習ソフト(ドリルパーク)を併用した。問題を書き写す負担が減ることで、学習の効率化や個別最適化につながった。

◇個別の配慮

板書をノートに写す負担が大きく、時間がかかってしまう児童は必ずしも学習問題を書かなくてもよい。板書を写すという作業よりも、自分の考えを書く時間の確保を優先し、児童の実態に合わせて個別の配慮を行うことを職員で確認した。

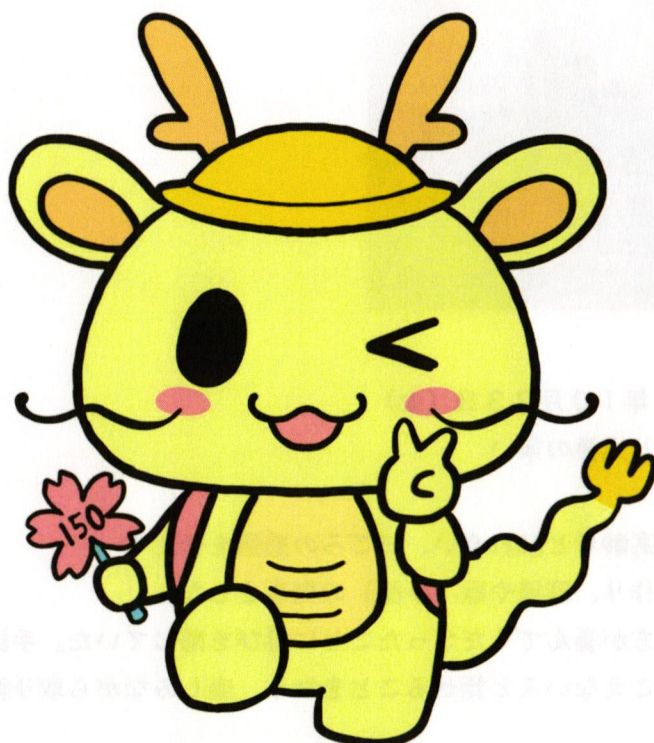
令和5年度 研究の経過（年間）

4月	食物アレルギー対応研修（エピペン） 救急救命講習会 校内研修（今年度の研究の方向性・主題の決定）
5月	校内研修（研究計画と研究の見通し・目指す児童像） 若年層研修オリエンテーション 人権教育理論研修（講師 東葛飾教育事務所 指導主事 染野洋子様）
6月	若年層研修（授業研究・協議会） 校内研修（指導案の形式・学力テストの分析について） 流教研 人権タイム開始、全校人権アンケート実施 第3回流小自主学習ノートコンテスト実施
7月	若年層研修（授業研究・協議会） いじめ防止研修（講師 流山市SL小園恵介様、流山市教育委員会 指導主事 石井章浩様） 不祥事根絶研修（講師 流山市教育委員会 管理主事 児島大介様） 不審者対応訓練
8月	特別支援研修会 流山市教育研究会講演会
9月	人権教育指導案検討会（講師 流山市教育委員会 指導主事 鳴瀬史佳様 桐生貴博様）
10月	校内研修（授業研分科会の流れについて） 若年層研修（授業研究・協議会）
11月	校内授業研究会（講師 流山市教育委員会 鳴瀬指導主事 桐生指導主事 東葛飾教育事務所 指導主事 染野洋子様） 中堅研授業研究会（講師 流山市教育委員会 指導主事 溝井隆之様） 若年層研修（授業研究・協議会） 流教研
12月	校内研修（学年研修のまとめ） 若年層研修（授業研究・協議会） 全校人権アンケート実施
1月	校内研修（自主学習コンテストについて） 若年層研修（授業研究・協議会）
2月	校内研修（次年度年間計画作成） 第4回流小自主学習ノートコンテスト実施 研究全体会（講師 東葛飾教育事務所 染野指導主事）
3月	校内研修（年間のまとめ・次年度に向けて）

令和6年度流山小学校「目指す児童像」

	重点目標	目指す児童像	具体的な手立て
低学年	○みんなのことを考え、仲良く助け合うこと	【1学年】 ・友達と仲良くできる児童	①興味を持って最後まで聞くようにさせる。具体的な場面から、言葉の例示を行い、丁寧な言葉で話すようにさせる。 ②学習の中にペアワークやグループワークを取り入れる。 ③体験的な活動を通して、友達と自分の違いを知る。 ④地域の高齢者と交流する場を設ける。
		【2学年】 ・友達と助け合える児童	①友達や地域の方の話を相づちを打ちながら聞くようにさせる。言葉の例示を行い、丁寧な言葉で話すようにさせる。 ②学習中にペアワークやグループワークを取り入れる。 ③体験的な学習や生活の場で児童同士で助け合う活動を通して、友達や地域の方と自分の違いを知る。 ④地域の方との交流する場を設ける。
中学年	○自分の考えを大切にしながら、相手の立場にも立って考え、行動することができること	【3学年】 ・相手の話をよく聞き、自分の考えも伝えることができる児童	①相づちを含めた話の聴き方、筋道を立てて話す話し方の指導をする。 ②ペアトーク、グループワーク、ミニ先生、主体的・協動的な活動を通して、互いを認め合い、教え合える人間関係づくりをする。 ③ソーシャルスキルトレーニングや出前授業等の体験的な学習を通して、相手の意見を意識し、違いがあることを理解する。 ④体験的な学習を通して得た知識や異文化を受け入れる素地を基に、自分と他者の違いを伝え合う活動をする。
		【4学年】 ・相手の立場になって考え、行動することができる児童	①相手の話を聞きながら考え、より詳しく理解しようとする聞き方を指導する。相手を褒める機会を設ける。 ②ペアトークやグループトークなど互いの考えを伝え合う場を設け、友達の意見を聞く機会を増やす。 ③ソーシャルスキルトレーニングなどを通し、相手と考えが異なっても安心して発言できる環境づくりを行う。 ④校舎を障がいを持った人の立場になって見て回り、危険な箇所や改善できるポイントを気付く活動をする。
高学年	○周囲の人と共に、より良く生きようとする態度や、身の周りの人権問題を解決しようとする実践的な行動力などを身に着けること	【5学年】 ・物事を正しく判断することができる児童	①自他の良さを認めて伝え合うことで、お互いを認め合う場面を作る。 ②周りの人とともにより良く生活するために学級全体での話し合い活動を通して、たくさんの友達の考えに触れる。 ③グループエンカウンターを取り入れ、仲間づくりの大切さを知る。 ④流山小学校の全校児童が楽しい学校生活を送れるようにいじめについて考え、いじめ防止啓発動画を作り全校生徒に発信する。
		【6学年】 人権尊重の立場で考え、身の周りで起こっている差別等に気づき、解決しようとする児童	①自他の相違や良さを認めて伝える場面を多く設定する。 ②人権を大切にしたい仲間づくりのために、グループ活動の多様化を図る。 ③体験活動や外部講師の講話を通して、様々な事例を学び、自分や友達の問題に目を向けていく。 ④人権の学習で考えたことについてポスターを作り、学校全体に発信をする。

2 研究の記録



©流山市立流山小学校

令和5年度1学年 実践記録

①日 時 令和5年10月17日(土)

講座名 運動会「ふれあい玉入れ」

講 師 地区社協 敬老会

目 的 運動会の種目の中で地域の高齢者とふれあう

内 容 地域の方の案内、呼びかけ、競技

反 応 地域で自分たちを見守ってくれている人がたくさんいることを知った。地域の方と一緒に活動ができて喜んでいた。



②日 時 令和5年10月23日(金)

講座名 シニアと児童の集い

講 師 敬老会

目 的 地域の高齢者と触れ合い、日ごろの感謝を伝える

内 容 装飾を作り、群読や歌(手話)の発表をした。

反 応 地域の方が喜んでくださったことに喜びを感じていた。手話での発表をして、耳の聞こえない人と話せることを知り、楽しみながら取り組んだ。



③日 時 令和5年12月7日(木)

講座名 昔遊びの会

講 師 地区社協

目 的 地域の高齢者と触れ合う中で、高齢者への理解を進めるとともに、尊敬の気持ちを高める。

内 容 こま・けん玉・羽子板・だるま落とし・おはじき・あやとり・めんこを教えてもらった。高齢者と接するときの注意点について学習をし、交流した。
お礼にプレゼントを作り渡した。

反 応 地域の方に積極的に話しかけ、昔遊びのコツを教えてもらおうと主体的な学びの姿があった。地域の方の技を見て、尊敬する気持ちが高まった。



令和5年度1学年 研究の成果と課題・授業研究会のまとめ

○成果

- ・人権ということを知るきっかけになり、多様な人がいることを知ることができた。
- ・ペアワークなど話し合いを授業の中で取り入れ、自由に発言する雰囲気が出てきた。
- ・話の聞き方や返し方を練習するよい機会だった。
- ・児童が地域の方の見守りを強く意識するようになった。

○課題

- ・人権について説明するとき、指導者側の言葉が難しい。
- ・人権について理解はしていても、実際の生活の場では言葉遣いなどがよくないことがある。

【授業研究会協議内容】

グッドポイント

- ・児童の主体的な活動の中で、授業が進んでいった。
- ・ペアワークが多く設定され、日ごろのペアトークの経験が学級内で話したり、書いたりする時の安心につながっている。子ども同士が肯定的な関わりができていた。
- ・運動会、児童とシニアの集いなどから、地域との関わりとして自然なかたちで高齢者が出てきている。
- ・課題を子ども自身が自分の身近なところで捉えている。
- ・交流の中で地域や高齢者を尊重する気持ちを養うことができた。

伸びしろポイント

- ・昔遊びの会だけでなく、子ども達が考えた昔遊びが名人になる方法を大切にしていきたい。
- ・生活科の学習としての課題と人権学習としての課題のバランスをどのようにしていくか考えていきたい。

【講師指導（流山市教育委員会 指導主事 鳴瀬 史佳先生）】

- ・先生の言動と環境づくりを日々意識してほしい。
席の工夫や、「さん」と呼び合うこと、休みの児童がいてもさっとペアワークになれる、話を聞くことの習慣化、など日々の関わり合いがよく出てきた。
- ・授業のつながりがよかった。昔遊び名人になりたい→高齢者に教わりたいと自然な流れだった。
- ・高齢者という福祉の観点であるが、～してあげるという感覚ではなく、地域の人のかかりたい、尊敬する感覚が子供たちの中に出ていた。
- ・地域の方との関わりを重ねて、今回の学習につながっている。今後も実体験を通して高齢者を理解させていってほしい。
- ・評価にも生活科の要素と人権の要素を入れていってほしい。

令和5年度2学年 実践記録

①日 時 令和5年10月20日(金)

講座名 「シニアと児童の集い」

講 師 敬老会

目 的 地域の方をもてなす経験を通して、地域への愛着を高める。

内 容 地域の方の案内、群読・ダンスの発表、プレゼント贈呈

反 応 地域の方と実際に触れあったり、声をかけてもらったりしたことで子どもたちは嬉しそうにしていた。練習やプレゼント作成の際は、地域の方に喜んでもらえるようにと一生懸命取り組んでいた。



②日 時 10月25日(水)、10月30日(月)

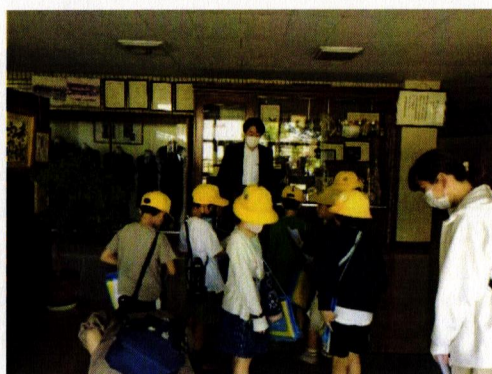
講座名 町たんけん

講 師 地域の商店や施設

目 的 自分たちの町にある店や施設を訪問して話を聞くことで、自分の暮らしに地域の人が関わっているということを感じる

内 容 商店や施設へ訪問して質問をする

反 応 様々な場所に自分たちだけで訪問して、質問したり見学したり興味を持って取り組んでいた。シニアの集いを見てくれた地域の方に出会った児童もいて嬉しそうにしていた。



令和5年度2学年 研究の成果と課題・授業研究会のまとめ

○成果

- ・グループ活動を多く取り入れたことで、児童同士で協力したり助け合ったりする姿が多くみられた。
- ・以前よりも地域への興味が増した。

○課題

- ・人権タイムや授業中のペアワーク、発表などを通して話を聞く態度を養ってきたが、まだ不十分な面が見られる。

【授業研究会協議内容】

◇グッドポイント

- ・動画や写真など、視覚による振り返りが多いのがよかった。
- ・1年次から地域の方と触れ合う経験を積み重ねが大事だと感じられた。

◇伸びしろポイント

- ・最後のまとめの「地域の人にどうかかわっていくか」という発問に戻る展開が難しかった。
- ・展開の順序に課題がある。
- ・子どもたちの発言をもっと掘り下げて、まわりに広げていく必要がある。
- ・地域のお祭りや防災訓練など、普段地域の行事に参加している経験を想起させ、授業の方につなげるとさらに意見が出てくるのではないかな。
- ・人権タイムの相槌などの取り組みをもう少し活かしていく必要がある。

【講師指導（流山市教育委員会 指導主事 鳴瀬 史佳先生）】

- ・シニアと児童の集いを振り返るところで、異年齢の人との交流をもとに、その時の心情を丁寧に振り返る時間になった。
- ・地域の人の気持ちを振り返る、という主語が自分でない話で、難しいかと思ったが、児童とシニアの集いの経験や動画などが効果的で、子どもたちは思いを想像しやすくなった。
- ・たくさんの気持ちのことばが出たのは、経験やICTの効果があった。
- ・児童とシニアの集いでおもてなしをして、喜んでもらったということを思い出して、さらに色々な人に喜んでもらえるように育てていこうという気持ちが養えた。
- ・地域の方という特定の人に対してだと、地域の人たちって自分たちにとってどんな人なんだろう、と考えられて、より地域に結びつくのではないかなと思う。
- ・最後の「これから地域の人たちにどのようにかかわっていききたいか」ということについては、ここで考えたかかわり方を実践、実体験できたらよりよい。

令和5年度3学年 実践記録

①日 時 令和5年9月14日(木)

講座名 「小学校人権教室～人権の花～」

講 師 流山市人権擁護委員・松戸市人権擁護委員 様

目 的 人権擁護委員の方を招き、小学校人権教室『プレゼント』の出前授業を行い、いじめについて考えることをきっかけとし、一人ひとりには人権があることを知る。

内 容 小学校人権教室授業「プレゼント」

反 応 ぐんぐんタイムで人権について触れていたもので、その知識と合わせながら、動画視聴したり講師の話を聞いたりできていた。いじめがいけないことと再認識できた。

②日 時 令和5年9月21日(木) 22日(金)

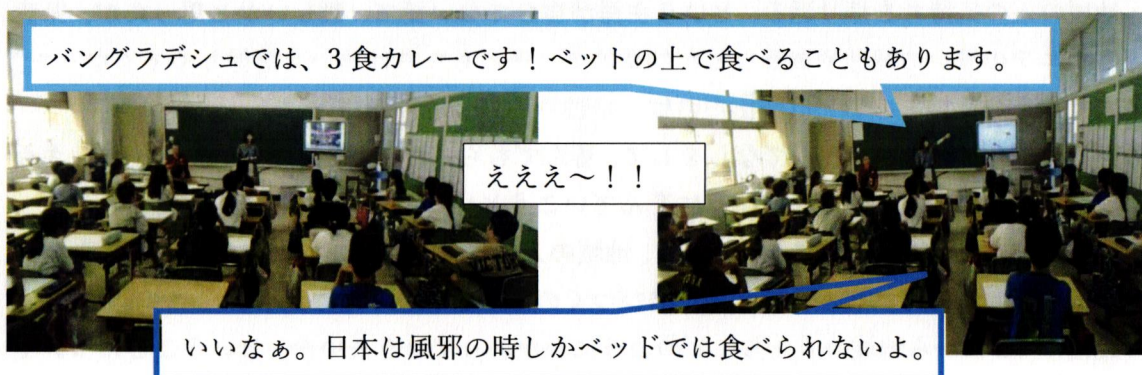
講座名 「世界の国々と日本を比べてみよう～バングラデシュ編～」

講 師 Sunday Morning Factory株式会社 Haruulala 石出 けい 様/石出 猛 様

目 的 バングラデシュでの生活や文化を学び、外国の文化への興味関心を高めるとともに、当たり前がないことに気づく。

内 容 バングラデシュで活動されている方をゲストティーチャーとして招き、日本との相違点を知る。

反 応 バングラデシュの生活に素直に驚いていた。外国は日本と違うところがたくさんあるだけでなく、似ているところもあるのだという視点で話を聞き、メモを取っていた。当たり前がないことに気づき、外国への興味が高まり、視野が広がった。外国の食文化から家庭の味へ結びつけて、家庭ごとの調味料や材料の違いから自分事として考えることができた。



③日 時 令和5年10月17日(火)

講座名 国際交流会出前授業

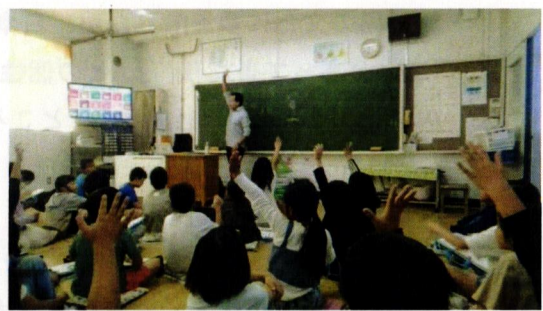
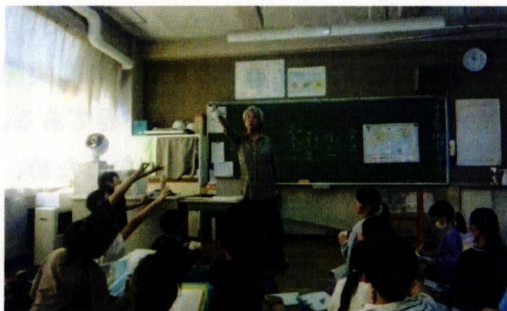
講師 国際交流協会 小宮会長、小谷様、鈴木様、佐藤様、西山様

7か国の講師【ペルー、ラトビア、台湾、イギリス、ブルキナファソ、ジャマイカ】

目的 国際理解交流会で各国の文化をゲストティーチャーから学び、疑問に感じたことは質問する等の体験活動を通して、受け身ではなく相互の関係を築く楽しさを学ぶ。

内容 国際理解交流会で各国の文化をゲストティーチャーから文化や生活の様子を学び、日本との相違点にも気づく。

反応 7か国すべての講話を聞いたがるほど、外国についての興味関心が高まっており、メモをたくさん取って真剣に話を聞く姿が見られた。バングラデシュで得た知識を基に、さらに視野が広がり、外国と外国との相違点を比べることができた。



④日 時 令和5年11月(各クラスにて)

講座名 身近な方への聴いてみよう～保護者とイヴォンヌ先生にインタビュー～

講師 ALT イヴォンヌ先生

外国にルーツのある保護者 3名(イギリス、タイ、ベトナム)

目的 世界から見た日本を学ぶ

内容 身近な外国人であるALTや外国にルーツのある保護者の方へのインタビューを通して、日本の生活や文化等は、外国からどのように見られているのか、来日した人はどんなことに困っているのかを考え、外国の人々との関わり方について考える。

反応 困り感について、「確かにそうかも。」「わかる。」「自分も同じように困る。」と言った反応を見せて、話を聞いていた。イヴォンヌ先生には、総合で調べているテーマに合わせて質問している児童もいた。

令和5年度3学年 研究の成果と課題・授業研究会のまとめ

○成果

- ・国ごとに違いがあって当たり前であり、それぞれの文化はみな尊重（大事に）されるべきものであると気づくことができた。さらに、その知識を生かしてそれぞれの国に違いや良さがあるように、自分や友達にも大切な個性があることに気づき、自己分析することができた。
- ・個性を認め合い、多様性を認め合える素地ができ、人の意見などへ否定が少なくなった。
- ・レーダーチャートを活用し、視覚的に自己分析した結果、自己理解、さらに他者理解への関心も高まった。自分の良さを見つけ、できないところも誰かが助けてくれたり、互いに補い合ったりできると気づき、実感できた児童が多かった。

○課題

- ・諸外国の文化に多く触れたが、日本独自の伝統文化にまでは広げ深められなかった。
- ・「違いがあって当たり前」「どの個性も大切」という意識は高まってきたが、それを実際の生活に生かせる（行動する）ところまで成長させるには、まだまだ時間が必要である。
- ・視覚的に有効であったレーダーチャートを作成する際、ICTスキルが必要になるため、事前指導に若干時間を要する。
- ・クラスの実態に応じて、授業展開を柔軟に変えることも必要である。担任との関係性や学級の雰囲気大きく左右される内容なので、日々の学級経営など1学期からの積み重ねが大切である。

【授業研究会協議内容】

◇グッドポイント

- ・チャートは視覚的にわかりやすいし、訂正も容易にできる。チャート作りに至るまでの、タブレット操作の指導ができていた。
- ・担任のレーダーチャート見本で、補い合えるという点に気づくことができ、低い部分があっても大丈夫だと安心感が得られる。
- ・自分のレーダーチャートが手元にあり、3人組だと、みんなでタブレット画面を見ることができた。分析の際は、苦手は教わり、得意は教えるという意識づけができた。さらに、グループから個人活動に戻すことで、自分事として考える時間になっていた。
- ・机間指導の担任の声かけ（ほめていた）や、児童を「さん」付けて呼んでいて、人権的な配慮があった。さらに、発言しやすい学級の雰囲気、発表を聞くときの切り替えができていた。
- ・子どもたちの意見に対して「どうしたらいいか。」と聞き返していて、考えを広げ深める一助となっていた。
- ・全体共有の際に、図と表にまとめることで、視覚的にわかりやすくなり、違いを認めることが、外国の文化を受け入れることにつながっている。
- ・導入の世界のじゃんけんが盛り上がり、ふり返りも楽しそうに行っていた。

◇伸びしろポイント

- ・ ICT 技術に個人差がある。チャート作りに時間がかかり、その後の話し合いが十分にできなかったため、チャート入力とチャート分析の時間を分けてもよかったのではないか。
- ・ チャートがすべて6の児童がいると、話し合いの方向性が難しいのではないか。
- ・ 「助けられる人」で挙手できない人を、どうフォローするか。また、自分事化する難しさがある。「〇〇ができない」→「しかたない」という児童を大切にしたい。
- ・ 指示出しは、静かにさせてからの方がよい。

【講師指導（流山市教育委員会 指導主事 桐生 貴博先生）】

- ・ レーダーチャートでは、自分が友だちを補える部分になるから、「スペシャル」について掘り下げてよかった。
- ・ ICT のよさは、「やり直せる」「データに残せる」「見せる」「送る」「ふり返る」などがあり、レーダーチャートは、「パッと見てわかる」ので、効果的であった。
- ・ 着地点、そのための各教科を融合させた計画も、よかった。
- ・ 自分事として考えることが大切であり、本気で考えるためにも体験活動（ゲストティーチャー）を取り入れるのはよかった。
- ・ ICT は、「〇年生では、…ができる。」とスキル表にできるとよい。
- ・ 学習のふり返りについては、子どもに視点を与えることが大切である。「わたがしや」で、「わかったこと（教えたことが伝わったか）」「楽しかったこと（知的興味）」「がんばったこと（粘り強さ）」「知りたいこと（学びの調整力）」「やってみたいこと（学びの調整力）」で書かせるとよい。

令和5年度4学年 実践記録

①日 時 令和5年11月1日、15日（水）

講座名 車いす体験、白杖体験

目 的 車いすや白杖を使ったり、補助したりする中で車いすや白杖を利用している人たちの困り感に共感する。

内 容 コース設定し、自分で車いすを操作したり、補助したりする。

反 応 距離感が掴めないことや、急な角や小さな段差でも困ることに気づいていた。



②日 時 令和5年11月22日（水）

講座名 あすチャレ！スクール

講 師 根木 慎志 様

目 的 パラスポーツの体験や講話を通して障がいへの理解を深めチャレンジする心を育てる。

内 容 車いすバスケの体験、講話

反 応 体験を行った児童も応援していた児童もとてもいい表情で話を聞いていた。講話を聞く姿勢もよく、一人ひとりがしっかりと学ぼうと取り組んでいた。



令和5年度4学年 研究の成果と課題・授業研究会のまとめ

○成果

- ・白杖や車いすを体験することで、生活の中での危険などを実感することができた。
- ・障がいを持つ人も自分たちと同じように生活していることや、障がいを持っていても困らないように様々な対策があることが理解できた。
- ・自分たちが行動することで、障がいを持つ人の困り感を減らせることに気づき、実践することができた。

○課題

- ・障がいを持つ人に対し、「かわいそう」や「〇〇をしてあげる」などの上から目線の考えを持つ児童が見られたため、人権スローガンと結び付けられるよう指導していく。

【授業研究会協議内容】

◇グッドポイント

- ・指示が明確で児童の活動が活発であった。
- ・グループ分けがしやすいように板書が工夫されていた。
- ・写真などで前時を想起させることで自力解決の場面がスムーズに行われた。

◇伸びしろポイント

- ・ICTを利用して他のグループに意見を見やすくすることもできたのではないか。
- ・模造紙を黒板に貼るのではなく、床に置くなどしてもっと児童に見やすい方法を取っても良かった。
- ・自力解決の場面を短く区切り、後半の時間を確保していきたい。

【講師指導（流山市教育委員会 指導主事 桐生 貴博先生）】

- ・児童の意見を交流させるには「ホワイトボード」などのアプリも有効である。
- ・学習の振り返りを「わかったこと」などの視点を持って書かせることで児童の評価や授業の反省に生かすことができる。
- ・違いを認め合うことは大変難しく、自分の問題として捉えていくために多くの体験活動が必要になる。
- ・時間配分を考え、前半をリズムよく展開し、後半児童が考え、意見を交流する時間を多くとれるとよい。
- ・単元の最後を市役所に意見を出すなど、児童の考えを生活に生かすような場面があるとよい。

令和5年度5学年 実践記録

①日 時 令和5年7月3日(月)

講座名 いじめ防止教室

講 師 流山市教育委員会 指導課 スクールロイヤー 小園 恵介 様

目 的 法律上のいじめの定義について知り、様々な事例からどのように対応したらよいかを学ぶ。

内 容 講演

反 応 いじめはされた側がいじめだと感じたらいじめになってしまうということを知り、相手に対して嫌なことをしてはいけないということを学んだ。

②日 時 令和5年10月31日(火)

講座名 「子どもと親のサポートセンター」について

講 師 子どもと親のサポートセンター 研究指導主事 笠井 明子 様

目 的 千葉県でのいじめや不登校の実態について知り、いじめや不登校に対する考えを深め、いじめをなくそうとする意識を高める。

内 容 講演

反 応 いじめや不登校の件数を知り、驚く児童が多かった。リフレーミング(ネガティブな表現の見方を変えること)を知り、相手が傷つかない表現を意欲的に探すことができた。



③日 時 令和5年11～12月

講座名 学んだことを伝えるために、動画を作成しよう。

目的 学んだことを他学年の児童に伝え、流山小学校からいじめをなくすための動画を作成する。

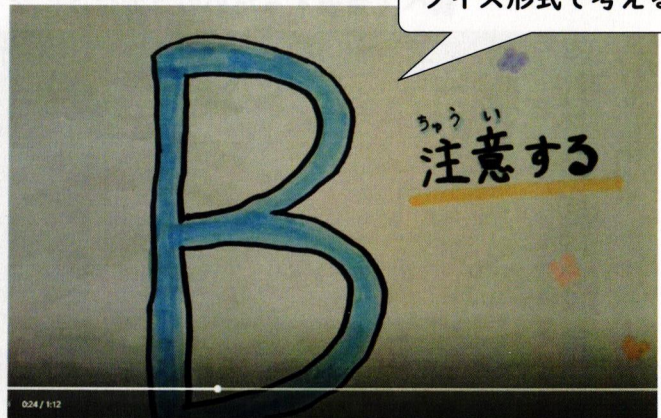
内容 動画撮影

反応 身近にあることがいじめにつながってしまうことを改めて実感することができた。些細なことでも、相手が嫌だと感じたらいじめになってしまうことを深く理解した。どうしたら他学年の児童に伝わるか繰り返し考えることができた。

実際にありそうな
場面を再現。



クイズ形式で考える。



被害者の視点から物事を
とらえる。



どうすればよいか、見ている
児童に投げかける。



④日 時 令和6年2月2日

講座名 子ども人権条約について

講 師 千葉県ユニセフ協会

目 的 子どもを守るために子ども人権条約というものがあることを知る。日本や世界でその条約が守られて、子どもたちが守られていることがわかる。

内 容 講演

反 応 日本も第二次世界大戦後や東日本大震災の際にもユニセフから支援を受けたことを知り、今まであまり関係がなかったものだと思っていたが、実は身近なものだということが分かった。世界には水も自由に使えず、自分たちと同じ年の子が労働させられている国もあることに驚いていた。子ども人権条約について今後、調べて発表するための意欲付けになった。



令和5年度5学年 研究の成果と課題・授業研究会のまとめ

○成果

- ・ いじめの基礎知識を生かし、自他を尊重することができてきた。
- ・ 身の回りにいじめが潜んでいることを理解し、考えて行動することができてきた。
- ・ 人権に関する知識や意識を得ることができた。

○課題

- ・ いじめ問題を、自分事として捉え深く考えることが難しい。
- ・ ゴールの児童像が曖昧で、人権タイムを含めて児童に「やらされている感」があった。
- ・ 「人権意識を高める」から授業を組み立てたため、無理が生じた。
- ・ 総合的な学習の時間だけではなく、他教科でも人権を絡め、教科横断的に人権意識を高められるようにしていきたい。
- ・ 授業クラスの実態を把握できないまま授業公開だったので、人権意識の変容が分かりづらかった。

【授業研究会協議内容】

◇グッドポイント

- ・ 児童の発言の板書に出席番号があり、学習への参加意欲がもてた。
- ・ 学習したことを表現できる単元計画になっていた。
- ・ 自力思考、集団思考の時間が適切だった。
- ・ 立場を分けることによって、様々な角度から考えることができた。

◇伸びしろポイント

- ・ 立場ごとに学習内容をまとめさせてもよかった。
- ・ 立場からの視点、その立場に対する視点など、考える内容を明確にさせたい。
- ・ 班ごとの話し合いは司会、記録など役割をもたせたい。

【講師指導（東葛飾教育事務所 指導主事 染野 洋子 様）】

- ・ 内容を盛り込みすぎていたので、本時を2時間に分けるとよい。
- ・ 「いじめ」を自分事として捉えられるとよい。
- ・ 自主性はあったが、主体性は見られなかった。
- ・ 子どもの権利を学習してから、いじめについて学習すると入りやすい。

令和5年度6学年 実践記録

①日 時 令和5年10月19日(木)

講座名 「西原さつきさん講演会～自分らしく生きる～」

講 師 西原さつき 様

目 的 自身の生き方を伝え、自分らしく生きることの大切さを考える。

内 容 講話

反 応 西原さんの生き方について共感していた。質疑応答などを通して、LGBTQ についての知識を深め、自分自身の生き方について考えるきっかけとなった。



②日 時 令和5年12月14日(木)

講座名 「人権教室」

講 師 流山市人権擁護委員

目 的 同和問題、ハンセン病について知る。

内 容 パワーポイントを用いた授業

反 応 初めて「ハンセン病」「同和」という言葉を聞く児童も多かった。児童にとっては難しい内容であったが、熱心に聞いていた。

令和5年度6学年 研究の成果と課題・授業研究会のまとめ

○成果

- ・様々な人権課題を知ることによって視野が広がり、人の気持ちを想像したり、自分の生き方と重ね合わせたりすることができた。
- ・ゲストティーチャーの講話や授業から、人権課題を身近な問題として考えることができた。
- ・特にLGBTQに関しては、「多様な性のあり方」について共感し、「その人らしさ」「自分らしさ」を認めながら生活していることを感じた。

○課題

- ・同和問題・ハンセン病・拉致問題・性自認と、取り組む人権課題が多く時間の確保が難しかった。さらに拉致問題に関しては、考えの押しつけにならないよう授業の発問に特に気をつけた。
- ・周りの人とより良く生活しようとする態度は身についてきているものの、課題解決のための実践力までには至らなかった。

【授業研究会協議内容】

◇グッドポイント

- ・見通しを持たせる手立てが導入の場面でされていたので、児童の思考の流れがスムーズであった。
- ・授業の雰囲気がよく、先生の声掛けがプラスの言葉であったのがよかった。
- ・授業の流れがわかりやすい板書であった。
- ・身近なテーマを取り上げていたので意見がでやすく、考えが深まった。

◇伸びしろポイント

- ・5つのテーマに選び方をもっと精選した方がよかった。導入場面ででてきた、名前や座り方も授業に生かすこともできた。イエス、ノークエスチョンではなくて、どうしたらよいかの問いが適切であった。
- ・どうやってまとめていくかが難しかった。まとめ前のワークシートの問いが学習問題とずれがあったのではないか。

【講師指導（東葛飾教育事務所 指導主事 染野 洋子先生）】

- ・マイノリティの方にやってあげようという、上目線からの視点がないように配慮する必要がある。
- ・学習問題からの授業の流れがわかりやすく手本になる流れだった。

令和5年度特別支援学級 実践記録

①日 時 令和5年12月15日(金)

講座名 「サトシンさんの絵本読みまショー」

講 師 絵本作家 サトシン 様

目 的 絵本の読み聞かせを通して、多様性や自分らしさについて考えること。

内 容 読み聞かせ、歌

反 応 作家さん本人の登場で児童の関心も高く、集中して話を聞くことができた。

「わたしはあかねこ」の絵本を通じて、自分らしくいることの大切さに気付いた児童もいた。



②日 時 令和5年12月4日(月)

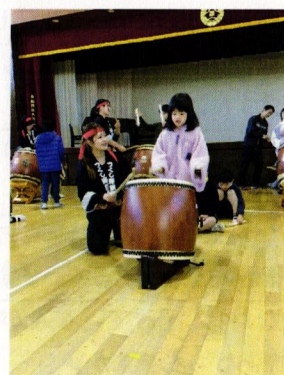
講座名 「和太鼓出前授業」

講 師 つくしの麒麟太鼓 の皆様

目 的 講師演奏を聴くことで目標を持ち、和太鼓の演奏を通して自己表現をすること。

内 容 講師演奏、和太鼓演奏体験

反 応 講師演奏を聴くことで児童は憧れを持った様子だった。演奏体験はのびのびと行い、自己を表現できている児童が非常に多かった。友だちと一緒に演奏する姿や、準備や片づけを協力して行う姿も見られた。



③日 時 令和5年12月11日(月)

講座名 「体ほぐし運動・モルック出前授業」

講 師 日本モルック協会 酒井 千晶 様

目 的 姿勢保持に必要な力を知ること。友だちと一緒にモルックを楽しむこと。

内 容 スラックレールを使用した体ほぐし運動、モルック

反 応 スラックレールの上に乗って歩いたり、寝転んだりすると、普段落ち着きのない児童も静かにその場に留まることができた。モルックは用具を並べたり、点数の計算をしたりする活動を通して普段かかわりの少ない相手とも関わることもできた。



令和5年度 人権アンケート結果概要・分析

	質 問	結果概要
1	あなたは、「自分の気持ち」を大切にしていますか。	肯定的な回答(とてもそう思う・そう思う)が92%から94%と、2%増加した。
2	あなたは、「自分の良いところ」がわかっていますか。	肯定的な回答が78%から77%と、1%減少した。
3	あなたは、自分が「友達や周りの人から大切にされているな」と感じますか。	肯定的な回答が84%から87%と、3%増加した。
4	あなたは、「友達の気持ち」を大切にしていますか。	肯定的な回答が97%から99%と、2%増加した。
5	あなたは、友だちや地域の人に、自分からあいさつしていますか。	肯定的な回答が84%から85%と、1%増加した。
6	あなたは、「友達や地域の人と、楽しくかわりたい」と思っていますか。	肯定的な回答が92%から94%と、2%増加した。
7	あなたは、困っている人がいたとき、何かしてあげられますか。	肯定的な回答が89%から94%と、5%増加した。
8	あなたは、下のようなたくさんの人権問題がどんなものか、知っていますか。	肯定的な回答が42%から61%と、19%増加した。
9	あなたは、いじめや、友だちが嫌な気持ちになっているところを見たとき、それを止めるために、行動できますか。	肯定的な回答が82%から86%と、4%増加した。

【分析】

①ほぼすべての質問で、肯定的な回答が増加した。特に質問8の知識的側面では著しい増加が見られた。「人権タイム」や各学年の「外部講師を招いた体験活動」などの実践の成果であり、「児童の人権意識の基礎」を築くことができたと考えられる。

②質問1・4・6・7の質問は6月の時点で90%程度の児童が肯定的な回答であり、自分や友達を大切にしている児童が多いと考えられる。しかし、3～10%程度いる否定的な回答の児童を引き上げ、自己肯定感を高めていくことが、本研究の意義ともいえる。

③質問2・5の「自分のいいところ」、「あいさつ」に関しては、あまり向上が見られなかった。

【令和5年度まとめ】

次年度の課題として「人権タイム」での活動やあいさつ運動、地域との交流など、今行っている日々の取り組みは継続し、さらに学級活動や教師の声掛けの工夫など、人と人との関わりをより大切にすることで、児童が自分の良さを自覚し、自信をもって「自分のいいところ」や「あいさつ」が言えるようにしていきたい。そうすることで周りの良さにも気づき、研究テーマである「自分のよさを認め、他者と協働しながら生きる「心」を育む人権教育」が達成されるものと考えられる。

令和5年度 人権アンケート結果（6月・12月実施）

		6月							
質 問	選択肢	学年							
		1	2	3	4	5	6	全校	2択
1 あなたは、「自分の気持ち」を大切にしていますか。	とてもそう思う	74%	66%	57%	49%	40%	36%	54%	92%
	まあそう思う	23%	27%	38%	43%	52%	43%	37%	
	あまりそう思わない	3%	5%	5%	5%	7%	18%	7%	8%
	そう思わない	0%	2%	1%	2%	2%	2%	1%	
2 あなたは、「自分の良いところ」がわかっていますか。	とてもそう思う	45%	53%	38%	37%	31%	30%	39%	78%
	まあそう思う	32%	32%	42%	44%	48%	38%	39%	
	あまりそう思わない	14%	10%	15%	13%	17%	26%	16%	22%
	そう思わない	9%	5%	6%	6%	4%	7%	6%	
3 あなたは、自分が「友達や周りの人から大切にされているな」と感じますか。	とてもそう思う	56%	49%	41%	40%	37%	41%	44%	84%
	まあそう思う	31%	32%	42%	46%	46%	44%	40%	
	あまりそう思わない	8%	13%	10%	12%	3%	11%	10%	16%
	そう思わない	5%	6%	7%	2%	13%	4%	6%	
4 あなたは、「友達の気持ち」を大切にしていますか。	とてもそう思う	72%	70%	71%	73%	60%	72%	70%	97%
	まあそう思う	23%	27%	27%	25%	36%	28%	27%	
	あまりそう思わない	4%	2%	2%	2%	4%	1%	2%	3%
	そう思わない	1%	1%	1%	1%	0%	0%	0%	
5 あなたは、友だちや地域の人に、自分からあいさつしていますか。	とてもそう思う	49%	41%	45%	45%	34%	46%	44%	84%
	まあそう思う	27%	39%	43%	41%	50%	43%	40%	
	あまりそう思わない	16%	16%	10%	10%	14%	9%	12%	16%
	そう思わない	7%	3%	3%	3%	3%	3%	4%	

12月									
1	2	3	4	5	6	全校	6月比	2択	6月比
86%	58%	63%	47%	39%	41%	57%	3%	94%	2%
13%	37%	31%	45%	48%	52%	37%	-1%		
1%	4%	4%	7%	10%	4%	5%	-2%	6%	-2%
1%	1%	2%	1%	3%	2%	1%	0%		
47%	47%	42%	28%	26%	27%	37%	-2%	77%	-1%
35%	37%	39%	49%	42%	41%	40%	1%		
14%	11%	13%	15%	26%	29%	18%	2%	23%	1%
4%	5%	7%	8%	6%	3%	5%	-1%		
65%	51%	36%	44%	33%	45%	46%	2%	87%	3%
28%	35%	49%	43%	51%	42%	42%	1%		
4%	11%	9%	13%	9%	10%	9%	0%	13%	-3%
3%	4%	5%	0%	7%	2%	4%	-2%		
81%	74%	72%	63%	49%	75%	69%	-1%	99%	1%
17%	25%	26%	37%	50%	24%	29%	2%		
1%	1%	1%	0%	1%	0%	1%	-2%	1%	-1%
1%	0%	1%	1%	1%	1%	1%	0%		
54%	42%	48%	38%	31%	48%	44%	0%	85%	1%
33%	42%	39%	49%	42%	43%	41%	1%		
12%	14%	10%	10%	21%	7%	12%	0%	15%	-1%
1%	3%	2%	3%	5%	2%	3%	-1%		

		6月									
質 問	選択肢	1	2	3	4	5	6	全校	2択		
	学年										
6 あなたは、「友達や地域の人と、楽しくかわりたい」と思っていますか。	とてもそう思う	64%	66%	64%	70%	61%	56%	63%	92%		
	まあそう思う	28%	27%	30%	24%	32%	32%	29%			
	あまりそう思わない	7%	6%	4%	4%	4%	9%	6%	8%		
	そう思わない	1%	2%	3%	1%	3%	3%	2%			
7 あなたは、困っている人がいたとき、何かしてあげられますか。	とてもそう思う	54%	60%	59%	47%	39%	36%	49%	89%		
	まあそう思う	32%	28%	35%	45%	52%	51%	40%			
	あまりそう思わない	9%	10%	7%	8%	8%	13%	9%	11%		
	そう思わない	5%	2%	1%	1%	1%	1%	2%			
8 あなたは、下のようなたくさんの人権問題（じんけんもんだい）がどんなものか、知っていますか。	とてもそう思う	10%	13%	11%	12%	5%	12%	10%	42%		
	まあそう思う	7%	24%	38%	35%	38%	50%	32%			
	あまりそう思わない	23%	34%	31%	33%	38%	30%	31%	58%		
	そう思わない	59%	29%	21%	20%	20%	9%	27%			
9 あなたは、いじめや、友だちが嫌な気持ちになっているところを見たとき、それを止めるために、行動できますか。	とてもそう思う	54%	52%	52%	50%	35%	36%	47%	82%		
	まあそう思う	20%	37%	34%	37%	44%	43%	35%			
	あまりそう思わない	14%	9%	10%	10%	19%	18%	13%	18%		
	そう思わない	11%	2%	5%	3%	3%	2%	4%			

12月											
1	2	3	4	5	6	全校	6月比	2択	6月比		
79%	78%	67%	59%	54%	63%	67%	3%	94%	2%		
18%	20%	28%	32%	36%	32%	27%	-1%				
2%	1%	4%	7%	8%	3%	4%	-1%	6%	-2%		
1%	1%	2%	1%	2%	2%	1%	-1%				
67%	61%	53%	41%	33%	39%	50%	0%	94%	5%		
29%	35%	42%	51%	56%	56%	44%	4%				
2%	3%	4%	6%	8%	3%	4%	-5%	6%	-5%		
2%	1%	1%	2%	3%	3%	2%	0%				
3%	15%	14%	15%	13%	21%	13%	3%	61%	19%		
42%	42%	39%	54%	52%	65%	48%	16%				
34%	33%	26%	27%	28%	10%	27%	-4%	39%	-19%		
21%	11%	21%	4%	7%	4%	12%	-15%				
59%	47%	51%	40%	26%	37%	44%	-3%	86%	3%		
34%	44%	38%	42%	49%	45%	41%	6%				
6%	8%	9%	15%	19%	14%	12%	-2%	14%	-3%		
1%	1%	2%	4%	6%	4%	3%	-2%				

令和6年度 流山市立流山小学校 人権教育年間計画 第1学年

学校教育目標	「人間性豊かなたくましい児童の育成」(教育目標) 地域とともにつくる「日本一楽しい学校」(経営目標) ・進んで考える子ども ・よいと思うことを進んで実行する子ども ・進んで運動する子ども										
人権教育目標	・自分の良さと共に、他の人の良さを認め、他者と協働しながら生きることの大切さを感じ取ることができるようにする。 ・人権問題について正しく理解し、身の周りに存在する差別や人権課題を解決しようとする実践的な行動力を身に付けること。										
人権教育の重点事項	・自分の良さを認め、自分を大切にする気持ちを育てること。 ・他者のよりよいコミュニケーションについて学ぶこと。 ・多様な他者について知り、共によりよい生活を送ろうとする態度を養うこと。 ・人権課題について正しく理解し、身の周りの起こっている問題について解決しようとする具体的に行動すること。										
各学年の重点目標	みんなのことを考え、仲良く助け合うこと。			めざす児童像		友達と仲良くできる児童				取り組む主な人権課題	高齢者①(教えていただく)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人権教育	・(人権部会) ・人権アンケート 生:いちねんせいがいじまるよ	・人権教育スタート集会 (人権部会)	・人権標語コンクールの実施 生:つうがくろをたんけんしよう	道:はしのうえのおおかみ		・人権標語コンクールの実施 (研究授業) 国:けんかした山	行:運動会(ふれあい玉入れ) 生:児童とシニアの集い(昔あそび体験)	00 ぼくのくからきた たべもの(C:国際理解) 生:やってみよう、にこにこ 大きくせん	国:スミミー 生:ふゆの たのしみ(昔遊びの会)	道:ええところ	生:もうすぐ2年生	国:お手がみ 道:もうすぐ2年生
国語	なかよしのみち あかるいあいさつ わたしの なまえ おはなし たくさん ききたいな こえのおおきさ どれくらい かいて みよう こえを あわせて あいうえお あいうえおをつかおう	みつけて はなそう、はなしをつなごう かきと かぎ ことばを あつめよう くまさんと ありさんの ごあいさつ ねこと ねっこ ほんを よもう ことばをつなごう たのしみよう！ あいうえおの うた／ごじゅうおん けむりのきしゃ のぼすおん のぼすおん	せんせい、あのね みんなに はなそう たのしみよう 2 がぎくげごの うた よくみて かこう すずめの くらし しゃ、しゆ、しよ たのしく よもう3 きやきききよの うた	しらせたおことを かこう は、を、へ としよかんへ いこう おはなしの くに おおきな かぶ えにつきを かこう		なつの おもいでを はなそう かたかなの ことば けんかした 山 かん字の はじまり だれが、たべたのでしょうか たのしかった ことを かこう	かぞよう／かぞえうた たのしくこえにだしてよう あめの うた しらせたいな いきもの の ひみつ はたらき じどう車	「のりものカード」で しらせよう えを見て つたえよう なにをしているのかな？ かん字のひろば①日づけと よう日 うみへの ながい たび きこえて きたよ、こんな ことば 天に のぼった おけやさん ことばのひろば① かたかな かん字のひろば② かん字のよみかた	こころが あたたかくなる 手がみ スミミー 「おはなしどうぶつえん」をつくろう	しを よもう ゆき みふりて つたえる ことばのひろば② 文を つくろう かん字のひろば③かわる よみかた	はじめた したた 学校のこと ことばのひろば③ ことばで つたえよう おもい出の アルバム かん字のひろば④にいて いる かん字 ことばのふんか② しりとりで あそぼう	お手紙 ひろがることば これまで これから
算数	くらべた ことがあるかな、おおいのは どちらかな 1. なかまづくりと かず	2. なんばんめ どのように かわるかな しあげよう 3. あわせていくつ ふえるといくつ	4. のこりはいくつ ちがいはいくつ	5. どちらがながい		6. わかりやすくせいりしよう 7. 10より おおきい かず 8. なんじ なんじはん 9. 3つの かずの けいさん 10. どちらが おおい	11. たしざん 12. かたちあそび	13. ひきざん	どんな けいさんになるのかな？ けいさんびらみっど	14. おおきい かず 15. どちらが ひろい	16. なんじなんぶん ビルをつくろう 17. たしざんと ひきざん	18. かたちづくり 1なんの ふくしゅう
生活	いちねんせいが はじまるよ たんけんしてみよう こうても たんけんしよう	なかよし いっぱい がっこうたんけん おはなししにいこう みつけたよ、わかったよ つうがくろを たんけんしよう おいてほしいな わたしのはな まあ、たねをまこう	さいてほしいな わたしのはな せわをしよう さいてほしいな わたしのはな せわをつづけよう なつと ともだち なつをみつけよう はなやきであそぼう	なつと ともだち みずで あそぼう おいてほしいな わたしのはな わたしのはながさいたよ これまで おもいだそう もうすぐなつやすみ これまで おもいだそう なつのはな		いきものとなかよし いきものをみつけよう いきものとなかよし なかよく ならう おいてほしいな わたしのはな たねができたよ 児童とシニアの集い(昔あそび体験)	あきと ともだち あきを みつけよう おちばや 木のきで つくろう つくった おもちやで あそぼう	みんなの にこにこ だいさくせん やってみよう、にこにこ 大きくせん にこにこが いっぱい さくせんは せいこうしたかな	これまでのおもいだそう これからもつづけよう もうすぐ ふゆやすみ ふゆの たのしみ(昔遊びの会)	ふゆと ともだち ふゆを みつけよう かぜだ あそぼう ふゆと ともだちになれたかな	もうすぐみんな 2年生 ようこそ、わたしたちの 学校へ しょうたいしたことを ふりかえろう	もうすぐみんな 2年生 一年かんを おもいだそう 2年生では なにをしたいかな
音楽	1. うたで なかよしに ならう	2. はくを かんじて あそぼう	3. はくを かんじて りずむをうたう	うみ みの まわりの おとに みみを すまそう		4. どれみで 歌ったりふいたり しよう	せんりつで よびかけよう△ がっきとなかよくならう	5. ようすをおもうかべよう	6. いろいろな おとを たのしもう	7. にほんの うたをたのしもう	8. おとを あわせて たのしもう	
図工	すきなもの いっぱい おしえて みんなの すきなもの	ねんどと なかよし すきなもの いろいろあそび チョッキン パッド かざろう	さわって まぜて きもちいい ひかりの くにの なかまたち すいすい ぐるーり うきうきボックス 年計2学期扱い	ならべて みつけて		スタンプ ベットん あそぼうよ バクバクさん こすりだしから うまれたよ 絵画 昨年度	いろんな ともだち はなしだす はこはこきくみあわせて つくって だいへんしん	ふわつと ぎゅつと おはながみのえ ふわふわ ゴー	おしらせします！ にここリニュース	ひかりの くにの なかまたち？ くしゃくしゃしたら だいへんしん？	できたらいいな！ こんなこと ふわふわ ゴー？	ようこそ あたらしい 1ねんせい
体育	● 本ほぐしの運動遊び	● 走の運動遊び-1 ● 鬼遊び ● 固定施設を使った運動遊び-1 ● 鉄棒を使った運動遊び	● マットを使った運動遊び-1 ● 多様な動きをつくる運動遊び-1	● 跳の運動遊び(跳び箱)		● 跳の運動遊び ● 多様な動きをつくる運動遊び-2 ● 水の中を移動する運動遊び／● もぐもぐ・浮く(運動遊び)	● 表現遊び ● ボールゲーム-1 ● 水の中を移動する運動遊び／● もぐもぐ・浮く(運動遊び)	● 固定施設を使った運動遊び-2 ● 走の運動遊び-2 ● 水の中を移動する運動遊び／● もぐもぐ・浮く(運動遊び)	● 多様な動きをつくる運動遊び-3 ● リズム遊び	● ボールゲーム-2 ● マットを使った運動遊び-2	● 走の運動遊び-3	● ボールゲーム-3
外国語												
書写	みつけてみよう かいてみよう 1 はじめの がくしゅう ①じを かく しせい ②えんぴつの もちかた ③たのしく かこう	2 ひらがなのがくしゅう ①せんのおわりの かきかた ②かきじゅん ③じを かきはじめる ところ	④せんの とちゅうの かきかた ⑤にいて いる ひらがな 水ようしゅうの つまみかた(絵の具の前)	⑥すずめの なかの かくところ ⑦じの かたち 【レッツ トライ】よこがきの かきかた ⑧ひらがなの ひよう		3 かたかなのがくしゅう ①かたかなの かきかた ②じの かたち ③にいて いる じ	4 かん字のがくしゅう ①かくの おわりの かきかた ②かくの とちゅうの かきかた	③文字の かたち ④かきじゅん	⑤かきぞめ『お正月』	⑥かくの ながさと ほうこう 【かいて つたえあおう】 ありがとうカードをかこう	【しりたいたいじのせかい】 なんのかたちから できた かん字かな	学しゅうの まとめ 【かん字のひよう】1年生で 学しゅうする かん字 しよしゃの たいそう かたかなの ひよう
道徳	1 わたしのすきなこと(A:個性) 2 みんな いっしょ(C:公正、公平)	3 あいさつをすると(B:礼儀) 4 きもちが よいのは(A:節度、節制) 5 がっこうにはな…(B:感謝)	6 きを つけて(A:節度、節制) 7 がっこうの もの？(C:規則の尊重) 8 ハムスターのあかちゃん(D:生命の尊重) 9 うかんだ うかんだ(A:希望と勇氣)	10 はしのうえのおおかみ(B:親切、思いやり) 11 ぼくのあさがお(D:自然愛護)		12 どきどき どきどき(D:生命の尊重) 13 あめがあがって…(D:感動、畏敬の念) 14 みんなだれかに(B:感謝) 15 よりみち(C:規則の尊重)	16 ぼくのしごと(C:勤労、公共の精神) 17 こぐまの らっぱ(A:努力と強い意志) 18 ダメ(A:善悪の判断) 19 こころはっぱ(B:友情、信頼)	20 ぼくのくからきた たべもの(C:国際理解) 21 かばおやのつる(A:節度、節制) 22 みつけて みよう(C:星や土星を愛する態度) 23 どんぐり(A:正直、誠実)	24 はなばあちゃん わらった(B:思いやり) 25 どうぶつの かぞく(C:家族愛)	26 ええところ(A:個性の伸長) 27 おうだんはどうで(B:礼儀) 28 みんなの ボール(C:規則の尊重)	29 二つの ことり(B:友情、信頼) 30 おたんじょうびカード(D:生命の尊重) 31 それって、おかしいよ(A:善悪の判断) 32 ぼくの はな さいたけど(B:親切)	33 もうすぐ はるです(D:自然愛護) 34 もう、すぐ 二ねんせい(C:集団生活の充実) つながる ひろがる
学級活動												
児童会												
学校行事							運動会(ふれあい玉入れ) 児童とシニアの集い					

学年で取り組む人権課題

全校の人権重点課題(外国人)

自分について考える

令和6年度 流山市立流山小学校 人権教育年間計画 第2学年

学校教育目標	「人間性豊かなたくましい児童の育成」(教育目標) 地域とともにつくる「日本一楽しい学校」(経営目標) ・進んで考える子ども ・よいと思うことを進んで実行する子ども ・進んで運動する子ども										
人権教育目標	・自分の良さと共に、他の人の良さを認め、他者と協働しながら生きることの大切さを感じ取ることができるようにする。 ・人権問題について正しく理解し、身の周りに存在する差別や人権課題を解決しようとする実践的な行動力を身に付けること。										
人権教育の重点事項	・自分の良さを認め、自分を大切にする気持ちを育てること。 ・他者のよりよいコミュニケーションについて学ぶこと。 ・多様な他者について知り、共によりよい生活を送ろうとする態度を養うこと。 ・人権課題について正しく理解し、身の周りの起こっている問題について解決しようとする具体的に行動すること。										
各学年の重点目標	みんなのことを考え、仲良く助け合うこと。			めざす児童像	友達と助け合える児童				取り組む主な人権課題	高齢者②(楽しんでいただく)	

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人権教育	・(人権部会) ・人権アンケート	・人権教育スタート集会 (人権部会)	・人権標語コンクールの実施			・人権標語コンクールの実施 (研究授業)			・人権集会(まとめ)	・(人権部会)	・事後人権アンケート	
		道:ありがとう、りょうたさん	国:きつねのおきやくさま 道:ともだちやもんな、ぼくら			生:町にははっけんがいっぱい 道:ひろいせかいのたくさんの人たちと		国:ないた赤おに 道:じぶんがしんごうきに	生:児童とシニアの集い (ふれあい体験)	生:自分のことをもっと知りたいな	生:おいでよ、自分とはっけん「はっぴょうかい」 道:がっきゅうえんのさつまいも 国:こんなことわができるようになったよ	国:アレクサンダとぜんまいねずみ
国語	すごろくトーク つづけてみようー日記 ちいさい おおきい はるねこ ひろい 公園 回文をたのしもう	画と書きじゅん 一年生で 学んだ 漢字 ① すみれと あり かんさつ発見カード むかし の うたを 読もう かたかなで書く言葉	本でしらべよう 「生きものクイズ」を 作ろう(生) なかまの 言葉と 漢字 言葉なかまさがしゲーム きつねの おきやくさま	きつねのおきやくさま いなばのしろうさぎ うれしくなる言葉 ひろがる読書のせかい		話したいな、聞きたいな、夏休みのこと てんとうむし 二つの漢字で できている言葉 一年生で学んだ漢字 ② わにのおじいさんのたからものはんたいのいみの言葉、にたいみの言葉	町の「すてき」をつたえます さがが大きくなるまで この間にににかあった? おもしろいもの、見つけたよ 「あいいうえお」であそぼう	ないた赤おに 「お話じゅつかん」を作ろう 「クラスお楽しみ会」をひらこう みじかい言葉で	漢字のつかい方と読み方 一年生で学んだ漢字 ③ ジャンプロケットをつくる おもちゃをつめい書を書こう	せかいじゅうの海が かさこじぞう かるたであそぼう おはじきの遊び方	主語とじゅつ語 同じ読み方の漢字 こんなことができるようになったよ(生) 音や様子をあらわす言葉 組み合わせでできている漢字 一年生で学んだ漢字 ④	アレクサンダとぜんまいねずみ これまで これから
算数	学びのとびら 1. グラフと ひょう 2. たし算の ひっ算	3. ひき算の ひっ算 どんな 計算になるのかな? 4. 長さの たんい	5. 3けたの 数 6. 水 の かさの たんい(生)(国)	7. 時こくと 時間		8. 計算の くふう 9. たし算と ひき算の ひっ算	10. 長方形と正方形 11. かけ算(1)	九九ビンゴ 12. かけ算(2)	12. かけ算(2)	13. 4けたの 数 14. 長い ものの 長さの たんい	15. たし算と ひき算 16. 分数 17. はこの 形	計算ピラミッド 2年の ふくしゅう
生活	どんな2年生に なるかな(道) 春のあそび はっけん	花やさいの大きくなるひみつはっけん①(生) 春の町 はっけん	生きているって すごい!(国) 雨の日に はっけん(算)(国)(体)	花やさいのおおきくなるひみつはっけん②(国) はっけん かんだう 夏休み		もういちどいきたいな つくる 楽しさ はっけん(国)(国) 町には はっけんが いっぱい(道)	町には はっけんが いっぱい(国) みんなであしかにめに行きたいな 町の人につたえたい	町には はっけんが いっぱい(国) みんなのはっけんをあつめよう 町の人につたえたい	児童とシニアの集い (ふれあい体験)	はっけん 自分の よいところ (国) 自分の ことを もっと 知りたいな	おいでよ、自分とはっけんはっぴょう会 自分の ことを もっと 知りたいな	ありがとうを とどけよう みらいに むかって はばたこう!
音楽	音楽で みんなと つながろう はくの まとまりを かんじとろう	ドレミで あそぼう ドレミのうた かっこう	ドレミであそぼう かえるのがっしょう	ドレミであそぼう ぶっかりくじら さがしてつろう		せいかつの中にある音を楽しもう むしのこえ	リズムをかきながら楽しもう くりかえしを見つけよう	いろいろな がっきの 音を さがそう	ようすをおもうかべよう	日本のうたで つながろう	日本のうたでつながろう	みんなで あわせて 楽しもう
図工	すきなこと なあに ねん土がうごきだす! ぼかしあそびで	えのぐじま くつつきマスコット	ふしぎな いきもの あらわれた ひらめきコーナー	いろいろ もよう こんには、むぎゆたん のりのり おはながみで		新聞紙とあそぼう 見つけたよ、わたしの色水(生)(算)	しぜんのおくりもので どうぶつさんといっしょに	いっぱい うつして	めざせ! カッターナイフ名人	えのぐいっぱいレインボー みんなでワイワイ! 紙けん玉(生)(国)	かぶって へんしん どきどきカード	まどのあるたてもの
体育	● 休むの運動遊び ● 走の運動遊び1 かけっこ リレーあそび	● 鬼遊び ● 固定施設を使った運動遊び-1 ● 鉄棒を使った運動遊び	● マットを使った運動遊び-1 ● 多様な動きをつくる運動遊び-1 ● 水の中を移動する運動遊び(生) ● もぐる・浮く運動遊び ● 鉄棒を使った運動遊び/● ボール投げゲーム	● 水の中を移動する運動遊び(生) ● もぐる・浮く運動遊び ● マットを使った運動遊び-2 ● 鉄棒を使った運動遊び/● ボール投げゲーム		● 表現遊び ● 多様な動きをつくる運動遊び-2	● リズムあそび ● ボールゲーム1なげ	● 固定施設を使った運動遊び-2 ● 走の運動遊び-2 ● ボールゲーム-2なげ	● 跳び箱を使った運動遊び ● 多様な動きをつくる運動遊び-3 なわとび	● 多様な動きをつくる運動遊び-4 なわとび	● 走の運動遊び-3 ● ボールゲーム-3 けり	● ボールゲーム-4 けり ● 多様な動きをつくる運動遊び5 なわとび
外国語												
書写	町の 文字たんけん/もくじ/学しゅうの めあて ①文字を 書く しせい/②えんぴつの もち方 ③学しゅうの すすめ方/④しよしゃの 体そう	●かたかなの学習 画の 方こう	●かんじの学習①書き順 ①メモの とり方ーお話の 聞きとりメモ ②よこ書きの 書き方ー算数の ノート	●かんじの学習② 画の方こう		●かんじの学習③ 画の 長さ、画と 画との 間	●かんじの学習④ 画の つき方と 交わり方	●かんじの学習⑤ 文字の中心	●⑤年がじょうと 書きぞめ	●かんじの学習⑦ 文字の形 書いてつたえ合おう		学しゅうの まとめ 三年生から もひつ の 学しゅうが はじまるよ、 二年生で 学しゅうする かん字/ 一年生で 学しゅうした かん字 ひらがなの ひょう・かたかなの ひょう
道徳	1 じぶんで オツケー(生) 2 くまぐんの たからもの 3 ひかり小学校の じまはね	4 金 の おの 5 じぶんが しんごうきに 6 いそいでもいそいでも	7 かくした ボール 8 おれたものさし 9 森のともだち 10 げんきに そだて、 ミニトマト	11 あさも ひるも よるも あそびたい 12 さかあがり できたよ		13 たんじょう日 14 わすれられない えがお 15 いろいろな 生きもの 16 ともだちやもんな、ぼくら	17 せかいのくにの 人たちと 18 ながい ながい つうがくろ(生) 19 「かむかむメニュー」 20 だって おにいちゃんだもん	21 きいろいベンチ 22 ありがとう、りょうたさん 23 学きゅうえんの さつまいも 24 「三くみ 大すき」	25 「あいさつ」って いいな 26 だいすきな フルーツポンチ	27 ぼく 28 さるへいと 立てふだ 29 七つの ほし	30 ぐみの木と子とり 31 ぼくは「のびた」でしー一庫子/F・不二雄 32 もったいないのズボン 27 ゆきひょうの ライナ	34 いま、ぼくに できること 35 まる子の かぞくへの しつもん
学級活動												
児童会												
学校行事												

学年で取り組む人権課題

全校の人権重点課題(外国人)

自分について考える

令和6年度 流山市立流山小学校 人権教育年間計画 第3学年

学校教育目標	「人間性豊かなたくましい児童の育成」(教育目標) 地域とともにつくる「日本一楽しい学校」(経営目標) ・進んで考える子ども ・よいと思うことを進んで実行する子ども ・進んで運動する子ども										
人権教育目標	・自分の良さと共に、他の人の良さを認め、他者と協働しながら生きることの大切さを感じ取ることができるようにする。 ・人権問題について正しく理解し、身の周りに存在する差別や人権課題を解決しようとする実践的な行動力を身に付けること。										
人権教育の重点事項	・自分の良さを認め、自分を大切にする気持ちを育てること。 ・他者のよりよいコミュニケーションについて学ぶこと。 ・多様な他者について知り、共によりよい生活を送ろうとする態度を養うこと。 ・人権課題について正しく理解し、身の周りの起こっている問題について解決しようとする具体的に行動すること。										
各学年の重点目標	自分の考えを大切にしながら、相手の立場にも立って考え、行動することができること。			めざす児童像		相手の話をよく聞き、自分の考えも伝えることができる児童				取り組む主な人権課題 外国人	

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人権教育	(・人権部会) ・人権アンケート	・人権教育スタート集会 (・人権部会)	・人権標語コンクールの実施			・人権標語コンクールの実施 (・研究授業)			・人権集会(まとめ)	(・人権部会)	・事後人権アンケート	
	英:Unit1 Hello! あいさつをして友だちになろう	道:しよたのいじめ	道:みさきさんのえがお			道:三つの国 道:なかよしだから 絵文字で表そう 道:耳の聞こえないお母さんへ 道:ぼくのおべんとう 英・独:国際交流体験(流山市国際交流協会)	国:世界の人につたわるようにくらしと絵文字 絵文字で表そう 道:耳の聞こえないお母さんへ 道:ぼくのおべんとう 英・独:国際交流体験(流山市国際交流協会)	道:じゃがいもの歌 英:身近な外国の方へインタビュー(外国から見た日本) 英:自己理解・他者理解(リーダーチャートで分析)		道:たまちゃん、大すき 英:ポランディア活動:ユニバーサルデザインを知る	国:強く心にのこっていることを 英:ポランディア活動:ユニバーサルデザイン作成	国:おにたのぼうし 英:今の自分ができること・そして4年生に向けて
国語	「じこしょうかいビンゴゲーム」 かえるのびよん 白い花びら 「発見ノート」	「発見ノート」 国語辞典の引き方 わたしのたからもの漢字学習ノート 二年生で学んだ漢字① うめぼしのはたらき	めだか 本をさがそう クラスの「生き物ブック」 漢字の音と訓 二年生で学んだ漢字②	紙ひこうき、きみへローマ字 ひろがる読書のせかい 「りす公園」はどこにある		取材したことをほうこく文に自分の気持ちを手紙に送りがな 二年生で学んだ漢字③	わすれられないおくりもの俳句に親しむ 季節のことばを集めよう つながる ひろがるくらしと絵文字 絵文字で表そう 気持ちをつたえる話し方・聞き方	気持ちをつたえる話し方・聞き方へんとつくり 二年生で学んだ漢字④ モチモチの木	「おすすめ図書カード」を作ろう こそあど言葉 はったしたことを詩に書こう ことわざ・慣用句	夕日がせなかをおしてくる／いちばんぼし 町の行事について発表しよう 文の組み立て 漢字の組み立て 二年生で学んだ漢字⑤	川をさかのぼる知恵 十二支と月のよび名 強く心にのこっていることを二つの漢字の組み合わせ 二年生で学んだ漢字⑥	おにたのぼうし これまで これから
社会	○学校のまわり 1.市の様子		(選択単元)1.農家の仕事 (選択単元)1.工場の仕事			2.店ではたらく人			1.火事からくらしを守る	2.事故や事件からくらしを守る	1.市の様子と人々のくらしのうつりか	
算数	学びのとびら 1.かけ算 2.時ごとと時間のもとめ方	3.わり算 4.たし算とひき算の筆算	考える力をのぼそう(1) 5.長いものの長さのはかり方と表し方 6.ぼうグラフと表	7.暗算		8.あまりのあるわり算 9.大きい数のしくみ	10.かけ算の筆算 11.大きい数のわり算、分数とわり算 どんな計算になるのかな?	12.円と球 13.小数	14.分数	15.□を使った式 16.かけ算の筆算(2)	倍の計算 17.三角形と角	そろばん 考える力をのぼそう(2) 3年のふくしゅう
理科	1.生き物をさがそう 2.たねをまこう	3.チョウを育てよう	○植物の育ちとつくり 4.風とゴムの力のはたらき	●自由研究		5.こん虫のかんさつ ○植物の一生	6.かげと太陽	7.光のせいしつ	8.電気で明かりをつけよう	9.じしゃくのふしぎ	10.音のせいしつ 11.ものと重さ	○おもちゃランド
音楽	音楽で心をつなげよう 歌って音の高さをかんじよう	茶つみ	リコーダーのひびきに親しもう	拍ののってリズムをかんじよう		うさぎ せんりつのとくちようをかんじよう	曲のかんじを生かそう?	いろいろな音のひびきに親しもう		ちいきにつたわる音楽でつながろう	せんりつのもなりをかんじよう	歌いつごう日本の歌 みんなで楽しく
図工	絵の具と水のハーモニー	はこの中の世界 みんなでつくりうねん土ランド	トントんくぎ打ち、コンコンビー玉			にじんで広がるものがたり	うつしてふえるよ てぼこさん	のこぎりザクザク つないでつてて	カラフルねん土でマイグッズ	光サンドイッチ	すきな色で すてきな花を	
体育	体ほぐしの運動 かけっこ・リレー マット運動	マット運動 かけっこ・リレー	ボートボール ブレルボール	ボートボール ブレルボール		表現・リズムダンス 運動会練習 水泳運動	鉄棒 幅跳び 水泳運動	鉄棒 キックベース 持続走 跳び箱運動	キックベース 持続走 跳び箱運動	縄跳び ラインサッカー 高跳び	縄跳び 小型ハードル 保健	縄跳び 小型ハードル 保健
外国語	Unit1 Hello! あいさつをして友だちになろう Unit2 How are you? ごきげんいかが?	Unit3 How many? 数えてあそぼう	Unit4 I like blue. すきなものをつたえよう			Unit5 What do you like?	Unit6 ALPHABET	Unit7 This is for you. ・国際交流体験(流山市国際交流協会)		Unit8 What's this?	Unit9 Who are you?	
書写	1 毛筆用具の名前とおき方やあつかい方 2 よいしせいと筆の持ち方 3 筆の「ほ」のやわらかさ 4 力の入れ方(筆圧) 5 あとかたづけ	2 「横画」の筆使い	3 「たて画」の筆使い 筆について知ろう はがき一冊中みまい	4 「はらい」の筆使い こう筆の学習		①筆の持ち方 5 「おれ」と「はね」の筆使い こう筆の学習 「手書き文字」と「活字」	6 ひらがなの筆使い こう筆の学習 ローマ字表	①文化一俳句 7 「曲がり」と「おれ」の筆使い こう筆の学習 メモを取ってまとめよう	書きぞめ 小筆で書こう はがき一年賀状	書きぞめ 小筆で書こう	点画のしゅるい 8 学習のまとめ	
保健						1.毎日の生活とけんこう						
道徳	1 あいさつをする 2 マチヌグスージ(いのちのまつり) 3 ふっちゃんんの町自慢	4 ツバメの赤ちゃん 5 ゆうすけの朝 6 ぬれた本	7 みんなの学校なのに 8 いいち、にい、いいち、にい 9 SL公園で 10 ーさつのおくりもの	11 作品のかち		12 ごみステーション 13 いただいたいのち 14 こうすけならだじようぶ 15 きまりじゃないか	16 ホテルの引こし 17 みさきさんのえがお 18 教えて! なんでもそうだん室 19 かしつつもり×もらったつもり	20 ーりん車にのれた 21 三つの国 22 たまちゃん、大すき 23 耳の聞こえないお母さんへ	24 六へいじいとちよ 25 百羽のツル	26 よわむし太郎 27 やさしい人大さくせん 28 じゃがいもの歌 29 なかよしだから	30 ぼくのおばあちゃん 31 しあわせの王子 32 そびえ立つ、伊予松山城 33 おじいちゃん、おばあちゃん、見	34 大通りのサクラなみ木 35 「あんぱんの日」～木村安兵衛・き
総合	・年間計画 ・流山を知ろう	・流山を知ろう (町並散策・公共施設・歴史) ・タブレットを使ってみよう (タイピング・キーボード・ミライシード)	・流山PR大使になろう(流山みりん塾) (テーマを決めて調べよう) ・タブレットを使ってみよう (タイピング・キーボード・ミライシード)	・流山PR大使になろう(流山みりん塾) (テーマを決めて調べよう) ・タブレットを使ってみよう (タイピング・キーボード・ミライシード)		みんなががってみんないい ～外国の生活や文化から学ぶ～ ・人権教育・人権の花「プレゼント」 ・国際理解出前授業	みんなががってみんないい ～外国の生活や文化から学ぶ～ (外国の文化をテーマ別に調べる) ・校外学習に出かけよう	みんなががってみんないい ～外国の生活や文化から学ぶ～ (身の回りの困っている人・モノ・事探し) ・校外学習に出かけよう ・国際交流体験(流山市国際交流協会)	みんなががってみんないい ～外国の生活や文化から学ぶ～ (調べたことを発表しよう)(自分や友達を知ろう) ・身近な外国の方へインタビュー(外国から見た日本)	HERO-TIME～今のわたしにできること～ (ポランディア活動:ユニバーサルデザインを知る) (身の回りの困っている人・モノ・事探し)	HERO-TIME～今のわたしにできること～ (ポランディア活動:ユニバーサルデザイン作成) ・6年生に感謝を伝えよう	HERO-TIME～今のわたしにできること～ (活動の振り返り・4年生へ向けてなりたい自分)
学級活動												
児童会												
学校行事												

学年・(全校)で取り組む人権課題(外国人)

自分について考える

令和6年度 流山市立流山小学校 人権教育年間計画 第4学年

学校教育目標	「人間性豊かなたくましい児童の育成」(教育目標) 地域とともにつくる「日本一楽しい学校」(経営目標) ・進んで考える子ども ・よいと思うことを進んで実行する子ども ・進んで運動する子ども											
人権教育目標	・自分の良さと共に、他の人の良さを認め、他者と協働しながら生きることの大切さを感じ取ることができるようにする。 ・人権問題について正しく理解し、身の周りに存在する差別や人権課題を解決しようとする実践的な行動力を身に付けること。											
人権教育の重点事項	・自分の良さを認め、自分を大切にする気持ちを育てること。 ・他者のよりよいコミュニケーションについて学ぶこと。 ・多様な他者について知り、共によりよい生活を送ろうとする態度を養うこと。 ・人権課題について正しく理解し、身の周りの起こっている問題について解決しようとする具体的に行動すること。											
各学年の重点目標	自分の考えを大切にしながら、相手の立場にも立って考え、行動することができること。			めざす児童像		相手の立場になって考え、行動することができる児童				取り組む主な人権課題		障害者
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人権教育	・(人権部会) ・人権アンケート 英:Unit1 Hello, world! 世界のいろいろなことばであいさつしよう	・人権教育スタート集会 (人権部会) 道: 合い言葉は「話せばわかる！」	・人権標語コンクールの実施			・人権標語コンクールの実施 (人権部会)	道: うめのき村の四人兄弟	道: 点字メニューにしようせん 道: 紙しばいをつくって発表しよう	・人権集会(まとめ)	・(人権部会) 国: 「便利」ということ 総: 10才の決意	・事後人権アンケート 国: 自分の成長をふり返って 道: 世界の小学生	
国語	わたしは、だあれ 春のうた／あり 白いばうし	びったりの言葉、見つけよう 三年生で学んだ漢字① 漢字の部首 ぞうの重さを量る 花を見つける手がかり	分類をもとに本を見つけてよう メモの取り方をくふうして聞こう 漢字辞典の引き方 リーフレットで知らせよう	短歌の世界 漢字の音を表す部分 三年生で学んだ漢字② そろそろ(落語)		「夏の思い出」記者になろう 写真をもとに話そう 新聞を作ろう 逆りがなのつけ方／都道府県名に用いる漢字 三年生で学んだ漢字③ 一つの花	いろいろな手紙を書こう 修飾語 「ショートショート」を書こう 「月」のつく言葉 ごんぎつね 「読書発表会」をしよう	言葉が表す感じ、言葉から受ける感じ 新スポーツを考えよう いろいろな意味を表す漢字 三年生で学んだ漢字④ ウミガメの命をつなぐ	二つの事柄をつなぐ 「不思議ずかん」を作ろう 故事成語	いろいろな物／おきな木／とびばこ だんだん 熟語のでき方 三年生で学んだ漢字⑤ 身のまわりの「便利」なものを考えよう 「便利」ということ 調べてわかったことを発表しよう	点(・)を打つところ 自分の成長をふり返って 雪 同じ読み方の漢字の使い分け 三年生で学んだ漢字⑥	木電うるし(人形げき) これまで これから
社会	わたしたちの県 県の広がり	住みよいくらしをつくる 水はどこから	ごみのしよりと利用			自然災害からくらしを守る	千葉県発展につくした人	千葉県をもっと知ろう	千葉県をもっと知ろう	千葉県の伝統や文化や自然 (房州うちわ・野田のしょうゆづくり)	千葉県の伝統や文化や自然 (勝浦市・成田市)	一年間のまとめ
算数	学びのとびら 大きい数のしくみ 折れ線グラフと表	わり算の筆算(1)ーわる数が1けた	角の大きさの表し方を調べよう 小数のしくみを調べよう	考える力をのばそう(1) そろばん		わり算の筆算(2)ーわる数が2けた 倍の見方	がい数の使い方と表し方 算数で読みとこう(1) 計算のきまり	垂直、平行と四角形	分数 変わり方調べ	面積のくらべ方と表し方	小数のかけ算とわり算 どんな計算になるのかな？ 直方体と立方体	考える力をのばそう(2) 算数で読みとこう(2) 4年のふくしゅう
理科	春の生き物	天気と1日の気温 地面を流れる水のゆくえ	電気のはたらき	夏の生き物 夏の夜空 (自由研究)		月や星 とじこめた空気や水	ヒトの体のつくりと運動	秋の生き物 ものの温度と体積	ものの温度と体積	〇冬の夜空 〇冬の生き物 もののあたたまり方	水のすがた	水のゆくえ ●これまでの学習をつなげよう 〇生き物の1年間
音楽	音楽で心の輪を広げよう 歌声のひびきを感じ取ろう	歌声のひびきを感じ取ろう	いろいろなリズムを感じ取ろう	いろいろなリズムを感じ取ろう		せんりつのとくちようを感じ取ろう	地域に伝わる音楽に親しもう	地域に伝わる音楽に親しもう	いろいろな音のひびきを感じ取ろう	せんりつのもじりを感じ取ろう	地域に伝わる音楽に親しもう	
図工	絵の具で遊んで「自分いろいろがみ」 リズムにのって	トントんつないで	トントんつないで	とんとんつないで 鑑賞		版画	版画	つないで組んで、すてきな形	飛び出すハッピーカード	ゆめいろらんぶ	6年生を送る会準備 鑑賞	ゆめいろランプ
体育	体ほぐしの運動-1／多様な動きをつくる運動-1 かけっこ・リレー	リレー 鉄棒 マット運動	鉄棒 マット運動 水泳運動(事故防止への心得)	マット運動 ベースボールゲーム		表現運動 体力テスト	ソーラン節 障害物走 ラジオ体操 体力テスト	小型ハードル走 はさみ跳び バラスポーツ体験	短なわとび 持久走 はさみ跳び	長なわとび 持久走 跳び箱	短なわとび・長なわとび 持久走 跳び箱 ラインサッカー	ラインサッカー
外国語	Unit1 Hello, world! 世界のいろいろなことばであいさつしよう Unit2 Let's play cards. すきな遊びをつたえよう	Unit2 Let's play cards. すきな遊びをつたえよう	Unit3 I like Mondays. すきな曜日は何か？	Unit4 What time is it? 今、何時？		Unit5 Do you have a pen? おすすめの文房具セットをつくろう	Unit5 Do you have a pen? おすすめの文房具セットをつくろう	Unit6 What do you want? ほししいものは何か？	Unit7 What do you want? ほししいものは何か？	Unit8 This is my favorite place.	Unit8 This is my favorite place.	
書写		2 点画の筆使い「花」	筆順と字形に気をつけて書こう「左右」	はがきの書き方		ひらがなの筆づかい「はす」 文字の組み立て方「林」		文字の組み立て方「土地・岩山」	書き初め「花がすみ」	書き初め「花がすみ」 「平和」	「平和」 学習のまとめ	
保健			育ちゆく体と私									
道徳	ドッジボール ぼくのへんしん なにかお手つだいできることはありますか？	また来年も待ってるよ ひびが入った水そう 合い言葉は「話せばわかる！」	となりのせき ふるしき わたしの見つけた小さな幸せ いっしょになって、わらっちゃだめだ	「もっこ」をせおって ーびきのセミに「ありがとう」		ふれあいの森で 全校遠足とカワセミ あかいセミ うめのき村の四人兄弟	日曜日のパーベキュー バルバオの木 ぼくらだってオーケストラ ふるさとを守った大イチョウ	花さき山 紙しばいをつくって発表しよう 秋空にひびくファンファーレ お母さんのせいきゅう書	ゆうきの心配 小さなお父さん 点字メニューにしようせん	「ありがとう」の言葉 目ざまし時計 大きな絵はがき	世界の小学生 走れ江ノ電 光の中へ 花丸手帳～水泳・池江璃花子選手 ボロといっしょ	35 雨のバスでいりゆう所で じょうほうモラル やめられない？ とまらない？ ふろく つながる 広がるーきょうどうに對する思い
総合	我が県 千葉県	我が県 千葉県	我が県 千葉県 校外学習 クリーンセンター見学	我が県 千葉県		キャリア教育	キャリア教育	キャリア教育	キャリア教育 白杖体験	6年生を送る会	6年生を送る会	パソコンの使い方を学ぼう 6年生を送る会
学級活動												
児童会												
学校行事												
			学年で取り組む人権課題		全校の人権重点課題(外国人)			自分について考える				

令和6年度 流山市立流山小学校 人権教育年間計画 第5学年

学校教育目標	「人間性豊かなたくましい児童の育成」(教育目標) 地域とともにつくる「日本一楽しい学校」(経営目標) ・進んで考える子ども ・よいと思うことを進んで実行する子ども ・進んで運動する子ども										
人権教育目標	・自分の良さと共に、他の人の良さを認め、他者と協働しながら生きることの大切さを感じ取ることができるようにする。 ・人権問題について正しく理解し、身の周りに存在する差別や人権課題を解決しようとする実践的な行動力を身に付けること。										
人権教育の重点事項	・自分の良さを認め、自分を大切にする気持ちを育てること。 ・他者のよりよいコミュニケーションについて学ぶこと。 ・多様な他者について知り、共によりよい生活を送ろうとする態度を養うこと。 ・人権課題について正しく理解し、身の周りの起こっている問題について解決しようとする具体的な行動すること。										
各学年の重点目標	周囲の人と共に、よりよく生きようとする態度や、身の周りの人権問題を解決しようとする実践的な行動力などを身に付けること。				めざす児童像	物事を正しく判断することができる児童				取り組む主な人権課題	子供

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人権教育	(・人権部会) ・人権アンケート 道：いつも全力で～首位打者イチロー 社：世界の中の国土	・人権教育スタート集会 (・人権部会) 国：新聞を読もう ユニセフ 子どもの権利条約について調べよう	・人権標語コンクールの実施 道：転校生がやってきた 学：いじめ防止授業 ユニセフ 子どもの権利条約について調べよう	家：できるよ、家庭の仕事 漢文に親しむ 敬語 複合語 四年生で学んだ漢字②		・人権標語コンクールの実施 (・研究授業) 子どもと親のサポートセンター いじめ防止啓発動画を作ろう	道：「折り紙大使」～加瀬三郎 いじめ防止啓発動画を作ろう	いじめ防止啓発動画を作ろう	・人権集会(まとめ) 認知症サポーター養成講座	(・人権部会) 道：感動したこと、それがぼくらの作品～パブロ・ピカソ 提案文を書こう	・事後人権アンケート 情報モラル教育 道：同じ空の下で	
国語	わたしは木 水平線／うぐいす いつか、大切なところ	新聞を読もう 「情報ノート」を作ろう 漢字学習ノート 四年生で学んだ漢字① 人とねずみの「はい、チーズ！」	言葉と事実 話し言葉と書き言葉 「町じまん」をすいせんしよう	ポスターを作ろう 漢文に親しむ 敬語 複合語 四年生で学んだ漢字②		知りたいことを決めて、話を聞こう 素朴な等／噴く虫／山のあなた 大造じいさんとがん 「図書すいせん会」をしよう	鳥 俳句を作ろう AIとのくらし 熟語の構成 四年生で学んだ漢字③ 方言と共通語 世界遺産 白神山地からの風景―風景文を書こう	「古典」を楽しむ かなづかいで気をつけること 漢字の成り立ち 四年生で学んだ漢字④	雪わたり 言葉で伝える、心を伝える	はたはたのうた／書 提案文を書こう	和語・漢語・外来語 同じ音の漢字 四年生で学んだ漢字⑤ まんがの方法 ひみつを調べて発表しよう	送りがのきまり 四年生で学んだ漢字⑥ みずさがしの旅―みんなちがって、みんないい これまで これから
社会	1. 世界の中の国土 2. 国土の地形の特色	(選択単元)3. 低い土地のくらし (選択単元)3. 高い土地のくらし 4. 国土の気候の特色	(選択単元)5. あたたかい土地のくらし (選択単元)5. 寒い土地のくらし 1. くらしを支える食料生産	2. 米づくりのさかんな地域		3. 水産業のさかんな地域 4. これからの食料生産とわたしたち	1. くらしを支える工業生産 2. 自動車をつくる工業	3. 工業生産を支える輸送と貿易 4. これからの工業生産とわたしたち	1. 情報産業とわたしたちのくらし 2. 情報を生かす産業 3. 情報を生かすわたしたち	2. 自然災害を防ぐ 2. わたしたちの生活と森林	3. 環境を守るわたしたち	
算数	学びのとびら 1. 整数と小数 2. 直方体や立方体の体積	3. 比例 4. 小数のかけ算	5. 小数のわり算 小数の倍 どんな計算になるのかな？	6. 合同な図形		7. 図形の角 8. 偶数と奇数、倍数と約数	9. 分数と小数、整数の関係 考える力をのばそう(1) 算数で読みとこう(1) 10. 分数のたし算とひき算	11. 平均 12. 単位置あたりの大きさ	13. 四角形と三角形の面積	14. 割合 15. 帯グラフと円グラフ	16. 変わり方調べ 17. 正多角形と円周の長さ	18. 角柱と円柱 考える力をのばそう(2) 算数で読みとこう(2) 5年のふくしゅう ● 6年の学習の準備
理科	1. 天気の変化	2. 植物の発芽と成長	3. メダカのたんじょう	4. 台風と防災 ● 自由研究		5. 植物の実や種子のでき方 6. 流れる水のはたらきと土地の変化				9. 電磁石の性質	10. 人のたんじょう	● 6年の学習の準備
音楽	歌声をひびかせて心をつなげよう	音の重なりを感じ取ろう		いろいろな音色を感じ取ろう		和音の移り変わりをと感じ取ろう	曲想の変化を感じ取ろう	詩と音楽の関わりを味わおう		日本の音楽に親しもう	思いを表現に生かそう	
図工	季節を感じて	季節を感じて	コロがるくんの旅	鑑賞		伝言板	伝言板	絵画	絵画	版画	版画	鑑賞
家庭	● これまでの学習を家庭科につなげよう 1. 家族の生活再発見 2. クッキングははじめの一歩		3. ソーイングはじめの一歩	4. 整理・整とんで快適に 5. できるよ、家庭の仕事		6. ミシンでソーイング		7. 食べて元気に		8. 生活を支えるお金と物	9. 暖かく快適に過ごす着方	10. 暖かく快適に過ごす住まい方 11. いっしょにほっとタイム
体育	● 体ほくしの運動／● 体の動きを高める運動-1 ● 短距離走・リレー	● ベースボール型(ティーボール) ● クロール／● 平泳ぎ／● 安全確保につながる運動	● マット運動 ● クロール／● 平泳ぎ／● 安全確保につながる運動			● 表現／● フォークダンス	● 体の動きを高める運動-2 ● ハードル走 ● 走り幅跳び	● ゴール型(バスケットボール)		● 体の動きを高める運動-3 ● 跳び箱運動 ● タグラグビー	● ネット型(ソフトバレーボール)	
外国語	Lesson1 Nice to meet you. Lesson2 When is your birthday?	Lesson3 What do you have on Mondays?	Lesson4 Can you do this?			パーティーを楽しもう。	Lesson5 Where is your treasure?	Lesson6 My Hero	Lesson7 Happy New Year	Lesson8 What would you like?	Lesson9 I love my town. 自分のことを伝えよう。	
書写	学習の進め方／図画の描線／姿勢と持ち方、用具のあつかい方	2 文字の組み立て方(中と外) 「活字」について知ろう	3 文字の組み立て方(中と外)と、種々の動き／硬筆の学習 文化―『竹取物語』を書く	4 筆順と字形／硬筆の学習		メモ工場見学のメモ 9 文字の大きさ(漢字とかな)／9 文字の大きさ(漢字とかな) 平仮名のもとになる漢字	7 穂先の動きと、線のつながり	ポスター委員会ポスター	年賀状 はがき／年賀状、絵はがきを書こう 書きぞめ	9 学習のまとめ 手紙／工場見学のお礼の手紙 五年生で学習する漢字／四年生で学習した漢字 平仮名表／すみ・すずり・紙の作り方		
保健						1. 心の健康					2. けがの防止	
道徳	1 「ありがとう上手」に 2 いつも全力で～首位打者イチロー 3 見えた答案	4 遠足の子どもたち 5 駅前広場はだれのもの 6 お父さんは救急救命士	7 ひさの星 8 転校生がやってきた 9 ノンステップバスでのできごと 10 一ふみ十年	11 おばあちゃんが残したもの 12 かれてしまったヒマワリ		13 ペンギンは水の中を泳ぐ鳥だ 14 これって「けんり」？ これって「ぎむ」？ 15 そういうものにわたしはなりたいたい～宮沢賢治 16 卵焼き 人権教育「いじめ防止啓発動画を作ろう」	17 「折り紙大使」～加瀬三郎 18 オーストラリアで学んだこと 19 名医、順庵 20 ベートーベン 人権教育「いじめ防止啓発動画を作ろう」	21 わたしのボランティア体験 22 流行おくれ 23 心のレシーブ 24 コースチャチャぼうやを教えよう	25 正月料理 26 くずれ落ちただんボール箱	27 感動したこと、それがぼくらの作品～パブロ・ピカソ 28 親から子へ、そして孫へと 29 大きなじこをよぶ「ヒヤリ・ハット」	30 クマのあたりまえ 31 同じ空の下で 32 友の命 33 一本松は語った 認知症サポーター養成講座 6年生に感謝を伝えよう	34 イルカの海を守ろう 35 バトンをつなげ じょうほうモラル その遊び方、だいじょうぶ？ 付録 つながる 広がる―日本の豊かな自然と伝統文化
総合	・年間計画 ・1年生を迎えよう	林間学園に向けて 人権教育 ユニセフ 子どもの権利条約について学ぼう	林間学園に向けて 人権教育 ユニセフ 子どもの権利条約について学ぼう	人権教育 ユニセフ 子どもの権利条約について学ぼう								
学級活動			いじめ防止授業									
児童会												
学校行事												

学年で取り組む人権課題

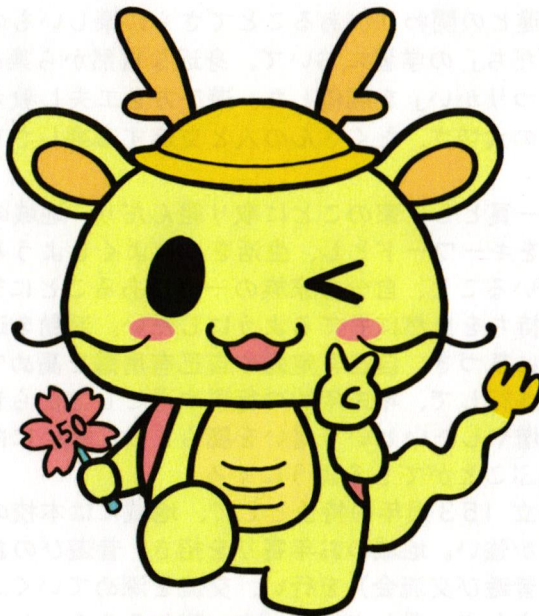
全校の人権重点課題(外国人)

自分について考える

令和6年度 流山市立流山小学校 人権教育年間計画 第6学年

学校教育目標	「人間性豊かなたくましい児童の育成」(教育目標) 地域とともにつくる「日本一楽しい学校」(経営目標) ・進んで考える子ども ・よいと思うことを進んで実行する子ども ・進んで運動する子ども											
人権教育目標	・自分の良さと共に、他の人の良さを認め、他者と協働しながら生きることの大切さを感じ取ることができるようにする。 ・人権問題について正しく理解し、身の周りに存在する差別や人権課題を解決しようとする実践的な行動力を身に付けること。											
人権教育の重点事項	・自分の良さを認め、自分を大切にすること。 ・他者のよりよいコミュニケーションについて学ぶこと。 ・多様な他者について知り、共によりよい生活を送ろうとする態度を養うこと。 ・人権課題について正しく理解し、身の周りの起こっている問題について解決しようとする実践的な行動力を身に付けること。											
各学年の重点目標	周囲の人と共に、よりよく生きようとする態度や、身の周りの人権問題を解決しようとする実践的な行動力などを身に付けること。			めざす児童像		人権尊重の立場で考え、身の周りで起こっている差別等に気付き、解決しようとする児童			取り組む主な人権課題		性的指向、性自認 (同和問題・ハンセン病患者等・北朝鮮当局による拉致問題等)	
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人権教育	(・人権部会) ・人権アンケート 社:わたしたちのくらしと日本国憲法 道:あこがれのパティエー好きな道を歩む	・人権教育スタート集会 (・人権部会) 社総:同和問題について	・人権標語コンクールの実施 道:みんないっしょだよ〜黒柳徹子 社総:ハンセン病患者等について	社総:北朝鮮当局による拉致問題について		・人権標語コンクールの実施 (・研究授業) 道:心をつなぐ音色〜ピアニスト 辻井伸行 道:エンザロ村のかまど	外:世界で活躍する自分しようかいしよう 総:キャリア教育 (ジェンダー教育講演会)		・人権集会(まとめ)	(・人権部会) 社総:平和学習	・事後人権アンケート 社:「選択単元」1. 日本とつながりの深い国々 外:感謝の気持ちを伝えよう。 総:子ども食堂の方の講演会	
国語	自分との対話 風景 純銀もざいく あの坂をのぼれば 考えを図や表に	春はあけぼの 主語と述語の対応をかくにんしよう 三字以上の熟語の構成 五年生で学んだ漢字① アイスは暑いほどおいしい? 雪は新しいエネルギー	パネルディスカッション 地域の防災 みんなで作ろう!パンフレット 雨 世代による言葉のちがひ 複数の意味をもつ漢字 五年生で学んだ漢字	川とノリオ 地域の施設を活用しよう ひろがる読書の世界		聞かせて!「とっておき」の話 イナゴ 「知恵の言葉」を集めよう あなたは作家 なぜ、わかり合えなかったのかな? 熟語の使い分け 五年生で学んだ漢字③ ひろがる言葉 つながる ひろがる きつねの森	言葉は時代とともに 十二歳の主張 言葉は時代とともに	音を表す部分 五年生で学んだ漢字④ あなたは感じる? ぼくの世界、君の世界 「うれしさ」って何?	「読書タイムライン」を作って交流しよう その場にふさわしい言い方 紙風船 「迷う」 六年間の思い出をつづろうー卒業文集ー	言葉と私たち 同じ訓をもつ漢字 五年生で学んだ漢字⑤	津田梅子 日本の文学 さまざまな読み方 出会った言葉をふり返ろう	
社会	1. わたしたちのくらしと日本国憲法 2. 国の政治のしくみと選挙	(選択単元)3. 子育て支援の願いを実現する政治 (選択単元)13. 震災復興の願いを実現する政治 社総:同和問題について	1. 縄文のむらから古墳のくにへ 社総:ハンセン病患者等について	2. 天皇中心の国づくり 社総:北朝鮮当局による拉致問題について	3. 貴族のくらし 4. 武士の世の中へ 5. 今に伝わる室町文化	6. 戦国の世から天下統一へ 7. 江戸幕府と政治の安定	8. 町人の文化と新しい学問 9. 明治の国づくりを進めた人々	10. 世界に歩み出した日本	11. 長く続いた戦争と人々のくらし 12. 新しい日本、平和な日本へ 平和学習	(選択単元)1. 日本とつながりの深い国々	2. 世界の未来と日本の役割	
算数	学びのとびら 1. 対称な図形	2. 文字と式 3. 分数×整数、分数÷整数、分数×分数	4. 分数÷分数 分数の倍 どんな計算になるのかな?	5. 比 算数で読もうこう(1)	6. 拡大図と縮図 7. データの調べ方 8. 円の面積	9. 角柱と円柱の体積 10. およその面積と体積 考える力をのばそう(1)	11. 比例と反比例	12. 並べ方と組み合わせ方 考える力をのばそう(2) 算数で読もうこう(2)				算数卒業旅行
理科	● 私たちの生活と環境 ● 学習の準備 1. ものが燃えるしくみ	2. ヒトや動物の体	3. 植物のつくりとはたらき	4. 生物どうしの関わり ● これまでの学習をつなげよう ● 自由研究	5. 水よう液の性質	6. 月と太陽	7. 大地の作りと変化		8. てこのはたらき	9. 発電と電気の利用	10. 自然とともに生きる	
音楽	歌声をひびかせて心をつなげよう		いろいろな音のひびきを味わおう		和音のひびきや音の重なりを感じ取ろう		曲想の変化を楽しもう		詩と音楽との関わりを味わおう		日本や世界の音楽に親しもう	音楽で思いを伝えよう
図工		わたしのお気に入りの場所	陶芸教室		龍を見る わたしはデザイナー 12さいの力で			卒業制作①:行灯づくり		卒業制作②		
家庭	1. わたしの生活時間 2. いためてつこう朝食のおかず	3. クリーン大作戦	4. 暑い季節を快適に		5. 楽しくソーイング	6. くふうしよう おいしい食事			7. 共に生きる生活		● 成長したわたしたち／● 中学生に向かって	
体育	● 短距離走・リレー ● マット運動	● ベースボール型(ソフトボール) ● バスケットボール	● クロール／● 平泳ぎ／● 安全確保につながる運動 ● バスケットボール		● 表現／● フォークダンス	● 体力を高める運動 ● 走り幅跳び ● 体力テスト	● 鉄棒運動 ● 跳び箱運動	● ハードル走	● 体の動きを高める運動-3 ● ネット型(ソフトバレーボール)	● ゴール型(タグラグビー)		
外国語	This is me	What time do you get up?	Welcome to Japan.	Questions Let's Talk!	My Summer Vacation	Where do you want to go?	My Best Memory	My Best Memory Questions Let's Talk 世界遺産	My dream.	My Junior High School Life	Questions 卒業を前に Let's Talk 先生と話をしよう 世界で活かしている人	
書写	学習の進め方/点線の描画/姿勢と持ち方、用具のあつかい方	2 文字の大きさと配列/レツツ・トライ	3 文字の組み立て方(三つの部分)/破筆の学習 ノート・国語のノート リーフレット・校外学習のリーフレット 文字の成り立ち		4 文字の大きさと配列、点線のつながり	文化一『枕草子』を書く 生活と文字 5 文字の大きさと配列、点線のつながり(小筆)	小筆一小筆を生かして書く 好きな言葉を書く	書きぞめ／はってん		6 学習のまとめ/六年間で学習したこと 手紙一お願いの手紙 卒業制作一思い出に残る言葉を書こう 六年生で学習する漢字/五年生で学習した漢字 平仮名表/消しゴム印の作り方		
保健				3. 病気の予防-1				3. 病気の予防-2				
道徳	1 心を形に 2 お母さん、お願いね 3 心に通じた「どうぞ」のひとこと	4 天災は、わずれていなくてもやってくる 5 世界遺産 白神山地 6 エンザロ村のかまど	7 「法律」ってなんだろう 8 ばかじゃん! 9 ある犬のおはなし 10 雨上がりの日のこと	11 あなたはどう考える? 12 土石流の中で救われた命	13 たった一つの命だから 14 タマシ川 15 心をつなぐ音色〜ピアニスト 辻井伸行 16 ともにくらすわたしたち	17 修学旅行の夜 18 うちら「ネコの手」ボランティア 19 みんないっしょだよ〜黒柳徹子 20 豪華さんからのメッセージ	21 ぼくの名前呼んで 22 せんぱいの心を受けついで 23 ピアノの音が…… 24 手品師	25 夜空一光の旅 26 新しい日本にー龍馬の心 27 銀のしく台 28 まんがに命を一手塚治虫	27 言葉のおくりもの 28 銀のしく台 29 まんがに命を一手塚治虫	30 青の銅門 31 さばくを緑の農地にー中村哲医師 32 「あきらめない」を手助けしたー最良議員士 日野二重典 33 東京大空襲の中で	34 小さな連絡船「ひまわり」 35 夢	
総合	年間計画を立てよう 1年生を迎えよう	タブレット/パソコンを使って自分の考えを伝えよう 同和問題について	タブレット/パソコンを使って自分の考えを伝えよう ハンセン病患者等について	タブレット/パソコンを使って自分の考えを伝えよう 北朝鮮当局による拉致問題について	修学旅行を成功させよう(日光調べ)	修学旅行を成功させよう(日光調べ) 修学旅行を成功させよう(日光調べ) キャリア教育 (ジェンダー教育講演会)	修学旅行を成功させよう(日光調べ) 修学旅行を成功させよう(日光調べ) キャリア教育 (ジェンダー教育講演会)	卒業アルバム、文集について 平和学習	卒業プロジェクト 平和学習	卒業プロジェクト 子ども食堂の方の講演会	卒業プロジェクト	
学級活動												
児童会												
学校行事												
学年で取り組む人権課題			全校の人権重点課題(外国人)			自分について考える						

3 学習指導案



©流山市立流山小学校

学年	学期	単元	学習指導要領	学習指導案
1	1	1	1	1
2	2	2	2	2
3	3	3	3	3
4	4	4	4	4
5	5	5	5	5
6	6	6	6	6

1 単元名 「みんなの にこにこ 大きくせん」

2 単元について

(1) 単元観

本単元は学習指導要領の内容(2)「家庭生活に関わる活動を通して、家庭における家族のことや自分でできることなどについて考えることができ、家庭での生活は互いに支え合っていることが分かり、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとする」(8)「自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、身近な人々と関わることの良さや楽しさが分かるとともに、進んで触れ合い交流しようとする。」を受けて設定したものである。

児童はこれまでに、4・5月に「なかよし いっぱい がっこうたんけん」の学習において、学校には様々な施設があること、それを支えてくれる人がいることを学んだ。6・7月に「なつと ともだち」の学習においては、公園探検やシャボン玉と水遊びを行った。探検では公園はみんなの憩いの場でもあること、地域のお年寄りの方にも挨拶し、活動も知ることができた。水遊びはそれ自体が楽しいものであるが、友達との関わりがあることでさらに楽しいものになるという経験を積んだ。10月には「あきと ともだち」の学習において、身近な自然から集めた材料を使っておもちゃを作り、「あきのわくわくおまつりかい」を開催した。遊び方を工夫し教える経験を通して、相手の立場になって考えるということの大切さ、たくさんの人と交流する楽しさを経験し、自分自身の成長について感じる事ができた。

本単元では、家族の一員として家のことに取り組んだり、地域の方と昔遊びを楽しんだりすることを通して、「えがお」をキーワードとし、生活をよりよくしようとする事ができるようにする。家族は互いに支え合っていること、自分も家族の一員であることに気づくことで、「自分でできることは、やろう」という気持ちを自然にもてるようにしたい。活動を通して、家の人に感謝の気持ちを持ち、自分の成長や役割に気づき、自己肯定感や自己有用感を高めていきたい。冬休みの「にこにこ大きくせんパート2」と並行して、年末年始の行事や過ごし方から昔遊びを知り、上手になりたい、みんなの「にこにこ」を増やしたいという思いを膨らませ、願いに向かって遊び方を学び、工夫しながら、みんなで楽しく遊ぶことができるようにする。

また、流山小学校創立153周年の特色として、地域には本校の卒業生がたくさん暮らしていて、地域の方とのつながりが強い。地域のお年寄りを招き、昔遊びのおもしろさやうまくなるためのコツを教えてもらう活動(昔遊び交流会)を行い、交流を深めていく。そこでは、自分たちを見守ってくれている地域の人のやさしさ、温かさに気づき、親しみをもつとともに、自分の成長を感じながら意欲的に生活しようとする気持ちを育てていきたい。

(2) 児童の実態

人権アンケート(177名・%)

	質問	とても そう思う	そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない
1	あなたは、「自分の気持ち」を大切にしていますか。	75	18	6	1
2	あなたは、「自分の良いところ」がわかっていますか。	54	29	12	5
3	あなたは、自分が「友達や周りの人から大切にされているな」と感じますか。	65	19	11	5
4	あなたは、「友達の気持ち」を大切にしていますか。	77	18	4	1

5	あなたは、友達や地域の人に、自分からあいさつしていますか。	59	23	15	3
6	あなたは、「友達や地域の人と、楽しくかかわりたい」と思っていますか。	76	16	3	3
7	あなたは、下の中で、知っている「人権問題」はありますか。すべて選びましょう。	子どもの人権問題	お年寄りの人権問題	障害のある人の人権問題	外国人に対する人権問題
		23	7	6	5
		病気の人への差別	性別の悩み	住んでいる場所の差別	どれも知らない
		7	3	5	77
8	あなたは、人がいじめをしている場面を見た時、どうすると思いますか。	いじめている人を注意する	いじめられている人を助ける	先生に相談する	家族に相談する
		26	40	20	3
		友達に相談する	何もしない		
		5	6		
9	8の質問で「何もしない」を選んだ人に聞きます。どうして選びましたか。 (11名・%)	自分がいじめられるかもしれないから	いい格好をしていると思われるから	どうすればいいかわからないから	自分とは関係ないから
		46	9	0	45

人権課題(高齢者)に対するアンケート(177名・%)

質問		回答	
1	お年寄りと遊んだことがありますか。	ある	ない
		68	32
2	どんな遊びをしましたか。	スポーツ(ランニング・プール・サッカー・テニス・バドミントン・バスケットボール)、カードゲーム(UNO、トランプかるた)、公園(滑り台・ブランコ・ジャングルジム・砂場)、けん玉、おはじき、おてだま、粘土、鬼ごっこ、オセロ、猫探し、将棋、かくれんぼ、散歩、積み木、テレビ、箱の中身を当てるゲーム、ラジコン、お絵描き、レゴ、あやとり、かげふみ、こま、	

		めんこ、ジェンガ、じゃんけん、あっち向いてほい、すごろく、人形、ブロック、紙てっぽう、おままごと、ドンジャラ、竹とんぼ、山登り、おんぶ、ベイブレード、ツイスターゲーム、戦いごっこ、エアホッケー、シルバニア、輪投げ、絵本、かけっこ			
3	自分のおじいさんやおばあさんとよく会っていますか。	会っている		会っていない	
		58		42	
4	お正月遊び（昔遊び）で知っているものはありますか。	けん玉	べいごま	お手玉	こま
		82	19	50	87
		あやとり	おはじき	凧あげ	かるた
		74	50	77	72
		羽子板	めんこ	福笑い	竹馬
		33	17	37	25
		たけとんぼ	その他		
		39	0		

人権についてのアンケートを6月に行った結果、「友達や地域の人と楽しく関わろうとしていますか。」の問いに対し、93%の児童が「とてもそう思う、そう思う」と答えた。入学して2か月、地域の方との関わりが少ない中でも、大半の児童が楽しく関わりたいと願いをもっていた。しかし、「友達や地域に自分からあいさつしていますか。」の問いに対しては、「とてもそう思う」と答えた児童は59%に留まった。また、「自分の良いところがわかっていますか。」や「自分は友達や周囲の人から大切にされていると感じますか。」の問いに対して、「あまりそう思わない、思わない」と答えた児童が17%、16%とともに20%近くおり、自己肯定感の低さも感じた。一方で、「友達の気持ちを大切にしていますか。」の問いでは、96%の児童が「とてもそう思う、そう思う」と答えた。

また、「お年寄りと遊んだことがありますか。」「自分のおじいさんおばあさんとよく会っていますか。」という問いに対して、「ない」と答えた児童が32%、「会っていない」という答えが42%となった。人権課題でもある高齢者と関わる機会、身近に感じる機会が少ない児童の割合が多かった。昔遊びの経験も、けん玉82%やこま87%と、80%以上の児童が経験をしたことがあると答えたが、べいごま19%やめんこ17%、羽子板33%などの経験は20%～30%と、経験がしたことがない児童が多かった。

以上の結果から、他者へ向ける思いはあるが、自分自身へ向ける思いや自己肯定感が低めで、地域の方とも楽しく関わりたいという願いはあるが、関わる機会が少ないこと、その方法が分からない児童が多く、自分たちから関わりがもてていないことが分かった。

本学級は、男子20名、女子17名（特別支援学級含む）である。普段の生活科の学習では、積極的に意見を述べたり、進んで活動に参加したりすることができる児童が多い。入学から半年が経過し、小学校生活にも慣れ、学習に向かう態度が少しずつ整ってきた。一方で、思った通りにならなかったり、小さな失敗で上手にできなかったりしたときには、すぐにあきらめてしまい、「できない」と誰かにやらしてもらおうとして、自分で解決しようとしないう姿が見られる。また、失敗を恐れるあまり、積極的に課題に取り組むことができない児童もいる。

そこで、地域の方や高齢者の方との交流を意図的に経験させることにした。例えば、公園探検では、地域の方と触れ合い、11月の「シニアと児童の集い」でも、地域の方や高齢者の方との交流を深めた。

そして、本単元では、「えがお」をキーワードとし、児童が主体となった活動や地域との関わりの場を設定し、様々な人と関わって学ぶことで、自分一人だけでは得られない楽しさや充実感があることを体験させ、自己肯定感や自己有用感を高めていきたい。そこから、家族の一員であることや地域への愛着や親しみを持って生活していくことの大切にしようとする心を育てていきたい。

学びの過程で困難さを感じる児童に対する指導の工夫

- ・教師の指示が聞き取りやすいように、座席を2列目までに配置する。
- ・授業の流れをルーティーン化し、次の活動に安心をもって参加できるようにする。
- ・一斉指導の後、机間指導の中で個別に声をかける機会を増やす。
- ・次の行動や与えられている課題が明確になるような指示、視覚的な支援や板書（誰と、何を、何分で行うか等）を行う。

(3) 指導観

知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力、人間性
家庭生活や地域の方と関わる活動を通して、互いに支え合っていることや交流する楽しさ・うれしさに気づかせたい。 ・生活の中に自分や家の人「にこにこ」していることやうれしくなることがあると気づかせるために、家庭生活をふり返る。 ・生活リズムを整える、掃除をするなど基本的な生活習慣や技能を身に付けさせる。 ・地域のお年寄りの方と交流した経験から、自分との違いに気づく。 ・冬の年中行事やお正月遊びを知り、昔遊びの楽しさに気づき、達成感を感じさせる。	家庭生活や地域の方と関わる活動を通して、家族をはじめとした誰かの為に自分ができることなどについて考えさせたい。 ・自分ができることについて、計画を立て、実際にやってみたり調整したりしながら、活動を進める。 ・地域のお年寄りの方に昔遊びを教えてもらう場(昔遊び交流会)を設定する。 ・昔遊びの会では、お客さんをお招きするという意識を持ち、準備や設営、司会進行などに取り組ませる。 ・自己肯定感を高めるため、ワークシートを活用し、自分ができたこと等を視覚化する。	家庭生活や地域の方と関わる活動を通して、自分の役割を積極的に果たし、自分の成長を感じながら意欲的に生活しようとする力をつけさせたい。 ・あいさつや言葉遣いに注意して関わるができるようにする。 ・友達と協力したり、認め合ったりする活動を通して、粘り強く取り組むことができるようにする。 ・家庭での仕事や地域の方との交流を通して、自分自身の成長を実感させ、これからも積極的に自分ができることを行えるようにする。

(4) 仮説との関連

研究仮説

- ①自分の良さに気づき、自分を大切にすることが育てば、自分とは異なる他者の特性も認められるようになり、人権意識の高揚につながるだろう。
- ②地域や外部の方々など、異年齢の方との交流活動や体験活動を行えば、自分の良さに気づききっかけとなり、また他者との関わりについて考えを深めることができるだろう。
- ③各学年で焦点化した「人権課題」に取り組む「学習プログラム（年間指導計画）」を作成すれば、6年間を通して段階的に視野を広げながら、人権についての学びを深めていくことができるだろう。

《1学年の目指す児童像》

- ・友達と仲良くできる児童

《1学年の具体的な手立て》

- ① 興味を持って最後まで聞くようにさせる。具体的な場面から、言葉の例示を行い、丁寧な言葉で話すようにさせる。
- ② 学習の中にペアワークやグループワークを取り入れる。
- ③ 体験的な活動を通して、友達と自分の違いを知る。
- ④ 地域の高齢者と交流する場を設ける。

3 単元の目標

- ・家庭生活や地域の方と関わる活動を通して、互いに支え合っていることや交流する楽しさ・うれしさに気づき、家族をはじめとした誰かの為に自分ができることなどについて考え、自分の役割を積極的に果たし、自分の成長を感じながら意欲的に生活しようとする。
- ・自分の思いや願いを持ち、それを達成するために、地域の方に親しみをもって尋ねたり、友達とアドバイスをし合ったりしながら、考えたり工夫したりすることができる。

4 単元の評価規準

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の 評価 規 準		家庭生活や地域の方と関わる活動を通して、互いに支え合っていることや交流する楽しさ・うれしさに気づく。	家庭生活や地域の方と関わる活動を通して、家族をはじめとした誰かの為に自分ができることなどについて考え、計画を立てて行動することができる。	家庭生活や地域の方と関わる活動を通して、自分の役割を積極的に果たし、自分の成長を感じながら意欲的に生活しようとする。
小 単 元 に お け る 評 価 規 準	1 2	①自分の生活の中に、自分や家の人々が「にこにこ」していることやうれしくなることがあると気づいている。	①家の人々の様子を具体的に思い起こしたり、家の人に話を聞いたりして、どんなときに「にこにこ」やうれしくなるかを表現している。	①家の人々がもっと「にこにこ」したり、うれしくなったりする姿を見たいという願いをもち、積極的に取り組もうとしている。
	3 4 5	②生活のリズムを整える、掃除をするなどの基本的な生活習慣や技能を身につけている。	②家庭内で自分ができることについて、計画を立て、実際にやってみたり調整したりしながら、活動を進めている。	②家族での生活をよりよくしたいという思いを持って活動を継続的に進めたり、自ら規則正しく生活したりしようとしている。
	6	③家庭では、互いに支え合って生活していることに気づき、自分もその家族を構成している大切な一人であることが分かっている。	③活動(自分の作戦)を振り返り、活動の前後と比べて、自分が果たす役割について考えたり、表現したりしている。	

7			③家族の一員として役割を担ったことに自信をもち、これからも積極的に自分ができることを行ったり、成長を感じて、生活をより良いものにしたりしようとしている。
8 9	④どのような年中行事や正月遊びがあるかを知り、昔遊びの楽しさに気づいている。		
10			④昔遊びについて、やりたい、できるようになりたいという願いをもち、積極的に取り組もうとしている。
11 本 時 12	⑤地域のお年寄りと交流した経験から、自分との違いに気づく。	④自分ができることについて、計画を立て、経験をもとに調整しながら、活動を進めている。	⑤地域の方へ親しみをもち、自分や地域の方が笑顔になる会になるよう、自分の役割を考え、進んで取り組もうとしている。
13	⑥地域のお年寄りに自分から説明を聞いたり、質問したりして、優しさや温かさに触れ、昔遊びのコツを見つけ、交流する楽しさに気づく。		⑥地域への親しみをもち、地域のお年寄りと積極的に関わり、昔遊びを楽しもうとしている。
14 15		⑤お世話になった地域のお年寄りに、手紙を通して、感謝の気持ちや自分の思いを伝えている。	⑦これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝や親しみの気持ちを抱き、これからの成長への願いをもとうとしている。

5 指導と評価の計画 (15 時間扱い)

学習過程	小単元名	時間	学習活動 (○) ねらい (・)	評価 規 準	評価方法
見出す	いえの人のようすを見てみよう	1 2	いえの人は、どんなことを しているのかな。 ○自分や家の人の1日の生活を思い起こす。 ○家の人の「にこにこ」をさがす。 どんな にこにこが 見つかったかな。 ○調べたことを伝え合う。 ・自分の生活の中に、自分や家の人が「にこにこ」していることやうれしくなることがあると気づき、表現することができる。	知① 思① 主①	ワークシート 発言分析
自分で取り組む	にこにこ大さくせん、やってみよう、①	3 4 5	どうしたら、にこにこが ふえるかな。 ○前時を振り返り、どんな「にこにこ」があったかを確認する。 ○「にこにこ大さくせん」の計画を立てる。 ○基本的な生活習慣や掃除の仕方の技能を身に付ける。 ・生活のリズムを整える、掃除をするなどの基本的な生活習慣や技能を身につけることができる。 ○【家庭での活動】計画を実行する。 ○活動を振り返り、感じたことや考えたことをカードに書く。 ・家庭内で自分ができることについて、計画を立て、実際にやってみたり調整したりしながら、活動を進めることができる。	知② 思② 主②	ワークシート 発言分析
広げ深める	にこにこがいっぱい	6 7	「にこにこ」を つたえあおう。 ○書いたカードをもとに、取り組んだことを思い起こす。 ○計画を実行して、気づいたことやわかったことをまとめる。 ○まとめたことを伝え合う。 ・活動(自分の作戦)を振り返り、活動の前後と比べて、自分が果たす役割について考えたり、表現したりすることができる。 「にこにこ大さくせん」は せいこうしたかな。 ○単元全体を振り返り、感じたことや考えたことなどを伝え合う。 ○これまでの自分の活動を絵や文で表す。 ○これからやってみたいこと(冬休み)を伝え合う。 ・家族の一員として、これからも積極的に自分ができることを行ったり、成長を感じ、生活をより良いものにしたりしようとする。	知③ 思③ 主③	ワークシート 発言分析
見出す	もうすぐふゆやすみ	8 9	もうすぐふゆ休み、「にこにこ大さくせん」パート2をしよう。 ○冬休み「にこにこ大さくせん」パート2の計画を立てる。 ○年末年始の行事や過ごし方を知る。 (大掃除・初詣・おせち料理・お正月遊び・昔遊びなど) ・どのような年中行事や正月遊びがあるかを知り、昔遊びの楽しさに気づくことができる。	知④ 主①	ワークシート 発言分析
自分で取り組む	たのしみ	10	むかしあそびとは、どのようなあそびなのかな。 ○どのような昔遊びがあるか知り、道具を手にとって自由に遊んでみる。 ・昔遊びの楽しさや難しさについて気づくことができる。	主④	行動観察 発言分析

広げ深める	やってみよう、にこにこ大さくせん②	11 本時 12	「にこにこ大さくせん」パート3～むかしあそびのかい～のじゅんびをしよう。 ○地域の方が喜んでくれることや教えてほしいことについて考える。 ○昔遊びの会の計画を立てる。 ○昔遊びの会の準備をする。 ・地域のお年寄りと交流した経験から、自分との違いに気づくことができる。 ・地域の方へ親しみをもち、自分や地域の方が笑顔になる会になるよう、自分の役割を考え、進んで取り組もうとしている。	知⑤ 思④ 主⑤	行動観察 ワークシート 発言分析
		13	「にこにこ大さくせん」パート3～むかしあそびのかい～をしよう。 ○地域の方と昔遊びの会を行う。 ・昔遊びが上手になるコツ、楽しい遊び方など質問して、地域の方と一緒に昔遊びを楽しむことができる。	知⑥ 主⑥	行動観察 発言分析
まとめあげる	さくせんはせいこうしたかな	14 15	「にこにこ大さくせん」パート3～むかしあそびのかい～は、せいこうしたかな ○むかしあそびのふりかえりをする。 ○これまでの成長を振り返り、お世話になった地域の方へお礼の手紙を書く。 ○今後、自分にできることを考える。 【家庭での活動】 ○冬休みに向け「にこにこ大さくせん」パート2の計画を実行する。 ・これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝や親しみの気持ちを抱き、これからの成長への願いをもとうとしている。	思⑤ 主⑦	行動観察 ワークシート 発言分析

6 人権教育上のねらい（個別の人権課題「高齢者」）

地域の高齢者との交流を通して、地域の中で生きる様々な人を尊重する気持ちを養い、積極的に地域の人々との交流を楽しむ。

7 人権教育上の視点

- (1) 自他の人権を尊重する態度を養う。（価値・態度）
- (2) 他者により良いコミュニケーションを取る技能を高める。（技能）

8 本時の指導 (11/15)

(1) 本時の目標

- 地域のお年寄りと交流した経験から、自分との違いに気づくことができる。(知識・技能)
- 地域の方へ親しみをもち、自分や地域の方が笑顔になる会になるよう、自分の役割を考え、進んで取り組もうとしている。(学びに向かう力・人間性等)

(2) 展開

学習過程	時配	学習活動と内容 ・予想される児童の反応	○指導と支援 ◇評価(観点)〈方法〉 ◎人権教育上の配慮	備考
見 い だ す	15分	1 前時の活動を振り返る。 ○昔遊びの会の目的を確認する。 ・シニアの集いは、お年寄りがたくさんいた。 ・昔遊びは難しいから、教えてほしい。 ・もっとうまくになりたい。 ・地域の方とも、楽しく遊びたい。 ・一緒に歌って楽しかったから、もっと喜んでほしい。 2 本時のめあてを確認する。	○写真を提示することで、前時の活動を思い起こさせる。 ◎地域のお年寄りの方と自分たちとの違いや、喜んでくれたことを思い出させる。(価値・態度) ○児童の言葉から学習課題を見出すことができるようにする。	写真(昔遊び・シニアの集い) 動画(シニアの集い)
ちいきのかたもじぶんも「にこにこ」になるかには、どうしたら いいだろう。				
自 分 で 取 り 組 む	5分	3 「にこにこ大きくせん」パート3 ～むかしあそびのかい～を考える。 ・地域の方に教えてもらう。 ・上手な人にコツを質問する。 ・一緒にゲームをして楽しむ。 ・教えてもらったら「ありがとう」を言う。 ・ゆっくり案内する。 ・自分たちでできることは、自分たちでする。(会場準備など) ・大きな声で、はっきり話す。	○ワークシートに自分の考えを記入させる。 ○児童とシニアの集いでは、どのように地域の方と関わったのか思い出し、考えを書かせる。 ◎地域のお年寄りと触れ合った経験から、どんなことに気をつければ良いか、考えさせる。(価値・態度) ◎地域のお年寄りと触れ合った経験から、自分との違いに気づかせる。(価値・態度)	ワークシート
広 げ 深 め る	20分	4 3で考えたことをペアで伝えあう。 (5分) 5 「にこにこ大きくせん」パート3～むかしあそびのかい～で、地域のお年寄りの方と自分たちが楽しめるよう、気をつけることや内容について全体で話し合う。 (15分) ・元気なあいさつをする。 ・お礼をする。 ・プレゼントをする。 ・ゆっくり歩くといい。 ・ていねいな言葉を使って話すといい。	○ペアで考えを共有して、自分の考えに自信を持たせてから、全体に発表させる。 ◇地域のお年寄りと交流した経験から、自分との違いに気づくことができる。(知識・技能)〈ワークシート・発言〉 ◇地域の方へ親しみをもち、自分や地域の方が笑顔になる会になるよう、自分の役割を考え、進んで取り組もうとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)〈ワークシート・発言〉	ワークシート 写真(シニアの集い)

		・場所の案内をする。 ・話をよく聞いて教えてもらう。	◎友達の意見を否定せずに、話を聞いて、自分の考えを伝えることができるようにする。(技能)	
まとめあげる	5分	6 振り返りをする	○本時の学習を振り返り、「にこにこ大さくせん」パート3～むかしあそびのかい～を行うための見通しを持たせる。 ○自分の役割、自分たちができることは何かを考えさせる。 ○「にこにこ大さくせん」パート3への意気込みをワークシートに記入させる。	ワークシート

(3) 板書計画 (ICT 機器活用も含む)

モニター

黒板

・昔遊びで遊んでいる写真

・シニアの集いの写真

・シニアの集いの動画

「にこにこ大さくせん」パート3～むかしあそびのかい～

❶ ちいきのかたもじぶんも「にこにこ」になるかいいにするためには、どうしたら良いだろう。

むかしあそび

たのしい♡コツがいる、むずかしい

ちいきのかたと ふれあって

- ・やさしい
- ・ゆっくり
- ・足がいたそう
- ・つえを ついていた
- ・手が大きい なんでもできそう
- ・よろこんでくれていた

★きをつけること

- ・ゆっくり
 - ・はっきり
- あるく
はなす

♡「にこにこ」をふやすための さくせん

- ・おしえてもらう
- ・げんきなあいさつ
- ・おれい
- ・じぶんたちで すすめる

1 単元名

「わたしの町はっけん」

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、指導要領の内容(3)「地域に関わる活動を通して、地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考えることができ、自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりしようとする。」および、(8)「自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かるとともに、進んで触れ合い交流しようとする。」を受けての取り組みであり、3年生で市内について学ぶための足掛かりとなるものである。

これまでに子どもたちは、クラスごとにまとまって地域探検に出かけ、自分が生活している地域にどんな店や施設があるのかを知り、自分たちが住んでいる地域やそこに住んでいる人々に興味を持ち始めている。また、1年生の時に地域の方を招いて昔遊びを教えてもらったり、運動会の際に一緒に玉入れを行ったりして、地域の方との交流を持っている。しかし、地域の人々が自分たちの暮らしを支えているという意識や自分から積極的に地域の人々に関わっていこうとする様子は少ない。

そこで、本単元では、地域にある店や施設を探検する活動と合わせて、地域の方を招いて自分たちの発表を見てもらったり、感謝を伝えたりする場を設定し、自分たちが住んでいる地域の人々にさらに愛着がもてるようにしていきたいと考えている。地域の店や施設を知るだけでなく、そこに暮らして働いている人々に接して、自分たちがおもてなしをするという体験をすることによって、地域の人と進んで触れ合い交流しようとするきっかけにしていきたい。

(2) 児童の実態

人権アンケート(176名・%)

	質問	とても そう思う	そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない
1	あなたは、「自分の気持ち」を大切にしていますか。	68	29	2	1
2	あなたは、「自分の良いところ」がわかっていますか。	39	41	18	2
3	あなたは、自分が「友達や周りの人から大切にされているな」と感じますか。	48	39	11	2
4	あなたは、「友達の気持ち」を大切にしていますか。	76	22	2	0
5	あなたは、友だちや地域の人に、自分からあいさつしていますか。	36	44	18	2
6	あなたは、「友達や地域の人と、楽しくかかわりたい」と思っていますか。	59	33	7	1
7	あなたは、下の中で説明できる人権問題がありますか。説明できるものを全て選びましょう。	子どもの人権	お年寄りの人権	障がいのある人の人権	外国人に対する差別
		70	25	22	15
		病気の人への差別	性別の悩み	住んでいる場所の差別	どれも知らない
		21	16	20	14

		その他 1			
8	あなたは、人がいじめをしている場面を見たとき、どのような行動をすると思いますか。	いじめている人を注意する	いじめられている人を助ける	先生に相談する	家族に相談する
		36	17	28	7
		友達に相談する	何もしない	その他 1	
		5	6		
9	8の質問で「何もしない」を選んだ人に聞きます。どうしてそう思いますか。	自分がいじめられるかもしれないから	良い恰好していると思われるから	どうすればいいかわからないから	自分とは関係ないから
		40	20	40	0
		その他 0			

地域に関するアンケート(176名 各設問において記述回答は複数回答あり)

1	地域の人にあいさつができますか。	自分から できる	返すことは できる	小さな声 ならできる	できない
		49	33	17	1
2	あなたを見守ってくれている人はだれですか。	親 家族 地域の人	先生 友達 祖父母	警察 親戚	
3	地域の行事に参加したことはありますか。 どんな行事でしたか。	ある		ない	
		56		44	
		お祭り イベント(児童館スポーツ) 花火大会 ゴミ拾い			
4	地域にはどのようなお店や施設がありますか。	スーパーマーケット 公園 コンビニ 飲食店 学校	ドラッグストア 洋品店 食品小売店(パン屋等) 駅 寺社	病院 保育園	
5	自分の住む町の良さはどこですか。	お店がたくさんある 地域の人優しい 公園がたくさんある	町がきれい 学校 安全	自然がある	
6	地域の人とかかわっていきたいですか。 どのようなことがしたいですか。	とても そう思う	そう思う	あまり 思わない	全く 思わない
		41	42	14	3
		花火大会 スポーツ あそびたい お祭り イベント 無回答			
7	友達との話し合いをしながら学習するのは好きで すか。その理由を教えてください。	好き		嫌い	
		79		21	
		楽しい たくさんの意見が聞ける 解決できると嬉しい いい意見や自分と違う 意見に出会える		恥ずかしい 相手の気持ちがわからない 集中できない、うるさい 時間の無駄 自分で最後までやりたい	

アンケート結果から、「あなたは、『地域の人と、かかわっていきたい』と思っていますか。」という問いでは、83%の児童が「とてもそう思う」「そう思う」と答えているのに対し、「あなたは、地域の人に、あいさつしていますか。」という問いでは、「自分からできる」と回答した児童は49%だった。この結果から、地域の人とかかわりたいと思っても、実際に挨拶など行動で表している児童は少ないということがわかる。「友達と話し合いをしながら学習するのは、好きですか。」では、「きらい」と答えた児童が21%だった。こだわりが非常に強く、相手の気持ちを理解することが難しくトラブルになりやすい。友達と話し合いをしながら学習することに対して「きらい」という児童が同数程度いたのも理由の1つと考えられる。内容をみても「自分で最後までやりたい」や「相手の気持ちがわからない」と書かれていた。

学級の児童は、男子20名、女子18名（特別支援学級含む）計38名である。学習面だけでなく、生活面でも特別な支援が必要な児童など、多様な児童が在籍している学級である。自分の思いや意見を素直に伝えられる児童がいる一方で、人の話に興味がなかったり、学級全員の前やグループ発表の際に固まってしまったりする児童もあり、コミュニケーション不足がうかがえる。また、自分と異なる意見に対して、否定的な反応をしてしまう児童も数名いる。授業中は、集中が続かなかったり、周囲のことが見えなくなってしまうりする。

児童の実態から、以下の内容に留意して指導にあたるようにする。

1つ目に、人の話に興味を持てるよう、普段から他人の発表に相づちを打って反応できるようにする。全員に意識させることで他人の意見にも耳を傾けられるようにしたい。2つ目に、小グループの活動（ペア・グループ）を他教科でも積極的に取り入れ、多くの人と接する機会を増やす。全員の前で発表することが苦手な児童でも、繰り返す行うことで自分の思いを伝えることや、聞くことに慣れるのではないかと考える。3つ目に、聴覚から情報を得ることが苦手な児童に対して、視覚で内容理解ができるよう、毎日の予定や提出物の連絡など、掲示物を効果的に活用し支援をする。

本単元では「シニアと児童の集い」を通して地域の人々と触れ合う機会を設定したり、町たんけんに行き店や施設の人と話したり、会の準備などを通して、地域の人への親しみや愛着をもち、実際に地域の人と関わることの楽しさを実感することをねらいとしたい。

(3) 指導観

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
店や施設がどんな仕事をしているのか、地域でどんな役割を担っているのかについて、知識を身につける。 ・地域にはどのような店や施設があるのかを知り、自分たちの生活には多くの人に関わっていることが分かる。 ・生活したり働いたりしている人々と触れ合い、それぞれの思いや地域のよさに気付くことができる。 ・自分たちの生活は様々な人や場所と関わり、支えてくれる人がいることや、楽しく過ごせることが分かる。	地域の人々の気持ちになって考えたり、グループで協力するにはどうしたらいいか考えたりして、判断して実践することができる。 ・「春の町はっけん」から、関心をもった店や施設に行き、それらが自分とどのように関わっているのか考えることができる。 ・施設ごとにふさわしい活動を考えながら、計画を立てたり、約束やインタビューの内容を考えたりすることができる。 ・調べた内容をもとに、地域の人々の願いを知ることができる。 ・地域の方とのインタビューや、もてなす活動を通して、自身の思いを表現することができる。	地域の人たちへの愛着や積極的に関わろうとする気持ちを高める。 ・自分の良さを伝え、相手のよさを感じ取ることで、理解を深めようとする。 ・地域の人々のために、役割や出し物に積極的に参加し、身近な人たちと関わる良さを感知取ろうとする。 ・町探検やおもてなしの活動を通して、地域の人々と積極的に関わろうとしている。

(4) 仮説との関連

研究仮説

- ① 自分の良さに気づき、自分を大切にすることが育てば、自分とは異なる他者の特性も認められるようになり、人権意識の高揚につながるだろう。
- ② 地域や外部の方々など、異年齢の方との交流活動を行うことで、自分の良さに気づききっかけとなり、また他者との関わりについて考えを深めることができるだろう。
- ③ 各学年で焦点化した「人権問題」に取り組む「学習プログラム(年間計画)」を作成することで、6年間を通して段階的に視野を広げながら、人権について学びを深めていくことができるだろう。

《2学年の目指す児童像》

・友達と助け合える児童

《具体的な手立て》

- ① 友達や地域の方の話を相づちを打ちながら聞くようにさせる。言葉の例示を行い、丁寧な言葉で話すようにさせる。
- ② 学習中にペアワークやグループワークを取り入れる。
- ③ 体験的な学習や生活の場で児童同士が助け合う活動を通して、友達や地域の方と自分の違いを知る。
- ④ 地域の方との交流する場を設ける。

3 単元の目標

- ・地域の方をもてなす体験を通して、地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考え、自分たちの生活は様々な人や場所とかがわっていることが分かり、それらに親しみや愛着を持ち適切に接したり安全に生活したりしようとする。
- ・自分たちの生活や地域の出来事を人々と伝えあう活動を通して、相手のことを想像したり、伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、身近な人々と関わることの良さや楽しさが分かり、進んで触れ合い交流しようとする。

4 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	地域探検や地域の人をおもてなしする活動を通して、自分たちの生活と身近な人々との関わりや関わることの楽しさに気付いている。	地域探検や地域の人をおもてなしする活動を通して、相手のことを想像し、伝えたいことや伝え方を選ぼうとしている。	地域探検や地域の人をおもてなしする活動を通して、地域や地域の人々に愛着と親しみを持ち、進んで触れ合い交流しようとしている。
小単元における評価規準	1 ① 地域にどんな店や施設があるのかに気づき、自分たちの生活に多くの地域の人に関わっていることに気付いている。		
	2 ② お年寄りと接するときにはどのようなことに気を付ければよいのかわかっている。	① どうしたら地域の人喜んでくれるか考え、伝えることや伝え方を考えることができる。 ② どんな風に発表したらいいのか考えながら練習している。	① 地域の人たちのために、準備や出し物に積極的に参加しようとしている。
	6	③ 探検するために、どんな準備をすればいいのか、	② 思いや願いを持って、積極的に探検したい場所を決め

	7		どんな順番で回ればいいのか考えている。 ④ 場所ごとのふさわしい活動を考えながら、活動の計画を立てたり、約束やインタビューの内容を考えたりすることができる。	ようとしている。
	8		⑤ 地域のお年寄りとの接し方を工夫しながら、もてなすことができる。	③ 地域の人たちのために、自分の役割や出し物に積極的に参加し、身近な人たちと関わるよさや楽しさを感じている。
	9 10	③ 地域の人への言葉がけや態度など、時や場所に合ったマナーやルールがわかっている。 ④ 地域には、生活したり働いたりしている様々な人がいることやいろいろな工夫をしていることに気がついている。 ⑤ 町で生活したり、働いたりしている人や場所は、自分たちの生活を支えていることが分かっている。		④ 地域の人をもてなした経験を活かしながら、地域の人々に積極的に関わろうとしている。 ⑤ 自分の都合だけではなく、相手の状況を考えて、待ちたり聞いたりしながら、探検しようとしている。
	11 本時		⑥ 経験を振り返り、地域の人気持ちを想像し表現したり、進んで地域の中で自分のできることを考え、表現したりすることができる。	⑥ 地域への親しみや愛着をもって、それらの良さを大切にしようとしている。

5 指導と評価の計画(11時間扱い)

学習過程	小単元名	時間	学習活動(○)ねらい(・)	評価規準	評価方法
見 い だ す	わたしの町はっけん	1	<u>わたしたちが住んでいる地域の店や施設を知ろう。</u> ○わたしたちが住んでいる地域には、どんな店や施設があるのか春の町はっけんの経験から考える。 ・地域には、店だけではなく住んでいる人や働いている人など、色々な人がいることを知ることができる。 大人や子ども、お年寄りなど町にたくさんの人がいた。 古いものや新しいものもあった。 もっと町を探検してみたい。	知①	発言分析

自分で取り組む	おもてなし大作せん	2	<u>おもてなし大作戦「シニアと児童の集い」の準備をしよう。</u> ○いつもお世話になっている地域の人たちに喜んでもらうためにできることを考える。 ・1年生の時の交流からどんなことをしたら喜んでもらえるか考えることができる。	思① 知② 主① 思②	ワークシート分析 発言分析 行動観察
		3	○シニアと児童の集いの計画と役割の分担をする。 ・お年寄りと接する時にどのようなことに気を付けたらよいか考えて準備することができる。 司会、お礼の言葉をいう人、案内の人が必要。 パンフレットを用意するとよい。 プレゼントを用意したい。 発表をして喜んでもらいたい。		
		4	○シニアと児童の集いの準備をすすめ、発表の練習をする。		
		5	・自分の役割を確認し、発表に向けて準備することができる。		
広げ深める	町たんけんに行きたいな	6	<u>町たんけんの準備をしよう。</u> ○自分たちの住んでいる地域のお店や施設を探検する計画を立てる。	思③ 主② 思④	ワークシート分析 行動分析 ワークシート分析
		7	・訪問するときの約束やインタビューの計画を立て、それぞれの場所にあった内容を考えることができる。 町の人とはどんな気持ちでお店をしているのだろう。 古くからの町を残すためにどんなことをしているのだろう。		
まとめあげる	ようこそ、はっぴょう会	8	<u>ようこそ流山小学校へ地域の人たちに伝えよう。</u> ○「シニアと児童の集い」で地域の人を案内したり、発表をしたりする。 ・地域の人々をもてなす活動を通して、身近な人と関わるよさに気付くことができる。 (実際に高齢者や地域の人に接する経験をする。)	思⑤ 主③ 主④ 知③ 主⑤ 知④ 知⑤	発言分析 行動分析 行動分析 ワークシート分析 ワークシート分析 ワークシート分析
		9	<u>町たんけんに出発しよう。</u> ○マナーやきまりを守って行動する。 ・計画をもとに安全に気をつけて町のよさを発見する。		
		10	○グループごとに計画に沿って探検をする。 ・町で働く人々は、色々な工夫があることに気づかせる。 (地域の人や町のお店、地域の文化に接する経験をする。)		
まとめあげる	ぼく・わたしと地いきの人たち	11	<u>これからのぼく・わたしたちと地いきの人たち</u> ○シニアと児童の集いや町探検の振り返り、これから自分たちにできることを考える。 ・経験を振り返り、地域の人々の気持ちを考えながら、自分がどのように関わっていくことができるかを考えさせる。 ・地域への親しみや愛着をもって、それらの良さを大切にしようとする。	思⑥ 主⑥	ワークシート分析 発言分析
		本時			

6 人権教育上のねらい(個別の人権課題「高齢者」)

地域の高齢者との交流を通して、地域の中で生きる様々な人を尊重する気持ちを養い、積極的に地域の人々との交流を楽しむ。

7 人権教育上の視点

- (1) 自他の人権を尊重する態度を養う。(価値・態度)
- (2) 他者とよりよいコミュニケーションを取る技能を高める。(技能)

8 本時の指導(11/11)

(1) 本時の目標

○経験を振り返り、地域の人々の気持ちを想像し表現したり、進んで地域の中で自分のできることを考え、表現したりすることができる。(思考力・判断力・表現力)

○地域への親しみや愛着をもって、それらの良さを大切にしようとしている。

(学びに向かう力・人間性等)

(2) 展開

学習過程	時配	学習活動と内容 ・予想される児童の反応	○指導と支援 ◇評価(観点)〈方法〉 ◎人権教育上の配慮	備考
見 い 出 す	5 分	1. シニアと児童の集いや、町探検の活動を思い出す。 ・たくさんの人がシニアの集いに来た。 ・嬉しそうだった。 ・がんばった。 ・たくさんのお店に行った。 ・みんなで力を合わせて探検した。	○シニアの集いや町探検の様子を、写真で見せ、当時のことを想起しやすくする。	活動している写真(子どもや見ている地域の人々の表情を映したもの)
自 分 で 取 り 組 む	15 分	2. 本時のめあてを確認し合う。 地いきのなかまとして、自分はどんなことをしたらよいのだろう。 ①児童とシニアの集いを振り返る。 ○もてなし大作戦でどんなことをしたの だろう。 ・司会をした。 ・プレゼントを用意した。 ・案内をした。 ・発表をした。 ○やってみてどうでしたか。 (お年寄りと接してどうでしたか。) ・にこにこしてうれしそうだった。 ・歩きにくそうだったから、手をつないで あげた。 ・お年寄りは歩くのが遅かった。 ・プレゼントをあげたら握手をしてく れた。 ・元気もらったよと声を掛けてくれた。 ・すごくうれしい気持ちになった。 ・地いきにたくさんのお年寄りがいるん だと思った。 ・もっと地域の人にいろいろしてあげ たい。	○児童の達成感につながるように、準備 をしてきた過程を助言し、思い出させ る。 ○どれくらいの人数の人が来てくれた のかなど実際に伝える。 ◎ペアトークをさせ、他の意見に対して 肯定的な反応を返すように促す。 ○写真や動画を見返しながら実感でき るように支援する。 ◎参加者が喜んでいてという事実につ いて写真や映像を通して実感させる。 (価値・態度) ◎高齢者への配慮(ゆっくり歩く、大き な声で話すなど)について自分が気 を付けたことなどを通して考えさせ る。(技能) ◎他の人の喜びが、自分自身の喜びに 変わっていることに気付かせる。	

		②町探検について振り返る。 ○やってみてどうでしたか。 ・普段見られないところを見ることができた。 ・楽しかった。 ・地域のことを知ることができた。 ・インタビューをする時に緊張した。 ○地域の人とはどんな気持ちでお店開いたり、文化を守ったりしているのだろう。 ・地域の人に喜んでももらいたい。 ・地域の人に便利に暮らしてもらいたい。 ・昔からのことを大切にしていきたい。 ・地域の人に元気になってもらいたい。	○写真や動画を見返しながら、実感できるよう支援する。 ◎ペアトークをさせ、他の意見に対して肯定的な反応を返すように促す。 ○インタビューを元に地域の方の思いを発表するように促し、地域の方が様々な思いを持って、生活している様子をするようにする。	
広げ 深める	15 分	3. 地域の方の思いと、自分たちのシニアと児童の集いの時の気持ちに共通することを探す。 ・喜んでももらいたい。 ・うれしい気持ち。 4. 地域の人たちとどのようにかかわっていきたいかを考え意見を共有する。 ・あいさつをしたい。 ・また、発表をして喜ばせたい。 ・地域の行事に参加したい。 ・お店に行く時にありがとうって言う。 ・地域のお年寄りを大切にしたい。	○児童シニアの集いでおもてなしをした自分たちも、地域で様々なことを行っている人々も互いに良い気持ちになっていることに気付かせる。 ○児童の意見が広がるように支援していく。 ◇経験を振り返り、地域の方の気持ちを想像し表現したり、進んで地域の中で自分のできることを考え、表現したりすることができる。(思考力・判断力・表現力)〈発言、振り返りカード〉	
まとめ あげる	10 分	5. これから地域の方とどのように関わっていきたいか自分の宣言を書く。 友だちの宣言を認め合う。	○友達の意見を参考に、自分の宣言が表現できるよう支援する。 ○グループトークをして互いの認め合うようにする。 ◇地域への親しみや愛着をもって、それらの良さを大切にしようとしている。(学びに向かう力・人間性等)〈発言、振り返りカード〉	ワーク シート

(3) 板書計画 (ICT 機器活用も含む)

モニター

シニアの集いや町探検の映像や
写真を映す

黒板



地いきのなかまとして、自分はどんなことをしたらよいのだろう。

シニアととじどうのつどい

どんなことをしたか

- ・プレゼントのじゅんぴ
- ・あんない
- ・はっぴょう

お年よりの方たちのようす 気もち

自分たちの気もち

- ・よろこんでもらえた
- ・うれしかった
- ・がんばってよかった

地いきの人たちと自分たちの思い

- ・うれしい気もち
- ・よろこんでもらいたい
- ・つづけてよかった



自分たちが 地いきの人にしたいこと

- ・あいさつを自分からする
- ・ありがとう
- ・こまっていたら、たすけてあげる

町たんけん

どんなことをしたか

- ・お店のことがよくわかった
- ・町の人にインタビューした
- ・新しいはっ見がたくさん

地いきの人の気もち

- ・みんなによろこんでもらいたい
- ・お店をまもっていきたい
- ・べんりになってほしい

1 単元名「みんなちがってみんないい」～外国の文化や生活のちがいを学ぶ～

2 単元について

(1) 単元観

本単元の最終的な目標は相互理解である。

最近子どもに限らず、共通点や分類の利便性からハッシュタグをつけて第三者と繋がるうとする等、自分と似たような存在を求め、違う存在に対して受け入れることが難しい場面が多く見られる。学校現場でも、仲良しの枠を超えたグループづくりに苦勞するのも中学年以上ではよく見られる光景で、不寛容な態度がいじめにつながったり、多くの問題を引き起こす要因となったりしている。

このような問題の一つに外国の方々への偏見、差別の問題もある。千葉県では在留外国人数が192,443人、166国籍・地域にわたる場所から来日し、生活している。(令和5年6月末在留外国人統計(出入国在留管理庁)より)学校にも外国出身の両親を持つ児童が当たり前となり、外国籍の子と一緒に学び、外国はより身近になってきている。

このような背景から、「外国の言語や生活様式、文化、習慣の多様性があることに気づき、違いを認めながら、今の自分できること」という探究課題を踏まえて構想した単元である。「大切な自分、大切なあなた」という人権教育の目標に基づき、自分や相手を理解し尊重し合い、互いに助け合って生活する良さに気づき、実践しようとする態度を育てることを目指していききたい。

しかし、3年生あたりでは「外国」「海外」というとアジアを中心とした近隣諸国やメディアで見聞きするような国(戦争、スポーツ大国等)を主として考えがちであり、捉えている範囲に偏りがある。大人の価値観やメディアが子どもに大きな影響を与えていることが考えられる。「外国」に対して知識が少ない分、様々な観点からの見方・考え方ができるのも3年生くらいの年齢の良さであり、差別や偏見を強く持つ前の段階で外国人や外国の文化に触れて学ぶことに大きな意義があると考ええる。

そこで、外国の子どもたちの生活や文化をゲストティーチャーから学ぶことで広い視野を持たせるきっかけ作りをしたい。また、国際交流の一環として、文化を教えてもらうだけでなく、質問する機会も設け交流できるようにする。これらの体験活動を通して、世界には様々な文化や価値観があり、その中で暮らす人々を感じ、それぞれの文化の良さを理解し、異文化を受け入れる素地を養っていききたい。さらに、世界から見た日本という視点を持ち、ALTのインタビューを通して、外国人の抱える問題に目を向け、自分たちの関わり方を考えることによって、「違うことが当たり前」「違うからおもしろい」という態度を育てていききたい。

この態度や素地は外国だけでなく、同じ教室で学び生活している友達にも向けられるようにしたい。身近な友達に対し、お互いを理解し、相互に尊重し合う態度を育て、困っていたらサポートする行動が取れることを最終的なねらいとしている。

その学びを生かして、外国人に対しても同様の態度や素地を向けられるようにしたい。

(2) 児童の実態(147名・%)

○人権アンケート(147名・%)

	質問	とても そう思う	そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない
1	あなたは、「自分の気持ち」を大切にしていますか。	65	30	4	1
2	あなたは、「自分の良いところ」がわかっていますか。	33	46	17	5
3	あなたは、自分が「友達や周りの人から大切にされているな」と感じますか。	41	41	17	3
4	あなたは、「友達の気持ち」を大切にしていますか。	79	19	1	1
5	あなたは、友達や地域の人に、自分からあいさつしていますか。	42	48	9	1
6	あなたは、「友達や地域の人と、楽しくかかわりたい」と思っていますか。	71	26	2	1
7	あなたは、下の中で説明できる人権問題がありますか。説明できるものを全て選びましょう。	子どもの人権	お年寄りの人権	障害のある人の人権	外国人に対する差別
		73	29	22	15
		病気の人への差別	性別の悩み	住んでいる場所の差別	どれも知らない
		27	15	13	56
		その他3 無し。			
8	あなたは、人がいじめをしている場面を見たとき、どのような行動をしますか。	いじめられている人を注意する	いじめられている人を助ける	先生に相談する	家族に相談する
		53	33	42	8
		友達に相談する	何もしない	その他	
		6	5	0	
9	8の質問で「何もしない」を選んだ人に聞きます。どうしてそう思いますか。	自分がいじめられるかもしれないから	良い恰好していると思われるから	どうすればいいかわからないから	自分とは関係ないから

○外国人についての人権学習アンケート（161名・％）

1. ほかの国について知っていることはありますか？

はい・・・51 いいえ・・・49

2. 何を知っていますか？

文化・・・27 たて物・・・44 かだい・・・8 その他・・・21

3. 外国についてのニュースや知しきを自分で調べようと思いますか？

思う・・・56 思わない・・・44

4. 何について知りたいですか？

文化・・・42 たて物・・・45 かだい・・・13

5. 自分とちがう文化を知ったときにどう感じますか？

面白い・・・34 やってみたい・・・52 いやだな・・・2
きょうみがわからない・・・6 その他・・・7

本学級には、男子17名、女子16名の計33名（情緒特別支援学級3名含む）の児童が在籍している。明るく人懐っこい児童がクラスの雰囲気盛り上げており、授業もにぎやかになることが多い。また、思いやりを持った児童が多く、誰かが困っていると進んで手を差し伸べるなど、よく助け合っている印象である。しかし、細かに観察をしていくと、関わりが仲の良い友達ばかりに偏ってしまう児童がいたり、価値観や性格の異なる相手との関わりを無意識に遠ざけてしまう児童がいたり、いくつか課題が見られる。「一人ひとりが違うことの良さ、違うからこそ生まれる良さ」を丁寧に実感させる必要があると考える。

毎日の帰りの会で、「今日の一番星」というコーナーを設け、友達の良いところを発表し合い、互いの良さを実感し相互に高めあうことをねらいとした活動を行っている。しかし、友達の良さを見つけて共有する活動でとどまってしまう、実際に仲間と協力する場面では、互いの良さを活かしきれていない、もしくは活かしている実感を持っていない実態がある。また、相手の声に耳を傾けずに意見を押し付けてしまい、トラブルになる姿も見られる。それぞれの個性を生かしながら、相互に高め合っていけるような関係性を築けるよう、指導を行っているところである。

3年生の学年全体でも、「自分の気持ち」を大切にしていると答えた児童は9割をこえているが、「自分の良いところ」がよく分かっていると答えた児童は33%と4割に満たない。このことから、自信のなさや自己肯定感の低さもうかがえる。また、「あなたは、人がいじめをしている場面を見たとき、どのような行動をしますか。」に対して、相手に直接働きかける回答が58%、周りの人に相談する回答が38%と合わせると96%の児童が何かしら行動できると答えていることから、人を助けたい、助けるという意識を感じる。さらに、「人権問題をどれくらい知らない」と答えた児童は39%と半数近くいることから、外国や世間で起きている問題への視野の狭さが分かる。

3年生人権学習アンケートより、「ほかの国について知っていることはありますか？」に対し、52%が「知っている」と回答した。その中でも建物が最も多かった。日頃の外国のニュースなどを見ることによる視覚的な情報による印象が強いことがわかる。

「外国についてのニュースや知しきを自分で調べようと思いますか？」に対しては45%が「思わない」と回答し、自分から外国について知ろうとする意欲は低いことがうかがえる。

「自分とちがう文化を知ったときにどう感じますか？」に対しては、85%の児童が肯定的な回答をしている。一方で否定的にとらえる児童も一部いる。

これらの実態より、「大切な自分、大切なあなた」という目標の基、外国の文化に触れることをきっかけとし、相違点を見つけていく活動を通して、相互理解を深め、相互に尊重し合う態度を育てていきたい。そこから学級や学年へと目を向け、困っていたらサポートし合う中で自己肯定感や自己有用感も育んでいく必要がある。

学びの過程で配慮が必要だったり、困難さを抱えたりする児童がいることが予想されるため、以下の指導の工夫を行う。

- ① ICT活用により、視覚的に捉えやすく、見通しを持つことで関心意欲を高め、深い学びへとつなげていく。

- ② 互いを認め合い、発言しやすいように相づちを含めた話の聴き方、筋道を立てて話す話し方の指導をする。
- ③ ペアトーク、グループワークと小集団での話し合いから学級全体へ広げていき、誰でも発言しやすい雰囲気を作る。
- ④ ミニ先生、帰りの会での認め合い活動等の主体的・協動的な活動を通して、互いを認め合い、教え合える人間関係づくりをする。
- ⑤ 見方や立場によって、誰でも外国人になり得ることを伝えていく。

(3) 指導観

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
① 諸外国の文化や生活習慣などをゲストティーチャーによる出前授業やインターネット、本を活用して調べることを通して、日本との相違点を考えることにより見た目や文化や言葉が違っていても我々と同じように人々が集まりそこで暮らしているということを理解させるきっかけを作る。 「概念的な知識」 ② 外国の文化や言語、生活習慣など、自分の興味のあるテーマ別でICTを活用し、適切な手段で調べさせることにより、世界には自分たちとは違う人種や文化があることを理解させる。 「技能」 ③ 外国の文化に触れて相互理解する素地を活かして自分自身を振り返り、チャートに表すことによって自分の良さを改めて感じ、補い合い、助け合う必要性を理解させる。誰かを手助けしたり、されたりする中で自己有用感や自己肯定感を育てていく。 「探究的な学習の良さ」	① 諸外国の文化を様々な角度から触れさせることで多様性に富んでいて、相違点があることについて自分なりに考え、気づき、課題を決めさせる。 「課題の設定」 ② 外国の言語、文化、生活習慣の中で自分の調べたいテーマについて調べる。 「情報の収集」 ③ ICTを活用して写真などを交えて視覚的にわかりやすくまとめ、表現させる。また、国際交流の場でも受け身ではなく、自分自身で発信できる機会を設ける。 「整理・分析」 ④ 自分自身を振り返ったチャートや在日の外国人から見た日本の現状などを知る中で、相手を理解し、尊重するための方法について自分なりに考え、判断し、実践させる。自分の凸凹を視覚的に表現することで、お互いに助け合えることに気付かせ、自己有用感を高めていきたい。 「まとめ・表現」	① ゲストティーチャー、インターネット、本など、できるだけ多方面から諸外国の文化や生活習慣に触れさせ、日本と比べることで相違点があることに気づき進んで調べ、世界を知っていこうとする態度を育てる。 「自己理解・他者理解」 ② 体験活動や、自分の決めたテーマをまとめたり、友達の発表を聴いたりすることで、異文化を理解し、異なる文化を受け入れる素地を養わせる。 「主体性・協働性」 ③ 自分を見つめ直したレーダーチャートから自己理解や他者理解をさせていくとともに、外国だけでなく身近にいる友達でも相互理解する大切さに気付かせ、互いを尊重し合う態度を育み、自己肯定感を高める。また、学年の担任同士の凹みや互いに補い合っている姿を見せることで、誰にでも苦手があることが当たり前で、押しつけではなく必要な時に手を差し伸べられることに広げていきたい。 「将来展望・社会参加」

(4) 仮説との関連

研究仮説

- ① 自分の良さに気づき、自分を大切にすることが育てば、自分とは異なる他者の特性も認められるようになり、人権意識の高揚につながるだろう。
- ② 地域や外部の方々など、異年齢の方との交流活動や体験活動を行うことで、自分の良さに気づききっかけとなり、また他者との関わりについて考えを深めることができるだろう。
- ③ 各学年で焦点化した「人権課題」に取り組む「学習プログラム（年間指導計画）」を作成することで、6年間を通して段階的に視野を広げながら、人権についての学びを深めていくことができるだろう。

《3 学年の目指す児童像》

- ・相手の話をよく聞き、自分の考えも伝えることができる児童

《3 学年の具体的な手立て》

- ・相づちを含めた話の聴き方、筋道を立てて話す話し方の指導をする。
- ・ペアトーク、グループワーク、ミニ先生、主体的・協動的な活動を通して、互いを認め合い、教え合える人間関係づくりをする。
- ・ソーシャルスキルトレーニングや出前授業等の体験的な学習を通して、相手の意見を意識し、違いがあることを理解する。
- ・体験的な学習を通して得た知識や異文化を受け入れる素地を基に、自分と他者の違いを伝え合う活動をする。

3 単元の目標

「人権問題」の中から諸外国の文化や生活習慣などを、ゲストティーチャーによる出前授業やインターネット、本を活用して調べる活動や自分自身を振り返ってレーダーチャートに表す活動を通して、多様性と違いを知り、それぞれの文化の中で生活していることを理解し、受け入れられる素地を養い、そこから違うことは当たり前であり、外国に限ったことではなく身近にいて一緒に生活をしている友達同士でも相互理解の大切さに気づき、互いに尊重し合うことができるようにする。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① ゲストティーチャーの出前授業をきっかけに、諸外国の文化や生活習慣の多様性を理解している。 「概念的な知識」 ② 外国の言語、文化、生活習慣の中で、自分の調べたいテーマについて調べる方法を身に付けている。 「技能」 ③ 互いの相違点を知ることによって違いを当たり前と捉え相互理解の大切さに気付いている。 「探究的な学習の良さ」	① 諸外国の文化は多様性に富んでいて、相違点があることについて自分なりに考え、気づき、課題を決めている。 「課題の設定」 ② 外国の言語、文化、生活習慣の中で、自分の調べたいテーマについて調べている。 「情報の収集」 ③ ICTを活用して、調べたことを視覚的にわかりやすくまとめ、表現している。 「整理・分析」 ④ 相手を理解し、尊重するための方法について自分なりに考え、判断し、実践している。 「まとめ・表現」	① 諸外国の文化や生活習慣などと日本を比べ、相違点があることに気づき、進んで調べようとしている。 「自己理解・他者理解」 ② 体験活動や、自分の決めたテーマをまとめたり、友達の発表を聴いたりすることで、異なる文化を理解し受け入れる素地を養っている。 「主体性・協働性」 ③ 外国だけでなく身近にいる友達でも相互理解する大切さに気づき互いに尊重しようとしている。 「将来展望・社会参画」

5 指導と評価の計画（20時間扱い）

学習過程	時	ねらい(・) 学習活動(○)	評価方法		
			知	思	主
見 い だ す	1 ～ 2	いじめについて考える。 ○人権に関する動画から外国との違いについて考える。 ・いじめについて考えることをきっかけとし、一人ひとりには人権があることを知る。 世界の国々と日本をくらべてみよう。 ○ゲストティーチャーの話を聞き、外国の様子について知る。 ・ゲストティーチャーを招いてバングラディッシュやカンボジアの文化や生活を知り、日本と同じ点、違う点について考え、異文化への興味関心を持たせる。	知① ワー クシ ート 発言		
	3 ～ 5	世界の文化や生活を学ぼう。 ○自分が興味のある外国の衣食住や生活様式について調べ、オクリンクのカードにまとめる。 ・諸外国の衣食住や生活様式について比べ、情報収集をしながら、さらに自分で深めていきたいテーマを決める中で、諸外国への興味関心を広げる。		思① ワー クシ ート 発言	主① ワー クシ ート 発言
自 分 で 取 り 組 む	6 ～ 11	世界の文化や生活を調べよう。 ○自分で決めたテーマ(衣食住や生活様式等)について、本や公式サイトで調べ、オクリンクのカードにまとめる。 ・諸外国の衣食住や生活様式等、自分で決めたテーマについての情報を収集する。本や公式サイト等を活用してまとめる中で、諸外国についての理解を深める。	知② ワー クシ ート 発言	思② ワー クシ ート 発言	
広 げ 深 め る	12 ～ 13	世界の文化や生活を伝え合おう～みんなちがってみんないい ○自分のまとめたテーマを学級、学年の友達に伝える。 ・まとめたテーマについて本や公式サイト等を活用し他の友達に知らせる中で、諸外国についての理解を広げる。		思③ ワー クシ ート 発言	主② ワー クシ ート 発言
	14 ～ 16	世界へ日本のすてきを発信しよう ○ゲストティーチャーの話を聞き、各国の文化について知る。 ・国際理解交流会で各国の文化をゲストティーチャーから学び、自分たちのことも紹介する体験活動を通して、受け身ではなく相互の関係を築く楽しさを学ぶ。 世界から見た日本を学ぼう ○ALTへのインタビューを通して、外国から見た日本について知る。 ・身近な外国人であるALTへのインタビューを通して、日本の生活や文化等は、外国からどのように見られているのか、来日した人はどんなことに困っているのかを考え、外国の人々との関わり方について考える。 ※国語科 「くらしと絵文字」	知③ ワー クシ ート 発言		主② ワー クシ ート 発言

まとめあげる	17	カレーの中身は…？～みんなちがってみんないい～ ○各家庭の食生活等を題材に、私たちのより身近にある違いについて知るとともに、それぞれの良さに気が付く。 ※道徳科 個性の伸長「じゃがいもの歌」	知③ ワー クシ ート 発言		
	18 ～ 20 (本 時 19)	わたしたちには、どんなチーム名がぴったりだろうか。 ○自分の持つ特徴や個性について、レーダーチャートを用いて分析・表現するとともに、異なる力があるからこそ補完し合える関係であること、自分や友達の特徴に気付く。 ・外国の文化等で得た知識や異文化を受け入れる素地を基に、身近な人達や自分自身へ目を向ける。 ・学年目標「チャレンジ」に絡めて、周りの友達や外国人に対して、違いを受け入れ助け合う行動にチャレンジできることに気付く。		思④ ワー クシ ート 発言	主③ ワー クシ ート 発言

6 人権教育上のねらい（個別の人権課題「外国人」）

ゲストティーチャーによる出前授業や国際理解教育の体験活動から、外国の文化の多様性を理解し、日本在住の外国人が抱えている人権問題があること学ぶ活動を通して、外国の人々の生活習慣やものの考え方、文化の違いがあることに気付き、違いを認め合いながら、広い視野を持ち、相互理解ができる素地を養う。また、外国人に限らず、同じ教室で生活している友達に対しても、その素地を生かして、違いを相互理解し、互いに尊重し合う態度を養う。

7 人権教育上の視点

- (1) 国際理解教育やALTなど身近な外国の方のインタビューから在日の外国人が抱える問題があることを知り、相違点があることが当たり前という共感的に理解する。(知識)
- (2) ゲストティーチャーの出前授業をきっかけに、諸外国の文化や生活習慣の多様性を受容したり、違いを認めたりする態度を養う。(価値・態度)
- (3) 外国だけでなく身近にいる友達でも相互理解する大切さに気付き、互いに高め合っていけるような関係性を築く。(技能)

8 本時の指導 (19/20)

(1) 本時の目標

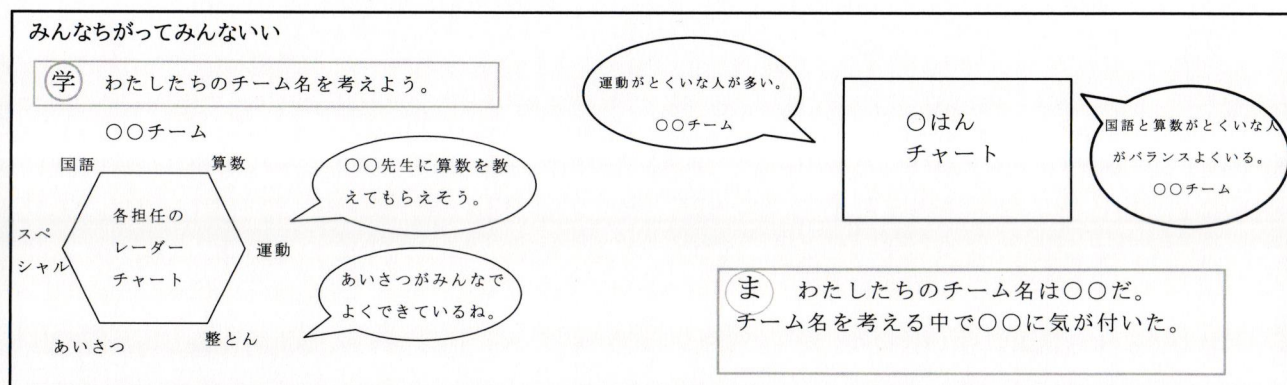
- ・外国だけでなく身近にいる友達でも相互理解する大切さに気付き、互いに尊重しようとしている。
【主体的に学習に取り組む態度】

(2) 本時の展開

時 過 配 程	学習活動と内容	指導・支援 (○) と 評価 (◇)	備考
見 い だ す (5分)	1 前時までの活動の写真で振り返りをする。 ・各担任のレーダーチャートを見て、凸凹に気付く。 2 めあてを確認する。	◎人権教育上の配慮 ◎異文化理解を通して、違うことが当たり前で面白いということを再確認させる。(知識) ○それぞれに違いや特徴があったことを振り返らせる。 ○各担任の自己分析レーダーチャートから人によって凹み方が違うことに気付かせる。 ◎凸凹を確認したうえで、その特徴に目を向けられるよう促す。(価値・態度)	資料 (写真、レーダーチャート用のファイル) レーダーチャート (紙媒体)
自 分 で 取 り 組 む (10分)	3 活動の方法を知る。 (1) 児童のレーダーチャートを配付する。 (2) チームを作り、自分のレーダーチャートを重ねる。 (3) 重ねた結果について、考えたことや気付いたことをチームの友達と話し合う。	○チームごとのファイルを準備し、数値を比較させる。 ○チームの特徴を見付けやすいように、各担任のレーダーチャートで気づいたことを想起するよう促す。 ○自チームの結果を班長がタブレットで撮影する。 ◎外国の学習で得た、互いの相違点を知ることの違いを当たり前と捉える素地を活かして、自分と友達のありのままの姿を受け入れる。(知識)	レーダーチャート

広げ深める (20分)	4 結果を確認する。 <予想される児童の反応> ・国語が得意な人が多いから〇〇チームだ ・三人で重ねたら、けっこう円に近づいた。 ・三人とも、似たような形だから〇〇チームだ。 ・どうしても△△がへこんだままだった。 ・〇〇さんがいれば、円に近づくかもしれない。	○担任チームの結果を例に全体でその特徴に合うチーム名を考えさせる。 ○担任チームの例で考えたことを基に、自チームの結果でも同様に考えさせる。 ○チーム名が付いた自チームの結果を班長がタブレットで撮影し、ミラישードに送らせる。 ○他チームの結果を確認する時間を取る。 ○チームを一つ取り上げ、そのチームの特徴から、どんなチーム名がつけられるか話し合う。 ◎話し合いで出たチーム名と、モデルのチームのチーム名を見比べ、同じであれば見方を褒め、違っていれば多様な視点があることに気づかせる。(技能)	タブ レ ット ワーク シート
まとめあげる (10分)	5 振り返りをする。 わたしたちのチーム名は〇〇だ。 チーム名を考える中で〇〇に気が付いた。	○チーム名を考える活動を通して、自分や友達の特徴に目を向けて、気づいたことを書かせる。 ○振り返りを共有させ、これからの学級経営につなげていく。 ◇外国だけでなく身近にいる友達でも相互理解する大切さに気づき、互いに尊重しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度・ワークシート・発言】	ワーク シート

(3) 板書計画 (ICT 機器活用も含む)

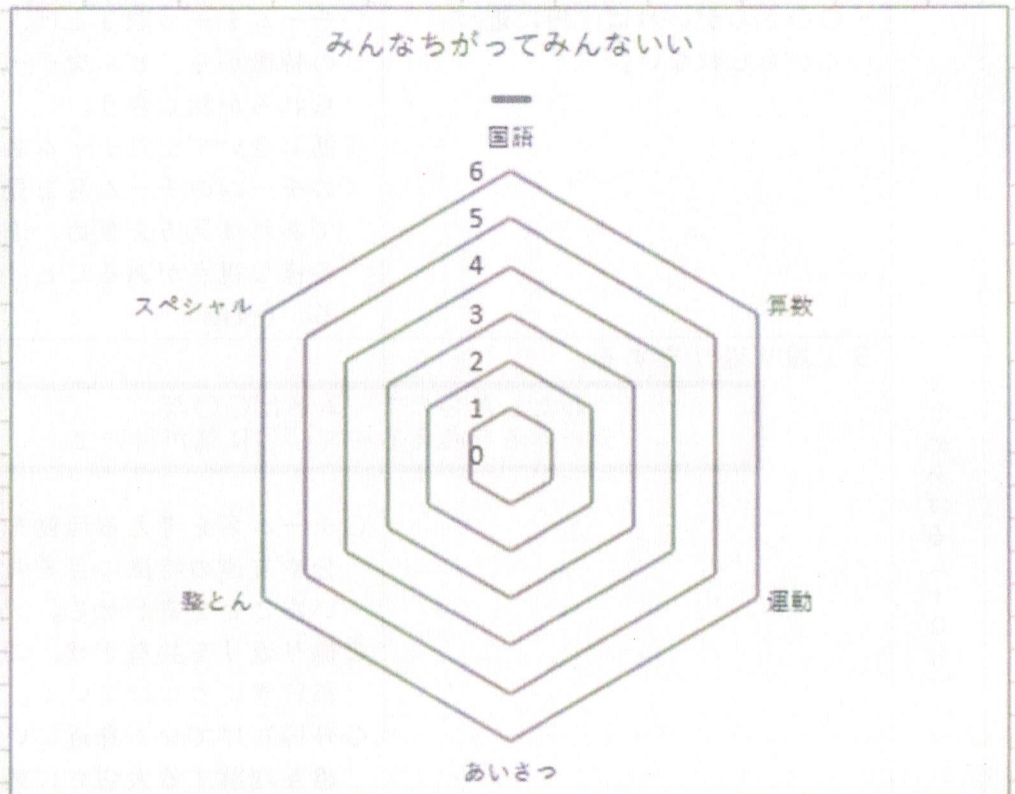


みんなちがって、みんないい

3年 組 番 ()

--	--

国語	
算数	
運動	
あいさつ	
整とん	
スペシャル	6



わたしたちのチーム名は、

チーム名を考える中で、

7・8月指導案 修正ポイント

- 1 5 指導と評価の計画「まとめあげる」のゴールを変更。最終的な着地点として、児童同士の相互理解や相手と違うものに対して受け入れる態度とした。ねらいと学習活動を明確に分けた。
- 2 8 本時の指導（2）本時の展開「見いだす」人権教育上の配慮 で凹凸を補う形ではなく、重ねた際の特徴に目を向けるよう促すこととした。
- 3 8 本時の指導（2）本時の展開「見いだす」「自分で取り組む」指導・支援 で後の活動で活用するために、自グループの結果を班長に撮影する活動を入れる。
- 4 8 本時の指導（2）本時の展開「自分で取り組む」指導・支援 でチームの特徴を見付けさせるとした。
- 5 8 本時の指導（2）本時の展開「広げ深める」の予想される児童の反応と指導・支援、人権教育上の配慮 でグループで円に近づく活動というより、チームの特徴から名前を考える活動とした。
- 6 学習課題とまとめを①に沿うような形とした。
- 7 板書計画を上記の点に伴って変更している。
- 8 ワークシートの形式を追加した。

3 学年 9. 地域や外部人材を活用した体験的活動等の実践記録

①日 時 令和5年9月14日(木)

講座名 「小学校人権教室～人権の花～」

講 師 流山市人権擁護委員・松戸市人権擁護委員 様

目 的 人権擁護委員の方を招き、小学校人権教室『プレゼント』の出前授業を行い、いじめについて考えることをきっかけとし、一人ひとりには人権があることを知る。

内 容 小学校人権教室授業「プレゼント」

反 応 ぐんぐんタイムで人権について触れていたもので、その知識と合わせながら、動画視聴したり講師の話を聞いたりできていた。いじめがいけないことと再認識できた。

②日 時 令和5年9月21日(木) 22日(金)

講座名 「世界の国々と日本を比べてみよう～バングラデシュ編～」

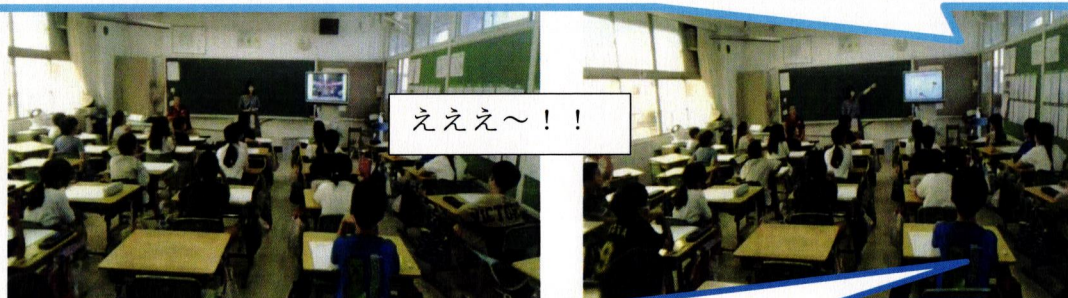
講 師 Sunday Morning Factory株式会社 Haruulala 石出 けい 様/石出 猛 様

目 的 バングラデシュでの生活や文化を学び、外国の文化への興味関心を高めるとともに、当たり前がないことに気づく。

内 容 バングラデシュで活動されている方をゲストティーチャーとして招き、日本との相違点を知る。

反 応 バングラデシュの生活に素直に驚いていた。外国は日本と違うところがたくさんあるだけでなく、似ているところもあるのだという視点で話を聞き、メモを取っていた。当たり前がないことに気づき、外国への興味が高まり、視野が広がった。外国の食文化から家庭の味へ結びつけて、家庭ごとの調味料や材料の違いから自分事として考えることができた。

バングラデシュでは、3食カレーです！ベットの上で食べることもあります。



いいなあ。日本は風邪の時しかベッドでは食べられないよ。

1 単元名「ともに生きる～わたしたちにできること～」

2 単元について

(1) 単元観

インクルーシブ教育システムの実現に向けてさまざまな課題がある中、日常の生活で障がい者とふれあう機会は少なく、障がい者福祉という視点で社会を見ている児童は少ない現状がある。

本単元では、福祉施設の協力も仰ぎ、障がいのある人とふれあう場をもつことで、その人の立場になって体験したり考えたりして、『ともに生きることの大切さ』を実感させる。共生社会の実現に向け、互いの人権や個性を尊重し、共に助け合い支え合って生きていくことの大切さを実感させることは大きな意義をもつ。そして、自分に『どんなことができるのか』という課題をもとに、体験して考えたことから実際の行動につなげられるようにしていく。

さらには、自分たちの住む地域に目を向けさせ他人のことも大切にしていこうとする態度を育てていきたいと考える。「障がい＝かわいそう、自分と違う」という心の中の差別や偏見を無くし、お互いの個性として理解し、「ともに生きる大切さ」を考えさせていく。

(2) 児童の実態

人権アンケート（185名・％）

	質問	とても そう思 う	そう思 う	あまりそう 思わない	そう 思わな い
1	あなたは、「自分の気持ち」を大切にしていますか。	51	44	3	3
2	あなたは、「自分の良いところ」がわかっていますか。	30	46	19	5
3	あなたは、自分が「友達や周りの人から大切にされているな」と感じますか。	41	41	15	3
4	あなたは、「友達の気持ち」を大切にしていますか。	70	28	2	0
5	あなたは、友達や地域の人に、自分からあいさつしていますか。	45	42	12	1
6	あなたは、「友達や地域の人と、楽しくかかわりたい」と思っていますか。	61	34	5	1
7	あなたは、下の中で説明できる人権問題がありますか。説明できるものを全て選びましょう。	子どもの 人権	お年寄 りの人 権	障がい のある 人の人 権	外国人 に対す る差別
		45	17	10	16
		病気の 人への 差別	性別の 悩み	住んで いる場 所の差 別	どれも 知らな い
		16	12	8	34
		その他 3			
		・男女差別 ・知っているが説明はできない			

8	あなたは、人がいじめをしている場面を見たとき、どのような行動をすると思いますか。	いじめ ている 人を注 意する	いじめ られて いる人 を助け る	先生に 相談す る	家族に 相談す る
		21	36	24	3
		友達に 相談す る	何もし ない	その他 1	
		4	2	・注意して助ける。 ・助けて先生に相談 する	
9	8の質問で「何もしない」を選んだ人に聞きます。どうして そう思いますか。	自分が いじめ られる かもし れない から	良い恰 好して いると 思われ るから	どうす ればい いかわ からな いから	自分と は関係 ないか ら
		60	0	0	20
		その他 20			
		余計なことになりそうだから			

人権課題に対するアンケート (180名・%)

1	下のもので知っているものを全て選びましょう	車いす	補聴器	白杖
		99	72	41
		盲導犬	点字器	知らない
		67	43	0
2	パラリンピックやパラスポーツについて当てはまるものを選んでください	一つ以上の種目 について説明で きる		説明できないが、 試合などを見た ことがある
		14		54
		見たことはない が、種目の名前を 知っている		何も知らない
		13		19
3	あなたは、友達が困っている場面を見つけたときどうしますか	助ける(声かけを する)		周りの友達に相 談する
		80		8
		大人に相談する		何もしない
		9		3
4	あなたは、知らない人が困っている場面を見つけたときどうし ますか	助ける(声かけを する)		周りの友達に相 談する
		36		26
		大人に相談する		何もしない
		28		13
5	あなたは、障がいを持つ人をかわいそうだと思いますか	思う		思わない
		94		6

本学級は、男子１８名、女子１６名、計３４名(特別支援学級含む)である。普段の授業では、自分の考えを積極的に相手に伝えたり、相手の考えを受け止めたりする児童が多い一方、自分の考えに夢中になってしまい、友達の意見を聞けない児童もいる。

そこで、２つのアンケートを実施した。人権についてのアンケートでは、「あなたは、自分が『友達や周りの人から大切にされているな』と感じますか。」という問いでは、８２％の児童が「とても感じる、少し感じる」と答えた。「あなたは、『友達の気持ち』を大切にしていますか。」という問いでは、９８％の児童が「とても大切にしている、まあ大切にしている」と答えた。また、「あなたは、下の中で説明できる人権問題がありますか。説明できるものを全て選びましょう。」という問いでは、３４％の児童が「どの人権問題も知らない」と答えた。以上の結果から、そもそもどんな人たちがいるのか知らない児童が多いこと、友達を大切にしたい協力し合って活動に取り組もうとする児童が多いことが分かる。

次に、障がいテーマにしたアンケートでは、車いすについて知っている児童が９９％、補聴器について知っている児童が７２％と高いものの、白杖について知っている児童は４１％となった。また、パラリンピックやパラスポーツについては、説明できる児童や見たことある児童が６９％になるが、何も知らない児童も１９％となる。友達が困っている場面を見つけたときに助けようとする児童が８０％というが、知らない人が困っている場面では、助けようとする児童は３６％まで減少した。障がいをもつ人をかわいそうと思う児童は９４％となった。以上の結果から、障がいに関しても身近なものや友達への関心は高いこと、知らないことや相手に対し消極的になってしまうこと、障がいを持つ人に対してかわいそうという意識が強いことがわかる。

そして、本学級は居住地校交流で聾学校の児童とも関わりをもっている。相手のことを考えて、「正面から目を見て、ゆっくりと話す」など、自分たちでできることを積極的に行動している姿が窺えた。本単元では障がいのある人と関わる場を想定して、(ともに生きる人を広く捉え、)同じ社会に生きる人間として互いを理解し助け合って生きていくことの大切さを学んでいくようにさせる。

学びの過程で困難さを感じる児童がいることが予想されるため、以下の指導の工夫を行う。まずは、教師の指示や友達の発表を理解しやすいように、座席を前方２列目までに配置する。また、児童がお互いに確認、協力し合う環境にするため、班活動を日々取り入れて話しやすい関係づくりを行う。人権に対する児童の理解を一定にするため、教師が確認のタイミングを適宜入れていく。そして、分かりやすく情報を捉えられるように、板書やＩＣＴを取り入れて視覚的な情報提示を行う。

(３) 指導観 (育成を目指す資質・能力を明確にして記載する)

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
①障がいや障がい者問題について共感的に理解する能力を身に付ける。そのために、まずは実際の感覚が掴めるように車椅子体験や白杖体験を設定する。 「概念的な知識」 ②知識としても理解を深められるよう、心身障がいについてICTを活用して調べ学習を取り組もうとする。 「技能」 ③社会のユニバーサルデザ	①障がいのある人の立場や状況から、自分にできることを考え、実践する力を身に付ける。そのために、まずは障がいのある人の状況を体感できるように車椅子体験や白杖体験を設定する。 「情報の収集」 ②自分にできることを考えやすいように、道徳科の題材をモデルとして考える時間を設定する。 「整理・分析」	①一人ひとりの違いを認め、共に生きていくことの大切さに気づき、人権意識に支えられた実践を進んで行おうとする力を身に付ける。そのために、まずは一人ひとりの違いを認め共に生きる良さを感じられるよう、道徳科の題材でじっくりと向き合う時間を設定する。 「自己理解・他者理解」 ②人権意識に支えられた実践に積極的に行えるよう、実践週間、その後の振り返り

インに目が向くよう、道徳科で触れたり、身近にあるものを話し合ったりする活動を設定する。 「探究的な学習の良さ」	③友達と協力して考えを深められるよう、考えの共有方法を工夫する。 「まとめ・表現」	の場を設定する。 「将来展望・社会参画」
--	--	-------------------------

(4) 仮説との関連

研究仮説

- ①自分の良さに気づき、自分を大切にすることが育てば、自分とは異なる他者の特性も認められるようになり、人権意識の高揚につながるだろう。
- ②地域や外部の方々など、異年齢の方との交流活動や体験活動を行うことで、自分の良さに気づくきっかけとなり、また他者との関わりについて考えを深めることができるだろう。
- ③各学年で焦点化した「人権課題」に取り組む「学習プログラム（年間指導計画）」を作成することで、6年間を通して段階的に視野を広げながら、人権についての学びを深めていくことができるだろう。

《4学年の目指す児童像》

- ・相手の立場になって考え、行動することができる児童

《4学年の具体的な手立て》

- ・友達の行動を褒め合う活動を通し、自己開示をしやすくし、相手の良さに目を向けさせる。
- ・ペアトークやグループトークなど互いの考えを伝え合う場を設け、友達の意見を聞く機会を増やす。
- ・ソーシャルスキルトレーニングなどを通し、相手と考えが異なっても安心して発言できる環境づくりを行う。

3 単元の目標

- (1) 多くの体験学習を通して、障がいや障がい者問題について正しく理解し、自分なりの課題意識を持って学習を進めることができる。
- (2) 多くの体験学習を通して、障がいのある人が住みよい条件は、誰にとってもよい条件であることに気付くことができ、自分たちができることを考え実践しようとするすることができる。
- (3) 多くの体験学習を通し、一人ひとりの違いを認め、共に生きていくことの大切さに気付く、人権意識に支えられた実践を進んで行うことができる。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 多くの体験学習を通して、障がいや障がい者問題について正しく理解している。 「概念的な知識」 ② 多くの体験学習を通して、障がいのある人の立場や状況を共感的に理解している。 「技能」 ③ 体験して考えたことから、自分なりの課題意識を持って実践する力を身に付けている。 「探究的な学習の良さ」	① 多くの体験学習を通して、障がいや障がい者問題について自分事として考え話し合っている。 「情報の収集」 ② 多くの体験学習を通して、障がいのある人の立場や状況から、自分にできることを考えている。 「整理・分析」 ③ 体験して考えたことから、自分のできることを考え、実践している。 「まとめ・表現」	① 多くの体験学習を通して、障がいや障がい者問題について、自分なりの課題意識を持って取り組もうとしている。 「自己理解」 ② 多くの体験学習を通して、一人ひとりの違いを認め、共に生きていくことの大切さに気付く、考えようとしている。 「将来展望・社会参画」 ③ 体験して考えたことから、人権意識に支えられた実践を進んで行おうとしている。 「将来展望・社会参画」

5 指導と評価の計画（14時間扱い）

学習過程	時間	ねらい(・) 学習活動(○)	評価方法		
			知	思	主
見 い だ す	1 ～ 3	・ パラスポーツの学習から障がいについて知る。 ○パラリンピックの競技について知り、その意義について考える。 ○パラリンピックは何のためにルールが変更されているか考える。 ○パラスポーツ体験をして、障がいのある人の活躍を知る。	① ワー クシ ート 発表		
自 分 で 取 り 組 む	4 ～ 7	・ 障がいのある人がどこで困ることがあるか考える。 ○車椅子体験を通して、障がいについて知り、障がいがあるということはどういうことなのかを考える。 ○車椅子体験をして、感じたことや考えたことについて意見交流する。 ○心身障がいについて知る。 ○障がい者は何に困っているか考え、話し合う。	② ワー クシ ート 発表	① ワー クシ ート 発表	
広 げ 深 める	8	・ 障がい者の思いや願いを知り、自分にできることについて考える。 *道徳科「点字メニューにちょうせん」 ○教材を読み、登場人物の思いや行動について話し合う。 ○生活を振り返り、自分にできることを考える。		① ワー クシ ート 発表	① ワー クシ ート 発表
	9 ・ 10 (本時) ・ 11	・ 生活の中で自分にできることを考える。 ○白杖体験を通して、障がいのある人の立場や状況を踏まえて自分にできることを考える。 ○白杖体験をして、感じたことや考えたことについて意見交流する。 ○障がい者は何に困っているか考え、話し合う。 ○前時を踏まえ自分にできることを考え、話し合う。		② ワー クシ ート 発表	② ワー クシ ート 発表
ま と め あ げ る	12 ・ 13 ・ 14	・ 自分のできることを実践して、全体で共有する。 ○体験して考えたことから、実践週間を決めて取り組む。 ○取り組んだことを、全体で共有する。 ○校内を見て回り、障がいのある人も一緒に生活するための改善できる点を探す。	③ ワー クシ ート 発表	③ ワー クシ ート 発表	② ワー クシ ート 発表

6 人権教育上のねらい（個別の人権課題「障がいのある人」）

すべての人々が、互いに理解し合える住みやすい社会づくりについて考え、そのために行動しようとする精神を養う。

7 人権教育上の視点

- (1) 障がいのある人たちの立場にたった学習を通して、相手の立場を思いやりお互いを認め合い支え合おうとする。（知識）
- (2) 自分の周りにいる障がいのある人に対する差別や偏見をなくすために、相違を認めて受容する技能を高める。（技能）
- (3) 障がいのある人たちと共に生きていく地域で自分ができることは何かを考え実践しようとする。（価値・態度）

8 本時の指導 (10/14)

(1) 本時の目標

- ・白杖体験を通して、障がいのある人の立場や状況から困り感を考えることができる。
(思考・判断・表現)
- ・白杖体験を通して、一人ひとりの違いを認め、共に生きていくことの大切さに気づき、考えようとしている。

(主体的に学習に取り組む態度)

(2) 本時の展開

◎人権教育上の配慮

時 過 配 程	学習活動と内容	指導・支援 (○) と 評価 (◇)	備考
見 い だ す (5分)	1 これまでの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。	○これまでの学習を想起させ、本時の方向付けをする。 ◎障がいのある人の困り感に気づきやすいよう、前時の写真で振り返る。(知識)	テレビ 写真
自 分 で 取 り 組 む (7分)	2 目の不自由な人の困り感について考え、タブレットのホワイトボードに記入していく。 〈予想される児童の反応〉 ・歩き出すのが怖い。 ・何があるか分からない。 ・片手が空かない。 ・他の人の助けが必要、申し訳ない。 ・騒がしいと状況が分からない。 ・車や自転車、段差が怖い。 ・誰に話しているか分からない。 ・相手の表情が見えない。	○様々な困り感に気づくことができるよう、前時の車椅子体験や白杖体験の様子、地域での生活の仕方を想起するよう助言する。	タブ レ ット
広 げ 深 め る (25分)	3 出てきた意見をグループ内で共有し仲間分けを行う。 〈予想される児童の反応〉 ・学校、家、室内 ・移動手段 ・学習 ・心の中	○話し合いがスムーズに進むよう、机を班学習の隊形にするよう促す。 ◎どんな困り感の種類があるか視覚的に分かるよう、仲間分けするよう促す。(価値・態度)	タブ レ ット
	4 各班の仲間分けしたものをともに、困り感を全体で整理する。	○他の班の困り感に注目して新たな気づきを得られるよう、共通点を探すよう助言する。 ◇白杖体験を通して、障がいのある人の立場や状況から困り感を考えることができる。(思考・判断・表現) 〈行動・発言の考察、付箋〉	

まとめあげる
(8分)

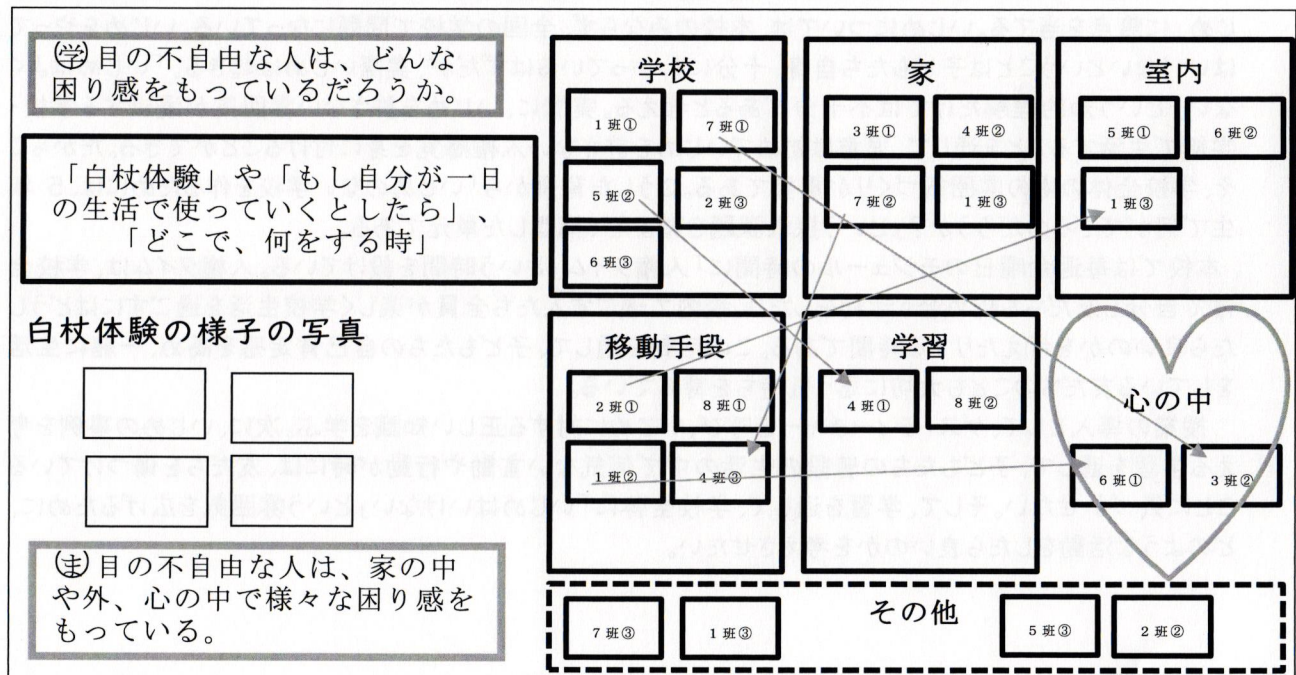
5 まとめ、次時の見通しをする。

◇白杖体験を通して、一人ひとりの違いを認め、共に生きていくことの大切さに気づき、考えようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

目の不自由な人は、家の中や外、心の中で様々な困り感をもっている。

◎次時の内容につなげられるよう、気づいた困り感から、それを小さくするためにある工夫や自分にできることを考えさせる。(価値・態度)

(3) 板書計画・プロジェクターの投影 (ICT 機器活用も含む)



第5学年4組 総合的な学習の時間 指導案

指導者 菅 慎一郎

1 単元名 流山小さいじめゼロ運動 ～5年生からのメッセージ～

2 単元について

(1) 単元観

文部科学省では、学校における人権教育の目標として、「一人ひとりの児童生徒がその発達段階に応じ、人権の意義・内容や重要性について理解し、[自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること]ができるようになり、それが様々な場面や状況下での具体的な態度や行動に現れるとともに、人権が尊重される社会づくりに向けた行動につながるようにすることが、人権教育の目標である。」と定められている。

その目標を受け、5年生では「子どもの権利」について学習する。子どもの権利の中でも一番身近な「いじめ」に焦点を当てる。いじめについては、本校のみならず、全国の学校で問題になっている。いじめをやってはいけないということは子どもたち自身、十分にわかっているはずだが、実際いじめは起きる。「いじめはよくない」という知的理解だけでは不十分であると考え。実際に、いじめを許さない雰囲気浸透する学校・学級で生活することを通じて、児童は初めていじめを許さない人権感覚を身に付けることができる。だからこそ、学校全体の場の雰囲気づくりが重要である。こうした背景から「いじめのない学校を作るためには、5年生で何ができるのだろうか?」という探求課題を踏まえて構想した単元である。

本校では毎週金曜日のモジュールの時間に「人権タイム」という時間を設けている。人権タイムは、学校全体で自分も友だちも認め合う活動をしたり、校内で過ごす人たち全員が楽しく学校生活を過ごすにはどうしたら良いのかを考えたりする時間である。この活動を通して、子どもたちの自己肯定感を高め、一緒に生活をしている友だちのことも大切に思う気持ちを育てている。

授業の導入として、ゲストティーチャーを呼び、いじめに対する正しい知識を学ぶ。次に、いじめの事例を考える学習を通して、子どもたちの普段の生活の中で何気ない言動や行動が時には、友だちを傷つけていることに気づかせたい。そして、学習を通して、学校全体に「いじめはいけない」という雰囲気を広げるために、どのような活動をしたら良いのかを考えさせたい。

(2) 児童の実態

A 人権アンケート (5年生188名・%)

	質問	とても そう思う	そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない
1	あなたは、「自分の気持ち」を大切にしていますか。	40	52	6	2
2	あなたは、「自分の良いところ」がわかっていますか。	31	48	17	4
3	あなたは、自分が「友達や周りの人から大切にされているな」と感じますか。	37	46	3	14
4	あなたは、「友達の気持ち」を大切にしていますか。	60	36	4	0
5	あなたは、友達や地域の人に、自分からあいさつしていますか。	34	50	14	2
6	あなたは、「友達や地域の人と、楽しくかかわりたい」と思っていますか。	61	32	4	3

7	あなたは、下の中で説明できる人権問題がありますか。説明できるものを全て選びましょう。	子どもの人権	お年寄りの人権	障害のある人の人権	外国人に対する差別
		119	45	64	55
		病気の 人への 差別	性別の 悩み	住んでい る場所の 差別	どれも知 らない
		47	55	31	29
		その他 8			
		・宗教		・人種差別	
8	あなたは、人がいじめをしている場面を見たとき、どのような行動を すると思いますか。	いじめ ている 人を注 意する	いじめら れている 人を助け る	先生に 相談す る	家族に 相談す る
		48	40	43	5
		友達に 相談す る	何もし ない	その他 2	
		17	9	・近くの大人に相談す る	
9	8の質問で「何もしない」を選んだ人に聞きます。どうしてそう思い ますか。	自分が いじめ られる かもし れない から	良い恰 好して いると 思われ るから	どうす ればい いかわ からな いから	自分と は関係 ないか ら
		9	0	0	0
		その他 0			
		無し			

B いじめに関するアンケート（5年生188名・%）

質問		ある 思う	ない 思わない
1	今までいじめられたことはありますか？	42	58
2	いじめられた時、誰かに相談できると思いますか。	76	24
3	いじめられている人を見たことがありますか？	51	49
4	いじめられている人を助けたことがありますか？	39	61
5	いじめを見たとき、自分から何か行動しようと思いますか？	93	7

Aのアンケートの結果より、以下のことが推測できる。4, 6の回答を見ると、多くの児童は、友だちを大切に
して、仲良く関わりたいと思っていることがわかる。8の回答を見ると、半数以上の児童が人権問題をあまり知らな
いことがわかる。

Bのアンケートの結果より、以下のことが推測できる。2の結果より、全体の24%の児童が、いじめに合っ
ても相談しづらいことがわかる。5の結果より、多くの児童がいじめに対してできることをしたいという思いをもっ
ていることがわかる。しかし、4の結果より、実際に行動に移せている児童は少ないこともわかる。

5年4組は、活発で素直な児童が多く、どの教科においても意欲的に学習に臨んでいる。友だちと交流することを好む児童も多く、学習の中で意見を共有する際には、教室内を歩き回り時間いっぱい自分の意見を友だちに伝えようとする姿が見られる。このように元気で明るい4組だが、幼さ故の課題も存在している。例えば、自分の思いを伝える際に、きつい言い方で相手を傷つけてしまい、トラブルにつながるがあった。

このような実態を踏まえ、以下の2点に重点を置いて授業を構想する。

① 自分の思いの上手な伝え方を考えさせる。

Aのアンケートの4, 6の回答を見ると、多くの児童は、友だちを大切にして、仲良く関わりたいと思っていることがわかるが、実際は、自分の思いを伝える際に、きつい言い方で相手を傷つけてしまう児童がいる。そこで、どのように話せば、相手を嫌な気持ちにさせないで自分の思いを伝えられるか、考えさせる授業を展開する。授業の中で、善悪の事例を示したり、柔らかい言葉への言い換えをしたりして、一人ひとりのコミュニケーション能力の向上を図る。

② いじめに対して、どう行動するべきか理解させる。

Aのアンケートの8の回答を見ると、半数以上の児童が人権問題をあまり知らないことがわかる。また、Bのアンケートの2,4,5の結果より、児童の多くは、いじめが実際に起きた時、具体的な行動が取れないと予想できる。そこで、ゲストティーチャーを招き「いじめを法的な観点から学ぶ」「子どもの権利条約について学ぶ」といった授業を行い、いじめや人権への理解を深めさせる。また、いじめに対してどのような行動を取れば良いか考える活動を行い、具体的な対応の仕方をイメージさせる。

(3) 指導観

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①いじめの原因や構造、いじめが人権にどう関係しているのか知るとともに、人権は誰もが守られるべきであることを理解する。 「概念的な知識」	①課題の解決に向け、何をするのか、何のためにするのかを意識し、解決の見通しをもつことができる。 「課題の設定」	①自分の特長や良さを理解するとともに、友だちの特長や良さを知り、大切にしようとする。 「自己理解・他者理解」
②いじめはやってはいけないという正しい知識を身につけることができる。 「技能」	②課題の解決に必要な情報を収集し、情報を効率的に発信する手段を選択することができる。 「情報の収集」	②いじめのない学校づくりを目的とした啓発活動を考える中で、互いの思いや考えを尊重しながら、協力して問題の解決に取り組もうとする。 「主体的・協働性」
③いじめに対する自らの認識の高まりは、学校からいじめをなくすために探究的に学習してきた成果であると気付く。 「探究的な学習の良さ」	③いじめのない学校づくりについて、「何を題材にするか」「どの立場から伝えるか」「意味があるか」等、自分なりの根拠を見いだすことができる。 「整理・分析」 ④活動を通して学んだことを、相手や目的に応じて効果的に表現することができる。 「まとめ・表現」	③探究的な学習を通して、実社会や実生活の問題の解決に、自分事として取り組もうとする。 「将来展望・社会参画」

(4) 仮説との関連

研究仮説

- ①自分の良さに気づき、自分を大切にする気持ちが育てば、自分とは異なる他者の特性も認められるようになり、人権意識の高揚につながるだろう。
- ②地域や外部の方々など、異年齢の方との交流活動や体験活動を行うことで、自分の良さに気づききっかけとなり、また他者との関わりについて考えを深めることができるだろう。
- ③各学年で焦点化した「人権課題」に取り組む「学習プログラム(年間指導計画)」を作成することで、6年間を通して段階的に視野を広げながら、人権についての学びを深めていくことができるだろう。

《5学年の目指す児童像》

- ・物事を正しく判断することができる児童

《5学年の具体的な手立て》

- ①自他の良さを認めて伝え合うことで、お互いを認め合う場面を作る。
- ②周りの人とより良く生活するために学級全体での話し合い活動を通し、たくさんの友だちの考えに触れる。
- ③グループエンカウンターを取り入れ、仲間づくりの大切さを知る。
- ④流山小学校の全校児童が楽しい学校生活を送れるようにいじめについて考え、いじめを防止するための啓発活動に取り組ませる。

3 単元の目標

「人権問題」の中から「いじめ問題」について深く知り、流山小学校の全校児童にいじめ防止を伝える啓発活動を通して、自分の身近にも人権問題が存在していることを理解し、それらをなくすためにできることがあるか積極的に考えるとともに、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①いじめの原因や構造、いじめが人権にどう関係しているのか知るとともに、人権は誰もが守られるべきであることを理解している。 「概念的な知識」 ②いじめはやってはいけないという正しい知識を身につけている。 「技能」 ③いじめに対する自らの認識の高まりは、学校からいじめをなくすために探究的に学習してきた成果であると気付いている。 「探究的な学習の良さ」	①課題の解決に向け、何をするか、何のためにするかを意識し、解決の見通しをもっている。 「課題の設定」 ②課題の解決に必要な情報を収集し、情報を効率的に発信する手段を選択している。 「情報の収集」 ③いじめのない学校づくりについて、「何を題材にするか」「どの立場から伝えるか」「意味があるか」等、自分なりの根拠を見いだしている。 「整理・分析」 ④活動を通して学んだことを、相手や目的に応じて効果的に表現している。 「まとめ・表現」	①自分の特長や良さを理解するとともに、友だちの特長や良さを知り、大切にしようとしている。 「自己理解・他者理解」 ②いじめのない学校づくりを目的とした啓発活動を考える中で、互いの思いや考えを尊重しながら、協力して問題の解決に取り組もうとしている。 「主体的・協働性」 ③探究的な学習を通して、実社会や実生活の問題の解決に、自分事として取り組もうとしている。 「将来展望・社会参画」

5 指導と評価の計画(13 時間扱い)

学習過程	時間	ねらい(・) 学習活動(○)	評価方法		
			知	思	主
	0	○人権についてのアンケートを実施する。 ・人権への意識調査を行う。			
正しい知識を身に付ける。 (見いだす)	1	いじめについて正しく知ろう。 ○スクールロイヤーをゲストティーチャーとして呼び、いじめについて法的な観点から学習する。 ・いじめに関する正しい知識を得る。	② 発表		
	2	子どもの権利条約について知ろう。 ○日本ユニセフの方をゲストティーチャーとして呼び、子どもの権利条約について学習する。 ・子どもの権利条約によって、子どもたちも人権が守られていることを知る。 ・いじめから身を守るにはどうすれば良いか知る。	① 発表		
いじめの対策を考える。 (自分で取り組む)	3 4	いじめが起きた時は、どうすれば良いだろう ○いじめに関わる人(加害者、被害者、共謀者、傍観者)について、事例を通して、4つの役割を理解する。 ○それぞれの立場において、どのような行動が正しいか議論する。 ・いじめに対してどのような行動を取れば良いか考え、具体的な対応の仕方をイメージする。	① 発表	② ワークシート	
	5	自分の思いをうまく伝えるには、どうすれば良いだろうか。 ○事例をふまえ、自分の思いの上手な伝え方を考える。 ・柔らかな言葉を使って伝えることの大切さを理解する。		① ワークシート	① 行動観察
身近な人権問題を伝える。 (広げ深める)	6 本時	いじめのない学校づくりのために、子どもたちにできることを考えよう。 ○いじめの防止・解決に向け、自分の思いを伝え合い、自分から行動しようとする意欲と実践力を養う。 ・伝えたい内容を話し合う活動を通して、子どもたちが何を問題視するべきか考えさせる。		③ 発表 ワークシート	② 発表 行動観察
	7 8	学んだことを伝えるための活動をしよう。 ○人権問題が伝わるように、動画、ポスター、などの方法を		④ ワーク	② ワーク

	9 10 11 12	子どもたちで考え、準備する。 ・グループ活動を通して、仲間と上手く関わることを学ぶ。 ・これまでに学習したことを生かして、いじめ問題について考えたことを表現する。		シート 行動 観察	シート 行動 観察
学習を 振り返る。 (まとめ あげる。)	13	準備した方法を実践し、学習を振り返ろう。 ○チームごとに分かれ、準備した方法を実践する。 ○学習を通して、考えたことや、自身の変容について、ワークシートに考えをまとめる。 ・これまでの学習を振り返り、いじめに対しての自分の考えを、はっきりともつ。	① ワーク シート		

6 人権教育上のねらい(子ども)

人権尊重の立場で考え、身の回りで起きているいじめに気づき、解決しようとする態度を養う。

7 人権教育上の視点

- (1) いじめの原因や構造、いじめが起こらないようにするには、どのように対応すべきか理解する。(知識)
- (2) いじめを自分の問題として捉え、いじめをなくそうとするとともに、自分や他者の良いところを見つけようとする意欲を高める。(価値・態度)

8 本時の指導(6/13)

(1) 本時の目標

- ・学習してきたことを生かして、いじめをなくすための取り組みを考えることができる。
(思考力、判断力、表現力等)
- ・話し合い活動を通して、互いの思いや考えを認め合い、協力して活動に取り組もうとする。
(学びに向かう力、人間性等)

(2) 展開

時配過程	学習活動と内容	指導・支援(○)と評価(◇)	備考
見 い だ す (10分)	1 本時の課題を確認する。	○5年生だけが「いじめ」について学べば、いじめのない学校になるのか問いかける。(目的意識) ○伝える相手を確認させる。(相手意識)	
	いじめのない学校づくりのために、学んだことを伝えよう。(課題) 2 学習したことを振り返る。 ・どのようなことが「いじめ」となるのか。 ・いじめは、被害者、加害者、共謀者、傍観者で構成されている。 ・傍観者も、直接的にいじめをしていなくも加害者側に分類される。 ・いじめは、時には命を奪う行為である。	○これまでの学習を振り返り、本時の見通しをもたせる。	

まとめあげる(5分)	いじめをなくすためにはどんなことを伝えれば良いか(問題)		
	3 自分の考えをもつ。 (1) 身近にどのようないじめ問題があるのか、ありそうなのかを考える。 ・無視 ・仲間外れ ・物を取られる ・1対多数で責める ・暴力、暴言 (2) (1)にあがったいじめはなぜ起こるのかその要因を考える。 ・気持ちのすれ違い ・伝え方 ・思い込み ・〇〇が嫌だから (3) ここまでの学習を通してどんなことを伝えたら良いかを考え、自分の伝えたいテーマを1つに決める。 (4) 全体でテーマを共有する。 黒板にネームマグネットを貼り、自分や友だちの選んだテーマを確認する。 テーマ毎に根拠を発表する。 自分のテーマを再考する。 4 今日の学習をふり返る。 ・学んだこと ・新たに気づいたこと ・これからに活かしたいこと 5 次回の課題を提示する。	○経験したことや見かけたことがあることなど、生活の中でありそうなのがないか考えるように促す。 ○考えを発表させ、全体で共有する。 ○自分がそのテーマを選んだ根拠を明確にさせる。(ただやりたいという理由ではなく、動機をはっきりさせる。) ◇学習してきたことを生かして、いじめをなくすための取り組みを考えることができる。〈発言〉(思考・判断・表現) ○視覚的に自分のテーマがわかるようにさせる。 ○友だちの根拠を聞き、より良い意見がないかを考えさせる。 ◇話し合い活動を通して、互いの思いや考えを認め合い、協力して活動に取り組もうとする。 〈発言〉 (主体的に学習に取り組む態度) ○本時の学習と次時の学習とのつながりを確認させ、見通しをもたせる。	ワークシート

(3) 板書計画

学 いじめをなくすためには
どんなことを伝えれば良いか。

身近ないじめ問題の例
無視 仲間外れ 物をとられる
一対多数で責める 暴力・暴言 など

なぜ起きる？

原因

気持ちのすれ違い

ネームマグ

思い込み

ネームマグ

言い方

ネームマグ

嫌だから

ネームマグ

★自分の伝えたいテーマを決めよう。

わたしは が原因で起こる
いじめについて伝えたいです。

なぜなら、 からです。

ふ ・実際に知っているテーマで伝えたいと思った。
・どんな方法で伝えたら良いかをしっかり考えた。

1 単元名 認めよう 伝えよう ありのままの自分

2 単元について

(1) 単元観

日本は男女格差が大きい国の一つである。なぜ男女格差が生まれてしまったのか。内閣府の男女共同参画局の世論調査（令和4年11月）によると、男女格差が生まれた原因として「男女の役割分担についての社会通念・習慣・しきたりなどが根深いから」と考えている人が多いという結果が出ている。また、日本社会全体で「男性と女性は平等である」と答えた割合は全体で21.2%である。

文部科学省では「人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕（平成20年3月）」において、人権教育の目標を「一人ひとりの児童生徒がその発達段階に応じ、人権の意義・内容や重要性について理解し、〔自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること〕ができるようになり、それが様々な場面や状況下での具体的な態度や行動に現れるとともに、人権が尊重される社会づくりに向けた行動につながるようにすること」と定めている。

本単元は、本校の学校目標である「人間性豊かなたくましい子どもの育成」、学校グランドデザインのの中にある「一人ひとりの特性を認め、生かすこと」という指導の重点の実現を目指している。これを達成するために、千葉県教育委員会が掲げた様々な人権課題の中の「性的指向及び性自認」を扱い、現代社会の課題に目を向けさせて、視野を広げるとともに、それらの課題を自らの問題として捉えさせ、身近な課題から取り組むことによって、それらの解決につながる新たな価値観や行動を生み出すことができるような課題を取り入れていく。

こうした背景から「一人ひとりが輝き、生活しやすい学校にするにはどうしたら良いだろうか」という探究課題を踏まえて構想した単元である。本単元の学習を通して、児童一人ひとりが人権課題についての理解を深めるだけでなく、自らのくらし方や生き方と重ね合わせ、具体的な行動につながる学習活動を展開したい。そして、それぞれの個性を認め合うことの大切さに気付かせたい。

(2) 児童の実態（172名・％）

学校で行った人権アンケート

	質問	とても そう思う	そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない
1	あなたは、「自分の気持ち」を大切にしていますか。	37	51	5	0
2	あなたは、「自分の良いところ」がわかっていますか。	37	35	19	1
3	あなたは、自分が「友達や周りの人から大切にされているな」と感じますか。	37	45	9	1
4	あなたは、「友達の気持ち」を大切にしていますか。	52	40	0	1
5	あなたは、友達や地域の人に、自分からあいさつしていますか。	30	44	17	2
6	あなたは、「友達や地域の人と、楽しくかかわりたい」と思っていますか。	53	33	5	2

7	あなたは、下の中で説明できる人権問題がありますか。説明できるものを全て選びましょう。	子どもの人権	お年寄りの人権	障害のある人の人権	外国人に対する差別
		7 4	2 7	4 8	4 2
		病気の人への差別	性別の悩み	住んでいる場所の差別	どれも知らない
		2 6	3 3	3 0	1 3
		その他 2			
8	あなたは、人がいじめをしている場面を見たとき、どのような行動をしたいと思いますか。	いじめている人を注意する	いじめられている人を助ける	先生に相談する	家族に相談する
		2 1	1 6	3 0	5
		友達に相談する	何もしない	その他 3	
		1 0	8	・励ます ・1～3人なら止めないけど大勢なら止める	
9	8の質問で「何もしない」を選んだ人に聞きます。どうしてそう思いますか。	自分がいじめられるかもしれないから	良い恰好していると思われるから	どうすればいいかわからないから	自分とは関係ないから

ジェンダーに関するアンケート

	質問	とても そう思う	そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない
1	ジェンダーに関する言葉を聞いたことがありますか。(ジェンダー平等・ジェンダー・バイアスなど)	4 3	4 7	7	3
2	「ジェンダー問題」に対して、関心を持っていますか。(ジェンダー問題:ジェンダー(社会的、文化的に作られる性別)の意識によっておこる問題。例えば、性別によって教育や社会において差別が起こること。)	1 7	6 0	1 8	5
3	ふだん生活する中で、「男らしさ」「女らしさ」を求められたことがありますか。	5	1 6	5 3	2 6
4	3であると答えた人に聞きます。それはどんなことですか。	スカートは女の子等			
5	「男だから」「女だから」などの言葉を聞いた時、「男や女で区別するのはおかしいんじゃないか」と感じたことはありますか。	3 8	4 4	1 1	1

今回の学校で行った人権アンケートでは2. 自分の良いところがわかる、5. 地域の人や友達と関わりを持つこと、8. いじめを止めるために行動できるかに課題があった。特に、8. いじめを止めるために行動できるかというアンケートでは、他学年よりも「できない」と答えた児童の割合が多い。理由として「自分と関係がないから」という理由を選択している。自己肯定感が低く、自分を認めることができないので、いじめを止めるなど自分の行動に自信をもてないのではないかと考えられる。

本学年は、活発な児童が多く、どの教科においても意欲的に学習に臨んでいる。友達と交流することを好み、学習の中で意見を共有する際には、教室内を歩き回り時間いっぱい自分の意見を友達

に伝えようとする姿が見られる。その一方で、異性と隣の席になることに抵抗を感じたり、異性と話している友達を冷やかしたりする児童も少なからずいる。学習内で挙手する児童を互いに指名する場面では、男子は男子、女子は女子を指名することが多く見られる。このような実態を踏まえると、男女分け隔てなく接することに抵抗があり、思い込みで行動している児童が少なからずいることがわかる。

学年で行ったジェンダーに関するアンケートでは2からジェンダー問題に関して関心がある児童が多かった。また、アンケート5から家庭や習い事の中で「男だから」「女だから」と言われた経験がある児童がいた。そこで、社会のジェンダー問題に目を向け、多様性の理解について知る機会を作っていく。誰もが人と違う部分をもっていることを知ることで、互いの違いを理解することにつなげたい。そして、人によって当たり前は異なることやそれぞれの当たり前を強制することはできないこと、当たり前を個性として認め合い受け止める姿勢が大切であることに気づかせたい。

本単元では、ジェンダー・バイアス（無意識の思い込み）について学び、思い込みや無意識に差別することを防ぐために発信することを学習の活動として設定する。「性」という大きな括りから「無意識の思い込み」という身近にありうる問題に焦点を絞ることで、「人権問題」をより身近に感じ、自分の問題として捉えることができるようになる。また、管理職や保護者、地域へ向けてのスピーチ、パンフレットを作成する活動を通して、自己の生き方をふり返ろうとする姿勢や周囲の人への接し方を考えようとする姿勢を大切にするとともに、自分らしさや友達の良さを探そうとする機会にしたい。

(3) 指導観

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①ジェンダー・バイアスについて理解する。 「概念的な知識」 ②身の回りに起こっている人権問題を捉えるために必要な情報を的確に記録することができる。 「技能」 ③人権課題に対する認識や自身の資質・能力の変容、学習と生活とのつながりなどを、探究的に学習してきたことと結び付けて理解する。 「探究的な学習の良さ」	①個別の人権課題のうち、関心をもったものを取り上げ、解決に向けた見通しをもつことができる。 「課題の設定」 ②課題の解決に必要な情報を多様に収集し、種類に合わせて蓄積することができる。 「情報の収集」 ③収集した情報の共通点と相違点を明らかにすることで、特徴を見つけることができる。 「整理・分析」 ④活動を通して学んだ自らの思いや探究的な活動による自己の変容などをまとめて表現することができる。 「まとめ・表現」	①探究的な活動を通して、異なる意見や他者の考えを受け入れて尊重しようとする。 「自己理解・他者理解」 ②自分と違う考えや意見をもつ相手のことを認め、その良さを生かしながら協働して学び合おうとする。 「主体性・協働性」 ③探究的な学習を通して、進んで実社会や実生活の問題の解決に取り組もうとする。 「将来展望・社会参画」

(4) 仮説との関連

研究仮説

- ①自分の良さに気づき、自分を大切にすることが育てば、自分とは異なる他者の特性も認められるようになり、人権意識の高揚につながるだろう。
- ②地域や外部の方々など、異年齢の方との交流活動や体験活動を行うことで、自分の良さに気づききっかけとなり、また他者との関わりについて考えを深めることができるだろう。
- ③各学年で焦点化した「人権課題」に取り組む「学習プログラム（年間指導計画）」を作成することで、6年間を通して段階的に視野を広げながら、人権についての学びを深めていくことができるだろう。

《6学年の目指す児童像》

- ・人権尊重の立場で考え、身の周りで起こっている差別等に気づき、解決しようとする児童

《6学年の具体的な手立て》

- ・人権タイムや道徳の学習の中で、自他の相違や良さを認め合える場面を多く設定する。
- ・周りの人とともにより良く生活するために学級全体での話し合い活動を通して、たくさんの友達の考えに触れる。
- ・ジェンダー・バイアスについて考えたり、LGBTQのゲストティーチャーの話を聞いたりすることで、多様性への理解を深める。
- ・特別活動や図画工作の中で、自分の将来の職業について考える機会を設ける。

3 単元の目標

ジェンダー教育に関する講演会への参加や映像資料を視聴し、身の回りにあるジェンダーギャップについて調べたり、学校や地域にあるジェンダーギャップをなくすために発表原稿や資料、パンフレットを作成したりする活動を通して、偏見や差別の不合理性に気づき、それらをなくすためにできることがあるか積極的に考えるとともに、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①ジェンダー・バイアスについて理解している。 「概念的な知識」	①個別の人権課題のうち、関心をもったものを取り上げ、解決に向けた見通しをもっている。「課題の設定」	①探究的な活動を通して、異なる意見や他者の考えを受け入れて尊重しようとしている。 「自己理解・他者理解」
②身の回りに起こっている人権問題を捉えるために必要な情報を的確に記録している。 「技能」	②課題の解決に必要な情報を多様に収集し、種類に合わせて蓄積している。 「情報の収集」	②自分と違う考えや意見をもつ相手のことを認め、その良さを生かしながら協働して学び合おうとしている。 「主体性・協働性」
③人権課題に対する認識や自身の資質・能力の変容、学習と生活とのつながりなどを、探究的に学習してきたことと結び付けて理解している。 「探究的な学習の良さ」	③収集した情報の共通点と相違点を明らかにすることで、特徴を見つけている。 「整理・分析」	③探究的な学習を通して、進んで実社会や実生活の問題の解決に取り組もうとしている。 「将来展望・社会参画」
	④活動を通して学んだ自らの思いや探究的な活動による自己の変容などをまとめて表現している。「まとめ・表現」	

5 指導と評価の計画（10時間扱い）

学習過程	時間	ねらい（・）学習活動（○）	評価方法		
			知	思	主
	0	○人権についてのアンケートを実施する。 ・人権への意識調査を行う。 ※6月実施			
性別によって偏見や思い込みがあることを知ろう。 （見いだす）	1	身の回りにあるジェンダー・バイアスを探そう。 ○「男らしさ」「女らしさ」について考える。 ・男性と女性に対する偏見や思い込みについて話し合い、日常的に存在していることを気付かせる。	① ワークシート		
	2 本時	職業のジェンダー・バイアスについて考えよう。 ○ジェンダー・バイアスについて考える。 ・職業によって、無意識に性別のイメージをもっていることに気付かせる。		① 発表 ワークシート	② 発表
	3	自分らしさを生かして働いている方の話を聞こう。 ○ゲストティーチャーの話を聞き、LGBTQについて知る。 ・性は「からだの性」「こころの性」「好きになる性」「表現する性」の4つの要素から表されていることを知らせる。			① 行動観察
どのようなことがジェンダーギャップなのか考えよう。（自分で取り組む）	4	ジェンダー・バイアスのない学校・地域づくりのために、どのようなことを伝えたら良いか考えよう。 ○誰に、どのような形で伝えることが有効か考える。 ○ジェンダー・バイアスの解決に向け、自分の思いを伝え合い、考えをまとめる。 ・自分から行動しようとする実践意欲と態度を育てる。 ・伝えたい内容を話し合う活動を通して、自分たちが何を問題視するべきか考えさせる。		② ワークシート	
身近な人権問題を伝える準備をしよう。（広げ深める）	5 ～ 8	考えたことを伝える準備をしよう。 ○発表のしかたを考える。 ・既習の頭括型、尾括型、双括型から、より伝わりやすい構成を考えさせる。 ○原稿や資料、パンフレットを作成する。 ・主張に説得力をもたせるために、資料を作成する。 ○作成した原稿や資料、パンフレットを見返し、知らせたい情報が伝わるか確かめる。 ・見返す際の視点を伝え、視点に沿って確かめる。		③ ワークシート	

考えたことを伝えよう。 (まとめあげる。)	9 ～ 10	ジェンダー・バイアスのない学校・地域づくりのために、考えたことを校長先生たちに伝えよう。 ○流山小学校にあるジェンダー・バイアスをなくすために、校長先生に問題点と改善点を伝える。 ・自分たちが困っていたことが、今後改善されるよう思いを伝える。 ○学習したことをもとに、ジェンダーについて自分たちはどうしていきべきなのか考える。	③ ワーク シート	④ ワーク シート	③ 行動 観察
		○全校朝会で管理職に伝えている場面を一部流し、全校児童に活動報告をする。 ○市役所にコーナーを作っていただき、作成したパンフレットを置く。 ○感謝の集いで保護者の方へ発表する。			

6 人権教育上のねらい（性的嗜好、性自認）

人権尊重の立場で考え、身の回りで起きている差別等に気づき、解決しようとする態度を養う。

7 人権教育上の視点

- (1) 互いの違いやその人らしさを認め、「多様な性の在り方」に関心をもち、誰もが多様な性のどこかに位置付いていることを理解する。(知識)
- (2) 「自分らしさ」を大切にしながら、他者と認め合い生きていくことができる力を高める。(技能)

8 本時の指導（2/10）

（1） 本時の目標

- ・職業によって、無意識に向いている性別はどちらか決めつけていることに気付くことができる。
(思考力、判断力、表現力等)
- ・話し合い活動を通して、自分と違う考えや意見をもつ相手のことを認め、その良さを生かしながら協働して学び合おうとしている。
(学びに向かう力、人間性等)

（2） 展開

◎人権教育上の配慮

時配過程	学習活動と内容	指導・支援（○）と評価（◇）	備考
見 い だ す (5分)	1. 既習学習を思い出し、ジェンダー・バイアスについて確認する。	○「男らしさ」「女らしさ」の学習を思い出させる。	
	2. 学習課題を確認する。		
	職業のジェンダー・バイアスについて考えよう。		
自 分 で 取 り 組 む (7分)	3. 職業ごとの男女比を見て、何の職業か考える。 ・女性が多いから、幼稚園の先生かな。 ・男性が多いから、力仕事のイメージがある消防士かな。 ・どちらもバランスよくいるから、学校の先生かも。	○いくつかの職業に対するイメージやその理由を全体で考え、一人で考える見通しをもたせる。 ○「良い」「悪い」ではなく、率直なイメージを記入させる。	ワー ク シ ー ト
	4. 班ごとに職業のイメージを共有する。 ・職業によっては、もっているイメージがみんな同じ。 ・無意識のうちに、偏ったイメージをもっている人が多い。	◎話し合いの約束を確認し、お互いの意見を聞き合う雰囲気をつくる。 ◇職業によって、無意識に向いている性別はどちらか決めつけていることに気付いている。(思考力・判断力・表現力等) 〈発表・ワークシート〉	
広 げ 深 め る (25分)	5. 話し合ったことを全体で共有する。	○イメージが偏りそうな職業をいくつか取り上げ、仕事についてもっているイメージが、ジェンダーにとらわれていることに気付かせる。 ○日常の中で当たり前だと思っていたことが、ジェンダーの観点から見るとおかしいことに気付かせる。 ◇話し合い活動を通して、自分と違う考えや意見をもつ相手のことを認め、その良さを生かしながら協働して学び合おうとしている。(学びに向かう力・人間性等) 〈発表〉	

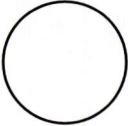
まとめあげる (8分)	6. 学習したことをまとめる。 ジェンダーを気にせず、自分らしさが 発揮できる職業に就くと良い。 7. 振り返りをする。	○児童の言葉でまとめるようにする。 ○ジェンダーにとらわれず、自分らしく生きていくことが大切であることをまとめさせる。 ○視点に沿って振り返るように促す。 ○振り返りから、本单元のおおまかな見通しをもたせる。	
----------------	--	--	--

(3) 板書計画

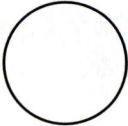
認めよう 伝えよう ありのままの自分

職業のジェンダー・バイアスについて考えよう。

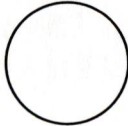
幼稚園の先生



消防士



学校の先生



他の職業には、どのようなイメージをもっているだろう。

女性	男性	どちらでも

ジェンダーを気にせず、自分らしさを大事にする。

【 令和5・6年度 ご指導いただいた先生方 】

千葉県教育庁

教育振興部 児童生徒安全課 人権教育班 指導主事兼班長

井上 明人 様

千葉県教育庁

教育振興部	児童生徒安全課	人権教育班	指導主事	石橋	一展	様
東葛飾教育事務所	指導室	指導主事		染野	洋子	様
東葛飾教育事務所	指導室	指導主事		北山	佳祐	様
流山市教育委員会	指導課	指導主事		溝井	隆之	様
流山市教育委員会	指導課	指導主事		鳴瀬	史佳	様
流山市教育委員会	指導課	指導主事		桐生	貴博	様
流山市教育委員会	指導課	指導主事		坂本	真弓	様

【 令和5年度職員 】

校長 安藤あゆみ 教頭 秦剛一 副見英子 教務 引地建太

研究主任 廣澤謙 研究副主任 向山ひかる 相馬楓

岸菜穂子	吉田莉奈	<u>齊藤京子</u>	八木田真衣	田地野彩佳
中蔦恵子	畠山美月	<u>中野真由</u>	田倉日向多	成澤昭子
若林あすか	高世大成	小野寺芽衣	<u>小岩井宏美</u>	大関陽菜
及川茉莉枝	斉藤美恵子	<u>佐藤太軌</u>	高森さくら	<u>加賀谷真</u>
長谷川華歩	戸叶菜々美	小松崎幸弘	鈴木泰介	<u>安達玲子</u>
藤田和泉	大倉瑛子	小平慎	山田夏美	菅慎一郎
<u>坂寄宏子</u>	近藤大和	庵崎紀子	戸田さやか	加藤理恵
坂本奈保美	重松麗子	日坂朝子	<u>平塚智子</u>	浅井あずさ
高橋莉菜	熊井けい	須合伸行	川岸歩子	春日佳代
小林ちひろ	稲垣宏美	青柳徳子	高橋宏文	廣川雄大
渡辺真由美	染谷眞智子	楠本信子	上原和浩	福井宏至
野崎肇子	安藤めぐみ	高浦五美	吉野郁子	河野倫子
小林純子	伊藤園	村田真琴	吉山木綿子	ローソンイヴォンヌ
北香苗	渋谷富士美	石川優子	真中府美子	水嶋真理子
福本恵子	藤森利恵	星野貴美子	石川恭子	関川裕子

【 令和6年度職員 】

教頭 岩橋 由香里

堀野あや子	平野敦子	鶴宮京	清水千嘉	高橋丈
山下由晃	本田海里	水柿満理奈	富山和子	坂口亜仁華
<u>長谷部雅人</u>	小出隼也	山口祐	青山知美	里村紀明
平山雅樹	木佐貫武志	高橋美環	加藤亜紀子	竹味節子
佐藤真菜	伊藤尚美	吉山木綿子	須藤聖子	杉原正章

(下線は研究推進委員)